

高知県立大学  
University of Kochi

# 社会福祉学部報

Bulletin of Department of Social Welfare

第25号  
2023年

(2022年度自己点検評価資料)

高知県立大学社会福祉学部

〒781-8515 高知市池2751-1

Tel 088-847-8700 (大学代表)

Tel 088-847-8757 (学部代表)

Fax 088-847-8672 (学部専用)

<http://www.u-kochi.ac.jp/>



# 教育目的・3つのポリシー

## 【教育研究上の目的】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を育成することを目的とする。

### (1) 地域・家族のもつ福祉課題への対応能力の養成

ノーマライゼーションを基本的視点として、人権を基礎とする福祉理念を理解させる。また、多様化・複雑化する福祉ニーズに対応するために、これまで地域や家族が補完しあいながら担ってきた機能を再編成し、これを支援していく能力の開発が求められている。こうした問題に対応できる専門的知識を身に付けさせる。

### (2) 社会福祉実践能力の養成

各種の福祉ニーズに対応できる専門的技能を修得し、科学的な根拠に基づく主体的な福祉援助を実践しうる能力を養う。

### (3) 保健・医療・福祉の効果的な連携をめざした社会福祉専門職の養成

高知県において急速に進行している少子・高齢化問題に対応するため、保健・医療・福祉の効果的な連携を図ることとし、そのために必要な専門的知識を有し、福祉援助を可能とする社会福祉専門職を養成する。

## 【ディプロマ・ポリシー】

共生社会を志向する市民としての素養を基礎に、社会福祉専門職として必要な価値・知識・技術を獲得することを目指し、以下の各項目における能力を身につけた者に学士の学位を授与する。

### (知識・理解)

- 1 現代社会で暮らす人々のニーズに対応する幅広い教養を基盤として、社会福祉の専門的知識を体系的に理解することができる。
- 2 人々の生活を人間と環境の両側面から理解し、個々におかれている状況から普遍的な福祉課題までに対応する実践的な知識を身につけている。

### (汎用的・実践的技能)

- 3 多様化・複雑化する福祉ニーズを科学的視点で捉え、個人が抱えている課題を社会との関係において把握することができる。
- 4 コミュニケーションスキルを用いて、福祉課題の解決に必要な情報を収集・分析し、複眼的・論理的に検討したうえで、課題解決の方策を提案することができる。

(態度・志向性)

- 5 社会の一員としての意識を持ち、義務と権利を適正に行使しつつ、人々の生活の安寧と質の向上に貢献することができる。
- 6 ノーマライゼーションを基本的視点として、人権や社会正義の観点から福祉課題に主体的に対応する志向性を身につけている。

(総合的な学習経験と創造的思考力)

- 7 個人の尊厳と福祉理念を重視し、権利擁護に向けた支援を創造的・科学的に展開することができる。
- 8 総合的な視野を持って、保健・医療・福祉の専門職と連携しながら社会福祉を実践することを通して、専門職としての自己の成長を追求することができる。

## 【カリキュラム・ポリシー】

社会福祉学部では、ディプロマ・ポリシーを達成するために、「共通教養教育科目」と「専門教育科目」を置く。

### 1 共通教養教育科目

- (1) 共生社会の市民の素養を身につけるため、コミュニケーションスキル（リテラシー科目）、諸科学の基本的な知識（教養基礎科目）、地域社会や国際社会の課題（課題別教養科目）、生涯にわたる健康の維持・増進のための知識・技能（健康スポーツ科目）、地域課題への実践的取り組み（域学共生科目）を学ぶ科目群を設置する。
- (2) 英語コミュニケーションは1、2年次必修とし、域学共生科目中の基礎的科目は必修、応用的科目は選択とする。他の科目は各自の興味・関心に応じて選択して履修させる。
- (3) 可能な限り少人数で、アクティブラーニングの手法を取り入れ、個々の科目の特性や内容に応じた多様な形式で授業を実施し、きめ細かな学修評価を行う。

### 2 専門教育科目

(カリキュラムの構造・教育内容)

専門教育科目については、相談援助を基礎として、介護福祉や精神保健福祉分野にも関連する人権や社会正義の価値に裏打ちされた社会福祉学の専門的及び実践的な知識・技術を修得するために11科目群を設定している。科目群を構成する科目については、基礎から応用・発展段階へと連続的に配置している。

基礎段階では、11科目群のうち、「基本科目」・「社会福祉制度科目」・「からだとこころの理解科目」を置いている。基礎及び応用段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク基礎科目」・「介護福祉理解科目」を置いている。加えて応用段階では、科目群として、「地域・国際福祉科目」・「社会復帰支援科目」を置いている。応用及び発展段階に属する科目群として、「ソーシャルワーク実践科目」・「介護福祉実践科目」・「精神保健福祉実践科目」・「総合科目」を置いている。

(履修方法・順序)

基礎段階の科目は、主に1～2年次に履修する。応用段階の科目は、主に2～3年次に履修する。発展段階の科目は、主に3～4年次に履修する。また、社会福祉領域における

相談援助に必要な知識と技術を担保する前提となる資格として、社会福祉士国家試験受験資格を位置づけており、加えて、希望により介護福祉士国家試験受験資格又は精神保健福祉士国家試験受験資格も取得することができる。

#### (教育方法)

各科目については、事前・事後課題、グループ討議、リアクションペーパーなどを取り入れ、アクティブラーニングを重視した教育方法により展開する。特に応用段階及び発展段階の各科目では、基礎段階で学んだ知識・技術を定着・深化させ、専門職としての社会福祉実践に求められる総合的な知識・技術や社会福祉学を探究する力を身につけるために、少人数での演習・実習形式を積極的に取り入れる。

#### (評価)

学部のディプロマ・ポリシーに基づいて各授業科目の具体的な到達目標を定め、成績評価の基準・方法と共に学生に周知している。各段階及び各科目の特性に応じた多面的な評価方法を取り入れ、社会福祉専門職にふさわしい資質能力を獲得できたかについて、科目ごとに定める評価項目と基準に沿った成績評価を行う。さらに学生による教育に関する評価結果に基づいて、カリキュラムの改善を図り、教育の質の保証を行う。

## 【アドミッション・ポリシー】

社会福祉学部は、福祉の現代的課題に対応する、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教授研究することにより、共感する心と豊かな人間性をもって、社会生活で生じるさまざまな問題に主体的に対応できる福祉的実践能力を修得させ、社会の幅広い分野で福祉の向上に寄与できる有為な人材を養成します。

したがって、社会福祉学部では、次のような人を求めています。

### 求める学生像

- 1 高等学校等で学ぶ基本的な科目の学力有する人〔知識・教養〕
- 2 人に対して関心を持ち、協調性を大切にして柔軟に行動できる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 3 自ら行動することによって、課題の発見や分析を行うことができる人〔思考力・判断力・表現力〕
- 4 地域や家族の福祉課題に关心を持ち、その解決方法を学びたい人〔熱意・意欲〕
- 5 他者と協働して、人々の生活を支え、よりよい地域社会を創造したい人〔熱意・意欲、主体性・協働性〕

### 入学者選抜の基本方針

社会福祉学部が行う入学者の選抜方法には、一般選抜（前期日程・後期日程）、学校推薦型選抜（県内・全国）、社会人選抜、私費外国人留学生選抜があります。

#### ・一般選抜（前期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、課題図書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断す

る観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・一般選抜（後期日程）

基礎学力の把握のため、学部が指定する大学入学共通テスト教科・科目を課すとともに、個別学力検査等では面接を行います。面接は、自己PR書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書も参考にして質問します。

- ・学校推薦型選抜（県内・全国）

校長が推薦する者を対象として、調査書により基礎学力を評価するとともに、当日指定するテーマに関するレポート及び集団討論、面接を行います。レポートでは、知識、思考力、表現力等を評価します。集団討論では、主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度等を評価します。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。面接者は、調査書・志望動機書・推薦書も参考にして質問します。

- ・社会人選抜

社会人の経験を有する者を対象として、小論文と面接を課します。小論文では、社会福祉学部で学ぶ上で必要な理解力、論理的思考力、文章表現力及び英文読解力等、高等学校等での学習を前提にした基礎的な学力を総合的に評価します。面接は、志望動機書及び履歴書を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

- ・私費外国人留学生選抜

日本国籍を有しない者を対象として、日本留学試験の日本語と総合科目を課すとともに、面接を行います。面接は、志望動機書の内容を中心とした個別形式で行います。面接では、社会福祉への熱意・意欲や日本語によるコミュニケーション能力を探り、社会福祉を学ぶ上での適性を判断する観点から、受験者の思考力・判断力・表現力等の様々な能力を総合的に評価します。

# 目 次

## I. 2022年度を振り返る

1. 2022年度 社会福祉学部活動概括 (PDCA) .....	1
2. 課題と対応 .....	3
3. 2022年度 社会福祉学部の主要行事 .....	6
4. 2022年度 社会福祉学部時間割 .....	7

## II. 社会福祉学部教員の教育研究活動（教育研究活動報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧 (2022年度) .....	9
1. 杉 原 俊 二 .....	11
2. 田 中 き よ む .....	14
3. 長 澤 紀 美 子 .....	18
4. 西 内 章 .....	21
5. 宮 上 多 加 子 .....	24
6. 横 井 輝 夫 .....	26
7. 遠 山 真 世 .....	28
8. 西 梅 幸 治 .....	30
9. 福 間 隆 康 .....	33
10. 加 藤 由 衣 .....	35
11. 河 内 康 文 .....	37
12. 辻 真 美 .....	39
13. 行 貞 伸 二 .....	41
14. 稲 垣 佳 代 .....	43
15. 大 熊 絵 理 菜 .....	45
16. 片 岡 妙 子 .....	47
17. 田 中 真 希 .....	49
18. 玉 利 麻 紀 .....	51
19. 福 田 敏 秀 .....	53

### III. 社会福祉学部教員の委員会活動（委員会活動年度報告書）

社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧（2022度）	55
1. 教務委員会	56
2. 入試委員会	58
3. 学生委員会	60
4. 実習委員会	61
5. 就職委員会	63
6. 広報委員会	64
7. 介護人材確保部会	65
8. キャリア支援委員会	71
9. 健康長寿センター	74
10. 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会	75
11. 災害対策プロジェクト	79
12. 総務・予算委員会	81
13. 国試対策支援委員会	82

### IV. 学生を中心とした活動

1. 国家試験に向けての取り組み	84
2. Pシスターズ	85
3. 池手話サークル	86
4. イケあい	87
5. かんきもん	88
6. Society For Everyone	89
7. 新型コロナウイルス感染症の影響	90

### V. 卒業論文題目一覧（2022年度）

#### 編集後記

# I

2022年度を振り返る



# 2022年度 社会福祉学部活動概括 (PDCA)

学部長 長澤 紀美子

## 1. 学部の組織・教員体制

2020年度末1名、2021年度末3名、及び2022年度9月に1名(大松准教授)の退職により、4月時点で20名、10月以降は定数より5名減の19名で運営(職位構成:教授6名、准教授4名、講師3名、助教6名)。

担当分野の構成:福祉基礎4名、社会福祉8名、介護福祉5名、精神保健福祉2名。

定年退職者の後任も含め、6名の公募人事を行い、R5年度より3名を採用、1名昇進。

## 2. 教育(専門教育の質の向上に資する活動)

### (1) 目標

①R3年度からの新カリキュラムに対応し履修モデルや実習に係る課題を整理する。

②学部専門科目における学習成果の可視化を進め、教育の質を維持する。

③国試対策を強化し、3福祉士の国家試験の合格率の向上に繋げる。

### (2) 実施状況&(3)評価

①履修モデルの微調整、ソーシャルワーク実習の教育内容やプログラムを見直した。

②ディプロマポリシーとカリキュラムポリシーに基づいた学修成果の評価指標を作成し、指標に対応させた学習到達度評価アンケートを4回生に実施。これらのポリシーは、継続的に新年度の学部ガイダンス資料で周知。

4年間の学習成果である学習到達度アンケート(32項目4件法)において、「DPで目指す項目」では、最も高い4/高い3評価の合計は、令和2年度が97%、令和3年度が99%、令和4年度が97%。「4年間の学習についての満足度」項目では、最も高い4/高い3評価の合計は、93%であった。双方共にほぼ昨年と同様の高い数値を示している。また卒業研究のループリック評価(修正版)は、実際の成績評価との相関係数(r)が0.96(p=0.00)であり、妥当性が担保され、完成に近づいた。また「介護実習」にループリックの活用を広げ、実習指導者による評価の際に実習のループリックの試験的活用を試みた。

③国試対策として、支援委員会を中心に、4回生に国試オリエンテーションや個別面談、3回の模擬試験を実施。専任教員による国試対策講座9科目18講座及び、学生自身が企画する国試対策勉強会(2回)を実施し、40名が参加した。

### ※第22期生(22年度卒業生)の3福祉士合格率

- ・社会福祉士(昨年度より約20%UP) 54/62=87.1% (平均44.2%) [全国4位/46校\*] \*受験者50人以上/新卒
- ・精神保健福祉士(昨年度より微増) 16/17=94.1% (平均71.1%) [全国6位/34校\*] 受験者15人以上/新卒
- ・介護福祉士(100%を維持): 22期生14/14=100.0% (平均84.3%)

### (4) 次年度の目標

①新カリ完成年度での課題分析 ②社会環境の変化(DX化、グローバル化)に応じた今後のカリキュラムや教育内容の検討、CAP制見直しへの対応等

## 3. 研究(研究の質の向上に資する活動)

### (1) 目標:研究活動の活性化

### (2) 実施状況&(3)評価

・科研費を含む外部資金は学部教員の87.5%(対象教員18名中14名で計16研究課題)の研

## 2022 年度を振り返る

究代表者であり、高い水準を維持。2023年度科研費には8件応募、3件採択で採択率37.5%、2022年度は9件応募、4件採択で採択率44.4%（他に22~23文科省実践研究1件あり）。

- ・研究成果としては著書7編、査読付論文20編、その他論文等17編、学会発表等14件。
- ・『高知県立大学紀要(社会福祉学部編)』第72巻に7編掲載。
- ・学部FDを倍増（年間4→8回）し、内4回は研究に関するFD（研究申請書作成、英文ジャーナルへの投稿方法、研究倫理とリスクマネジメント、地域との共同研究）とし、教員の研究能力の向上を図った。教員の参加率は74~95%。

### （4）次年度の目標

研究の活性化を目的としたFDを継続的体系的に行い、共同研究の推進や、若手教員を対象とした研究支援体制の整備を進める。

## 4. 2023(R5)入試及び入試広報

### （1）目標：受験生確保及びそれに向けた入試広報の継続

### （2）実施状況&（3）評価

- ・4月に第25期生72名（県内出身27名、男子11名、私費外国人3名）が入学。
- ・学校推薦型選抜では、県内枠への志願者が18名（-5）で志願倍率0.9倍、全国枠は13名（-4）で1.3倍。県内・全国枠ともに出願者は昨年度より減少。
- ・一般入試の志願者数は、前期日程が78名（-92）で志願倍率2.2倍、合格倍率1.7倍、後期日程が68名（-42）で志願倍率13.6倍、合格倍率3.0倍。
- ・私費外国人入試に3名の応募、全員合格し入学者3名（韓国・中国・台湾）。社会人入試には出願者なし。

### （4）次年度の目標

- ・入試課と協力し、高校訪問を通した情報収集により要因を分析し、対策を検討する。
- ・対面及びHP上でR7年度からの配点変更や入試方法に関する情報提供を行う。HPにおいて卒業生の進路や福祉職の魅力について発信する。

## 5. 卒業生と就職・進路状況

・第22期生卒業生68名のうち就職希望者63名、内3月末までに就職決定63名（100%）

【医療機関9名（14%）、福祉施設等29名（46%）、社会福祉協議会12名（19%）、公務員等8名（13%）、一般企業5名（8%）】

## 6. 地域貢献活動・卒業生への支援

- ・Webオープンキャンパス（以下OC）として、社会福祉学部の紹介動画を作成し511回再生。11/3に学部OCを開催[オンライン参加20名（内高校生15名）、対面参加54名（内高校生36名）]。
- ・高知県との連携事業（補助金）として「高知県キャリア教育推進事業」を実施。7/23（WebOC兼）、9/23、11/3（学部OC兼）、3/22に開催した「高校生と保護者のための公開講座」に計291名参加。学部提案型出前講座を高知県内10校で実施、計286名参加。
- ・リカレント教育講座2講座を同日に遠隔配信し、併せて47人が参加（10/16）。
- ・卒業生に対する支援として実施している領域別リカレント研究会を4分野で実施し、のべ98名が参加（介護64、SW学習会11、SSW学習会11、児童福祉12）。／卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会（災害福祉）を実施し、101名が参加（11/10）。

## 7. 国際交流活動

- ・慶尚国立大学校（教員2、学生28名）が来学し、学部生と交流し、福祉現場を体験（11/24）。
- ・慶尚国立大学校との「オンライン交流会～越境する福祉の学び～」を開催し、韓国学生20名、本学学部生5名が参加し、教育プログラムや地域特性を互いに紹介（12/21）。

# 社会福祉学部 課題と対応

## 社会福祉学部自己点検評価委員会

### ① 学部の教員組織に関して

#### R5. 4. 1 時点の教員数

2020 年度末で准教授 1 名、2021 年度末で教授 1 名、准教授 1 名、助教 1 名、2022 年度前期末に准教授 1 名が退職し、定数より 5 名減の 19 名で 2022 年度は学部運営を行った。退職教授の後任も含め 6 名分の公募を行い、2023 年度より准教授 1 名、助教 2 名を採用できた一方、精神保健福祉 2 名及び医療福祉 I 名の後任教員は決定していない。

**対応**：後任の教員公募を継続し、R6 年度は 24 人の教員体制となるように採用人事を進める。

### ② 学部教育の充実

2021 年度入学生より新カリキュラムが導入され、2022 年度より社会福祉士の実習時間の増加と共に、それに対応したカリキュラムマップや学習到達度評価を用いて、年度毎のカリキュラム移行と学生の履修をスムーズに進める必要がある。

**対応**：

- 学部教務委員会および学年担当教員を中心に丁寧な履修指導
- 学習到達度調査の結果や国家試験の合格率等（入学試験時の情報も含む）の分析
- 卒業研究論文及び介護実習の修正版ルーブリックを用いた評価の実施。ルーブリック評価の対象科目や実習への適用の検討
- 2021 年度に開始した社会福祉士のソーシャルワーク実習 I の課題分析と対応
  - ❖ 学習到達度評価指標の分析と検討、カリキュラムの検討、新カリキュラムにおける DP, CP の確認

（令和 5 年度活動計画 No. 1, 2, 3, 4, 5, 9, 10）

### ③ 入試広報の充実と受験生の確保

全国的に社会福祉学系学部の志願者の減少、及び 18 歳人口の減少に伴う四国内大学進学者の減少。

学校推薦型選抜（県内・全国）、一般前期・後期共に志願者が大幅に減少。

**対応**：

（継続）

- 県内高校への入試広報：県からの委託事業の継続活用
- 中四国地域の高校に対する（ネット活用の）「出前授業」

（新規）入試広報プロジェクトチームを設置

- 県内高校・四国内高校訪問と進路指導教員からの情報収集、関係構築
- R7 年度からの配点変更の PR、卒業生の進路や福祉職の魅力についての発信
- 3（福祉士）コース以外の、資格取得を目標としないコースの設置の検討
- HP による推薦入試方法（集團討論）に関する情報提供

（令和 5 年度活動計画 No. 20, 21）

#### ④ 研究活動の活性化

R4 年度、科研費を含む外部資金は学部教員の 87.5%（対象教員 18 名中 14 名）が計 16 研究課題）の研究代表者であり、高い水準を維持。2023 年度科研費には 8 件応募、3 件採択で採択率 37.5%、2022 年度は 9 件応募、4 件採択で採択率 44.4%（他に 22~23 文科省実践研究 1 件あり）。一方で、科研費への応募者にやや偏りが生じております（2023 年度は 8 件応募、3 件受託）、2021, 2022 年度は学部長枠研究費及び学内公募の戦略的研究推進プロジェクトへの応募なし。

新型コロナウイルス感染拡大の影響により、対面での調査の困難や教育・実習負担の増加により、コロナ前と比較して学部教員の研究論文や学会発表数が減少している。

##### **対応 :** (継続及び新規)

###### 研究力向上のための FD 研修の継続

- 科研費等の外部資金獲得及び研究業績の向上（英文を含む論文執筆と採択を目指した応募、共同研究の活性化）のため、学部内での研究 FD 研修会を構造化して継続的に実施し、助教を含む若手教員への支援を引き続いて実施。
- 学部長経費枠の活用
- 大学内外の研究者、地域の専門職等との共同研究を支援
- 教員の研究成果を HP で発信

(令和 5 年度活動計画 No. 26, 27, 28, 31)

#### ⑤ 国際交流の活性化

2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大の影響下であるものの、韓国協定校との学部交流が活性化。

慶尚国立大学校（教員 2 名、学生 28 名）が来学し、学部生と交流し、福祉現場を体験（11/24）。／慶尚国立大学校との「オンライン交流会～越境する福祉の学び～」を開催し、韓国学生 20 名、本学学部生 5 名が参加し、教育プログラムや地域特性を互いに紹介（12/21）。

私費外国人留学生は継続して入学（R5 年度 3 名）⇒留学生の母語・文化を紹介する教育や、留学生の確保の増加に向けた取組の必要性

##### **対応 :**

- 学生のグローバルな視点を涵養するために、学部専門教育科目の中で国際福祉に関する内容や科目の増加に向けた検討
- 協定校（韓国慶尚国立大学校）への短期派遣研修の学部主催の実施、単位互換を含む教育の交流及び教員の共同研究についての検討を開始。

(令和 5 年度活動計画 No. 14)

#### ⑥ 卒業生へのキャリア支援及び福祉専門職に対する生涯教育の推進

学部リカレント研究会事業を継続して実施。

福祉専門職および一般県民を対象としたリカレント教育講座等は、Web 配信として継続分野の拡大や参加者数の増加が課題。

**対応**：（継続）

- 地域・現場の重要課題としての福祉人材確保・定着・資質向上に向け、学部リカレント研究会の内容や方法を工夫・見直しつつ継続的に実施。
- 2020 年度に実施した卒業生および職場の上司等を対象としたアンケート調査の結果をふまえて、卒業生の学習ニーズを確認し研修の場について引き続き検討
- 大学院人間生活学研究科で検討している認定社会福祉士養成カリキュラムの導入に対して、大学院担当教員と協力して学部卒業生を主とした専門職に周知（大学院科目履修生へ）

（令和 4 年度活動計画 No. 31, 36）

2022年度社会福祉学部の主要行事

4月	4日(月)	入学式 (25期生75名)
	5-6日(火-水)	学生ガイダンス
	7日(水)	前期授業開始 (~8月8日)
	25日(月)	第1回、2回連絡会・教授会
5月	9日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅰ)報告会
	13日(金)	第3回連絡会・教授会
	23日(月)	第4回連絡会・教授会
6月	27日(月)	第5回連絡会・教授会
7月	23日(土)	Web EVENT1 : 社会福祉の事を分かりやすく学ぶ・Webオープンキャンパス
	25日(月)	第6回連絡会・教授会
8月	1日(月)	介護福祉実習連絡協議会／介護福祉実習(介護実習Ⅲ) 報告会
9月	2日(金)	第7回連絡会・教授会
	23日(金)	Web EVENT2 : 現場で働く卒業生からの LIVE配信
	12日(月)	第8回連絡会・教授会
	27日(火)	第9回連絡会・教授会
10月	3日(月)	後期授業開始 (~2月21日)
	11日(火)	第10回連絡会・教授会
	16日(日)	リカレント教育講座 Web配信
	24日(月)	第11回連絡会・教授会
	26日(水)	卒業研究中間発表会
11月	3日(木・祝)	Web EVENT3 : アカデミックに福祉介護を探求する
	7日(月)	介護福祉実習(介護実習Ⅱ)報告会
	21日(月)	第12回連絡会・教授会
	24日(木)	韓国協定校訪問
	28日(月)	第13回、14回連絡会・教授会
12月	5日(金)	第15回連絡会・教授会
	21日(水)	韓国協定校とのオンライン交流会
	26日(月)	第16回連絡会・教授会
1月	23日(月)	第17回連絡会・教授会
	27日(木)	相談援助実習報告会
	30日(月)	第18回連絡会・教授会
	29日(日)	第35回介護福祉士国家試験
2月	4-5日(土-日)	第25回精神保健福祉士国家試験・第35回社会福祉士国家試験
	10日(金)	卒業研究発表会
	27日(月)	第19回連絡会・教授会
3月	3日(金)	第20回連絡会・教授会、精神保健福祉援助実習連絡協議会
	15日(木)	第21回連絡会・教授会
	19日(日)	第22回連絡会・教授会
	20日(月)	卒業式(県民文化ホール、22期68名卒業)
	22日(水)	Web EVENT4 : 認知症を地域で支える
	27日(月)	第23回連絡会・教授会
	30日(木)	第24回連絡会・教授会

## 令和4年度 社会福祉学部 時間割 <前期>

月	科目名等	教員	教室	1時間		2時間		3時間		4時間		教員	教室
				8:50~10:20	10:30~12:00	教員	教室	13:00~14:30	教員	教室	14:40~16:10	教員	教室
火	地政学概論	宇都宮	オンドマンド （効果面1回）	英語コミュニケーションA （別途記載）		土佐の食と健康		廣内	オンデマンド				
	英語コミュニケーションII 基礎フレセントーション	（別途記載）				（介護）介護総合演習I	田中真・片岡・河内・辻	A320					
	英語コミュニケーションII 基礎フレセントーション	（別途記載）	英語コミュニケーションA 相談援助演習III			（介護）介護総合演習II	片岡・田中真・河内・辻	F207					
	環境と健康と安全	一色	A305	社会福祉史があることがある 生活と社会福祉 基礎化学	大講義室 行員	社会福祉史		相談援助演習III	E102まか	女性福祉論が入ることがある	長澤	E102	
水	介護介護の基本I	河内	A321	（介護）介護の基本I	A305	社会福祉の原理と政策I	長澤・行員	大講義室		田中真・行員	大講義室	D207	コンピュータリテラシー（社福） 経済学
	ソーシャルワーク演習I	福井・遠山・西梅・大	E102	（介護）介護過程II	A321	（介護）生活支援技術III	田中真・片岡	F110		田中真・片岡	（介護）生活支援技術III	F110	名和 大井 オーデマンド
	保健医療サービス	大松	E102	精神保健福祉援助実習指導I	福垣・玉利	精神保健福祉援助実習指導I	大公	E102	相談援助実習指導III	福間まか	ケアマネジメント論	E103	田中真・片岡
	虐待防止論	西内	E103			（介護）介護と多文化の理解II	梅井	E103					辻
木	健康スポーツ科学I（社福） 健康スポーツ科学I（社福）	清原	体育館	社会保障論I	田中き	大講義室	日本国憲法 心理学と心理的支援	岩倉	Tリテラシー	田中真	科学と人間 基礎生物学	A318	一色 有川 オーデマンド
	保健医療サービス	大松	E102	ソーシャルワークの理論と方法I	加藤	E102	高齢者福祉論II	福田	E102	田中真	（介護）生活支援技術I	F110	田中真
	虐待防止論	加藤・西内	E103	相談援助の理論と方法IV	西梅	E103	精神保健福祉援助各論	福垣	E103	担当教員	社会福祉専門演習I		担当教員
	英語コミュニケーションII 基礎エッセイライティング	（別途記載）		英語コミュニケーションA （別途記載）		家族関係論	池添まか	オンラインマンド	福祉対象入門		社会福祉入門演習		田中加藤・行員・ 福田
金	英語コミュニケーションII 基礎エッセイライティング	（別途記載）		英語コミュニケーションA （別途記載）		ソーシャルワーク実習指導I	E102まか	児童・家庭福祉論	福間まか		社会福祉入門演習		大講義室
	介護介護の基本III	河内・片岡	F110	（介護）障害の理解I	F110	（介護）障害の理解I	田中真・福井	F110	介護技術				
	実践詰め鋲法	杉原	E204	物理と自然則	A318	就労支援サービス	福垣・玉利		大講義室				E102
	地域福祉論I	福間		通年		（介護）語の基本II	E103	（介護）認知症の理解I	横井	E103	（介護）認知症の理解I	F110	大講義室
集中講義	現代生活実習	大堀	E102	社会調査の基礎	遠山	大講義室	※精神医学I・Ⅱが入ることもある	山崎	E102	※精神医学I・Ⅱが入ることもある	山崎	E102	（介護）精神医学I・Ⅱが入ることある
	異文化理解海外ワールドワーク	五百萬				介護総合演習IV	F110						
	女性福祉論	長澤											
	ケアプラン策定法	西内											
前	介護実習I	田中真・三好・辻・河内・片岡											
	介護実習II	田中真・三好・辻・河内・片岡											
	介護実習III	田中真・三好・辻・河内・片岡											
	相談援助実習	福間まか											
集中講義	ソーシャルワーク実習I	福間まか											
	精神保健福祉実習I	福垣・玉利											
	精神保健福祉援助実習II	福垣・玉利											
	精神医学I・II	山崎											
集中講義	精神保健福祉論II	福木・幸											
	精神保健福祉論III	片岡・好											
	精神保健福祉論IV	三好											
	精神保健福祉論V												

この色は令和4年度から始まる新カリ科目（または新カリ科目）を示す

## 令和4年度 社会福祉学部 時間割 <後期>

	8:50～10:20 英語コミュニケーションⅡ 応用フレーズカードーション	1時間		2時間		3時間		4時間		5時間	
		教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室	教員	教室
月	英語コミュニケーションⅢ 地球の科学	一色	英語コミュニケーションⅢ 大講義室	土佐の自然と暮らし 介護介護総合実習Ⅰ	田中真・小畠・河内・辻	一色・非常勤	大講義室	一色・非常勤	大講義室	清原	体育館
	英語コミュニケーションⅢ 福井行財改修工事計画	田中真	英語コミュニケーションⅢ 大講義室	社会福祉の基礎と政策Ⅱ	田中真・小畠・河内・辻	原原まさか	大講義室	原原まさか	大講義室	福岡地	福岡地
	医学概論	奥谷	大講義室	長澤・行真	大講義室	五里	大講義室	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ	西内・西海・加藤	大村 宮本	遠隔オンライン
	少 2	少 3	少 4	少 1 介護介護会員登録Ⅲ 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ	杉原	田中さ	E102	ソーシャルワーク実習Ⅱ	西内・西海・加藤	大講義室	体育館
水	対人関係ヒンターハルス	内川・玉利・福田	大講義室	心理学	田中さ	E103	ソーシャルワーク実習Ⅲ	西内・西海・加藤	大講義室	福岡地	D22地
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	加藤	大講義室	社会保険論	E102	福岡	E103	ソーシャルワーク実習Ⅳ	西内・西海・加藤	三好・片岡	A321
	精神科リハビリテーションⅢ	横井	大講義室	心理学	田中さ	E103	精神保健福祉援助実習指導Ⅱ	西内・西海・加藤	横井	F110・F207	精神保健福祉援助実習Ⅳ
	英語コミュニケーションⅢ 日本語表現法	橋尾・向井	大講義室	社会保険論	E102	西内	E102	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	西内・西海・加藤	福岡地	吉地
木	英語コミュニケーションⅣ 応用エッセイライティング	横井	大講義室	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ	西内	西内	西内	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	西内・西海・加藤	田中真	大講義室
	英語コミュニケーションⅣ 医療的アセスメント	橋尾・向井	大講義室	事例研究法	E021	横井	E021	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	西内・西海・加藤	F110	F110
	英語コミュニケーションⅣ 日本語表現法	A318	大講義室	英語コミュニケーションⅣ (別途記載)	F110	西内	F110	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	西内・西海・加藤	A319	精神保健福祉の原理
	英語コミュニケーションⅣ 応用エッセイライティング	(別途記載)	大熊	英語コミュニケーションⅣ (別途記載)	(別途記載)	西内	F110	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ	西内・西海・加藤	D222	精神保健福祉の原理
金	英語コミュニケーションⅣ 応用エッセイライティング	片岡	大講義室	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内	西内	F110	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内・西海・加藤	吉池	吉池
	介護実習Ⅳ	田中真・鶴・荒牧	大講義室	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内	西内	E024	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内・西海・加藤	田中真	大講義室
	介護実習Ⅳ	山中・他	大講義室	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内	西内	E024	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内・西海・加藤	F110	F110
	ソーシャルワーク実習Ⅳ	山中・他	大講義室	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内	西内	E024	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅳ	西内・西海・加藤	A319	精神保健福祉の原理
集	科目名等	教員	教員	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日	開講月日
	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期	後期
	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義	講義
	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習	実習

この色は令和4年度から始まる新カリ名称(または新カリ科目)を示す。

※土佐の経済とまちづくりの授業実施方法については、ポータルサイト及びMoodleを確認すること。

# II

社会福祉学部教員の教育研究活動  
(教育研究活動報告書)



## 2022年度 社会福祉学部社会福祉学科 教員一覧

職 位	氏 名	学 位	専 門 分 野
教 授	杉 原 俊 二	博 士 ( 医 学 )	児童・家庭福祉論／心理療法
教 授	田 中 き よ む	修 士 ( 経 済 学 )	社 会 保 障 論
教 授	長 澤 紀 美 子	博 士 ( 学 術 )	福祉政策/国際福祉/女性福祉
教 授	西 内 章	博 士 ( 臨 床 福 祉 学 )	ソーシャルワーク論
教 授	丸 山 裕 子	博 士 ( 社 会 福 祉 学 )	ソーシャルワーク論
教 授	宮 上 多 加 子	博 士 ( 社 会 福 祉 学 )	介 護 福 祉 論
教 授	横 井 輝 夫	博 士 ( 保 健 学 )	リハビリテーション科学
准教授	河 内 康 文	博 士 ( 社 会 福 祉 学 )	介 護 福 祉 論
准教授	遠 山 真 世	博 士 ( 社 会 福 祉 学 )	障 害 者 福 祉 論
准教授	西 梅 幸 治	博 士 ( 福 祉 社 会 学 )	ソーシャルワーク論
准教授	福 間 隆 康	博 士 ( マネジメント )	福祉施設運営管理論
講 師	加 藤 由 衣	博 士 ( 福 祉 社 会 学 )	児童・家庭福祉論
講 師	辻 真 美	博 士 ( 社 会 学 )	介 護 福 祉 論
講 師	行 貞 伸 二	修 士 ( 社 会 福 祉 学 )	生 活 困 窮 者 支 援
助 教	稻 垣 佳 代	修 士 ( 社 会 福 祉 学 )	精神保健福祉援助技術論
助 教	大 熊 絵 理 菜	修 士 ( 社 会 福 祉 学 )	医 療 福 祉 論
助 教	片 岡 妙 子	修 士 ( 看 護 学 )	介 護 福 祉 論

教育研究活動報告書（教員一覧）

助 教	田 中 真 希	修 士（社会福祉学）	介 護 福 祉 論
助 教	玉 利 麻 紀	修 士（人 間 科 学）	精神保健福祉援助技術論
助 教	福 田 敏 秀	博 士（保 健 学）	高 齡 者 福 祉 論

# 杉 原 俊 二

Shunji SUGIHARA

## ○ 研究活動

### (1) 論文（原著・研究ノート・書評）（14 件）

1. 杉原俊二「自分と他者の『自分史』を見つめて—自分史分析 20 周年を振り返って」『人間科学研究』22, 2-12. (※査読有り)
2. 杉原俊二「傾聴と受容をベースとした支援—ある小柄な男子生徒への 1 回だけの面接より—」『人間科学』98, 2-5. (2022 年 5 月)
3. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討 (30) —新説MO作戦・珊瑚海海戦 (1)」『人間科学』98, 6-13. (2022 年 5 月)
4. 杉原俊二「ある小グループでの話—再発を繰り返すうつ病患者の趣味の対話—」『人間科学』99, 2-5. (2022 年 7 月)
5. 自分史分析の中での「雑談療法」の検討 (31) —新説MO作戦・珊瑚海海戦 (2)『人間科学』99, 6-13. (2022 年 7 月)
6. 杉原俊二「ある医師の自分史—医学部を卒業してから 5 年間を振り返って—」『人間科学』100, 2-5. (2022 年 9 月)
7. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討 (32) —新説MO作戦・珊瑚海海戦 (3)」『人間科学』100, 6-13. (2022 年 9 月)
8. 杉原俊二「Q 君へのインタビュー—より良い自己紹介とは—」『人間科学』101, 2-5. (2022 年 11 月)
9. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討 (33) —新説MO作戦・珊瑚海海戦 (4)」『人間科学』101, 6-13. (2022 年 11 月)
10. 杉原俊二「ひきこもりのカウンセリング—ピアニストの 2 事例—」『人間科学』102, 2-5. (2023 年 1 月)
11. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討 (34) —新説MO作戦・珊瑚海海戦 (5)」『人間科学』102, 6-13. (2023 年 1 月)
12. 杉原俊二「発達障害児の親へのカウンセリング—小児科医からの診断を受けた後—」『人間科学』103, 2-5. (2023 年 3 月)
13. 杉原俊二「自分史分析の中での「雑談療法」の検討 (35) —新説MO作戦・珊瑚海海戦 (6)」『人間科学』103, 6-13. (2023 年 3 月)
14. 杉原俊二「<書評>治療文化論：精神医学的再構築の試み（中井久夫）」『ふまにすむす』34, 50-56. (2023 年 3 月)

### (2) 学会発表等（3 件）

1. 杉原俊二「児童養護施設卒園生のアフターケアの福祉ニーズ調査（II）—卒園後 6 年目以降の諸問題とその相談先—」日本社会福祉学会中国四国地域ブロック第 53 回岡山大会（ノートルダム清心女子大学）2022 年 7 月 9 日

## 教育研究活動報告書（杉原 俊二）

2. 杉原俊二「4テーマ分析法を用いた虐待予防(Ⅱ)－支援者の側から見た4T法の実施(その2)－」日本家族療法学会第39回淡路大会（淡路島夢舞台国際会議場）2022年9月16日
3. 杉原俊二「自分と他者の『自分史』を見つめて－自分史分析20周年記念講演」日本人間科学研究会第20回記念大会（聖学院大学：遠隔）2022年11月5日

### ○ 教育活動

- (1) 学部：講義・演習＋実習（訪問指導、学内実習：集中）  
「心理学と心理的支援」（1年前期8コマ分、看護学科「心理学理論と心理的支援」を同時開講）、  
「発達と老化の理解Ⅰ」（2年後期）、「面接技法」（3年後期）、「実践記録法」（4年前期）、「社会福祉基礎演習Ⅰ・Ⅱ」（3年生7名）、「社会福祉基礎演習Ⅲ・Ⅳ」（4年生2名）
- (2) 大学院：講義・演習  
人間生活学研究科（博士前期課程）：「児童・家庭福祉論Ⅱ」「課題研究演習」（主指導2名）、（博士後期課程）「研究デザイン」（3コマ）、「社会福祉学特別研究Ⅱ」（主指導1名）

### ○ 委員会活動

- (1) 大学院人間生活学研究科長（「研究科委員会（議長）」、「部局長会議委員」「教育研究審議会委員」）
- (2) 全学委員「紀要委員会委員長」「入学試験委員」「大学院入学試験実施委員」「非常勤講師審査委員」「奨学金返還免除選考会委員」「学術研究戦略委員」「戦略的研究プロジェクト審査会・中間審査会」「大学院研究助成金審査委員」「国内・国際研修審査委員」「自己点検・評価運営委員会」「不正防止委員会」「後援会学生研究等支援事業審査会委員」「大学院あり方検討部会」「大学教育改革委員会」
- (3) 学部委員「人事関係検討会」「自己点検委員会」「教員評価部会」
- (4) 研究科プロジェクト「認定社会福祉士資格検討会」
- (5) 人事委員会11回（延べ15件）

### ○ 社会的活動

- (1) 社会活動  
児童福祉審議会委員、高知県社会福祉協議会理事選考委員、高知県教育委員会スクールソーシャルワーカースーパーバイザー、高知市教育委員会いじめ問題調査委員
- (2) 学会など  
日本人間科学研究会（常務理事）、KJ法学会（運営委員・編集委員）、日本社会福祉学会中国四国地域ブロック（運営委員：研究担当）・所属学会等の編集協力（査読者）
- (3) 講演など
  1. スクールソーシャルワーカースーパービジョン（香美市）11月7日3時間（本学会議室）。
  2. スクールソーシャルワーカー研修会：3月11日3時間（心の教育センター）。
  3. スクールソーシャルワーカースーパービジョン（本山町）3月15日2時間（本学会議室）

4. 科研費報告会（①関西 10月 22 日、②高知 10月 15 日、③関東 11月 5 日）。

### ○ 総合評価と課題

今年度は再び人間生活学研究科長となった。そこで役職に付随する業務が次々と増えていたうえ、学部の実習指導・実習も担当するなど授業負担がほとんど変わらないことで、周囲からいろいろと注意もされ改めて考えさせられた。本年は、認証評価の結果を受けての博士前期課程のカリキュラムの改正と、それに伴う大学院の教員審査をおこなった。また、大学院の授業もそれなりに多く、学部の仕事に手が回らないことも多かった。それでも研究科長の仕事は、同じ領域の宮上先生や長澤先生をはじめ、多くの先生方や職員方に助けられて、何とか終えることができた。

学部の教育に関しては赴任して14年目、第22期生を卒業させることができた。授業では、これまでの蓄積に助けられることが多かった。また、いくつかの新作の論文も授業で発表させてもらい、その準備でいろいろと勉強になった（実践記録法・面接技法）。講義科目については、ポストコロナ時代に合わせ、ほとんどにパワポを導入し、出席代わりのミニレポートなど、例年とは形を変えた学生の意見聴取に務めた。今年度のゼミでは、4年生2名・3年生7名と人数の違いがあった。リクエストもあったので、4年は主にZoom（たまに対面）での授業で個別指導を、3年生は対面での授業を行った。これも学生の協力があり、無事に終わらせることができた。4年生は2人とも直接支援を行う福祉職に就いた。頑張ってほしいものである。

研究に関しては、昨年度から科学研究費補助金基盤研究（C）「4テーマ分析法を用いた児童虐待防止への支援－『虐待リスク』を抱える保護者支援法－」が2年の延長を経て、今年度は最終年度であり、昨年度までの積み残しも含めて調査を実施し、学会などの発表もできた。また、2002年に研究が始まった自分史研究から丸20年経つため、その研究も進めている。

委員会等については、研究科長の業務が増えたため、学部での負担は減らしてもらっていた。管理職の役割だろうか、週単位で見れば学期期間中も授業の時間よりも会議の時間が多いということも多くあった。来年度は実習関係の業務が減るので、それも少しこれは解消されるだろうか。

社会的な活動については、地域貢献として高知県の児童福祉審議委員となった。所属する委員会の数も多く、出席しなければならない会議も多いが、本学の児童・家庭福祉分野の教員であるため「一丁目一番地」の仕事と考え、できることはやりたい。また、県教育委員会の「スクールソーシャルワーカー」のスーパーバイザー（各種研修会の講師、東部ブロックのスーパービジョン）、市教育委員会のいじめ問題調査委員となり会議や研修会に出席した。学会では、これまでの活動に加えて日本人間科学研究院の常務委員にもなった。日本社会福祉学会中国四国部会の運営委員（研究）も継続している。大学内の仕事は多いが、それでも、できるだけ地域への貢献をしたいと考えている。

研究科長はあと1年間は継続しなければならない。多くの方々のご助力をお願いします。

# 田 中 き よ む

Kiyomu TANAKA

## ○研究活動

### (1) 著書

- ・田中きよむ『社会保障システム』ビジネス実用社, 2023年3月
- ・平岡和久・川瀬憲子・栗田但馬・霜田博史編著『入門 地方財政ー地域から考える自治と共同社会』自治体研究社, 2023年3月, 第7章・第8章

### (2) 論説

- ・田中きよむ、霜田博文、玉里美恵子「一時居所支援から見えてきた『ホームレス』の再定義ー高知県内における支援活動をふまえてー」『高知論叢』第123号、2022年9月(57-71頁)
- ・田中きよむ、霜田博文、玉里美恵子「福祉NPOの独自的価値と課題ー高知県内における取り組みー」『高知論叢』第124号、2023年3月(145-164頁)

### (3) 書評

- ・基礎経済科学研究所編『時代はさらに資本論ー資本主義の終わりのはじまり』『人間発達研究所通信』第171号、2022年12月(14-20頁)

### (4) 研究報告

- ・田中きよむ「都市型ホームレスにおける『つながり』の様相ー東京・横浜における取り組みを事例としてー」『Humanismus』第34号、2023年3月(57-73頁)

### (5) 学会発表

- ・田中きよむ「一時居所支援から見えてきた『ホームレス』の再定義ー高知県内における支援活動をふまえてー」日本民族学会第74回(熊本大学)2022年10月

### (6) 研究助成

- ・田中きよむ(研究代表者)「地方におけるホームレスの実態把握と支援方法の研究」(文部科学省科学研究費基盤研究(B)(一般); 2022-2024年度)

## ○教育活動

### (1) 学部

(専門教育)

1. 地域福祉論Ⅱ
2. 社会保障論ⅠⅡ
3. 福祉行財政と福祉計画
4. 公的扶助論
5. 権利擁護論
6. 福祉NPO論
7. 社会福祉専門演習ⅠⅡ
8. 福祉研究演習ⅢD
9. 社会保障と看護(看護学部)
10. 保健医療福祉論(健康栄養学部)

(共通教育)

1. 地域学概論

### (2) 大学院

(修士課程)

1. 福祉行財政論
2. 社会保障論
3. 社会福祉課題研究演習

## ○委員会活動

- ・(学部) キャリア支援委員会委員、教務委員会委員、社会福祉研究倫理審査委員会委員長、人事関係検討会委員、国際交流委員会委員長
- ・(全学) 入試監査委員会委員長(学部入試)、国際交流委員会委員、図書館委員会委員

## ○社会的活動

### (委員等)

- ・高知県運営適正化委員会委員
- ・高知県地域年金事業運営調整会議委員長
- ・高知県青年農業士認定委員会委員長
- ・高知県弁護士会綱紀委員会委員、高知弁護士会資格審査会予備委員
- ・高知県介護ケア研究会会长
- ・全国障害者問題研究会高知支部支部長
- ・高知県社会保障推進協議会会长
- ・高知県保育運動連絡会会长
- ・高知市社会福祉審議会委員長、同審議会民生委員審査専門分科会会长
- ・高知市国民健康保険運営協議会委員
- ・高知市福祉有償運送運営協議会委員
- ・高知県内各市町村地域福祉（活動）計画アドバイザー
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会委員長、セーフティネット連絡会委員
- ・公益財団法人ひかり協会高知県地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会委員長
- ・高知県リハビリテーション研究会理事
- ・高知県高次脳機能障害支援委員会委員
- ・高知県居住支援協議会会长
- ・社会福祉法人「高知福祉会」「すずめ福祉会」「ファミーユ高知」各第三者委員
- ・NPO法人「福祉住環境ネットワークこうち」理事、NPO法人「みらい予想図」副理事長 NPO法人「あさひ会」理事長、NPO法人「あまやどり高知」理事、社会福祉法人「さんかく広場」理事、NPO法人「こうちネットホップ」理事長

### (研究・学習会、講演等)

- ・高知県社会保障推進協議会シンポジウム「高知県における地域医療構想について」（会長・コーディネーター）オーテピア 4F 研修室（2022年4月23日）
- ・コロナ禍における障がい福祉研究会（代表）高知市役所3F会議室（2022年5月6日）
- ・高知県社会保障推進協議会合同会見「いのちを守る」（代表）高知県庁県政記者室（2022年5月16日）
- ・生活保護審査請求結果に関する記者会見（支援者）高知県庁県政記者室（2022年6月7日）
- ・公益財団法人ひかり協会地域救済対策（森永ヒ素ミルク中毒事件被害者救済対策）委員会（委員長）保健衛生総合庁舎・県立大学池キャンパス〔オンライン〕（2022年6月24日・9月26日・12月4日・2023年2月15日）
- ・全国障害者問題研究会高知支部学習会「気候変動と障害者」（高知支部支部長）高知城ホール（2022年6月26日）
- ・高知県居住支援協議会総会（会長・コーディネーター）高知城ホール（2022年7月4日）
- ・青年農業認定委員会・認定授与式（委員長）高知県民文化ホール・高知会館（2022年7月9日・8月16日）
- ・北川村地域福祉計画策定委員会（アドバイザー）北川村役場（2022年7月14日）
- ・高知市民生委員審査会（会長）高知市役所2F（2022年7月19日・8月18日・9月22日）

## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

日・2023年2月16日)

- ・高知市セーフティーネット連絡会（NPO 理事長・報告者）あんしんセンター3F（2022年7月21日）
- ・高知市まちづくりファンド最終発表会（NPO 理事長・報告者）高知市役所鷹匠庁舎（2022年7月23日）
- ・高知県母親大会（講師「コロナ禍の貧困、社会保障、くらしーわたしたちのくらしどうなるー」）高知市男女参画センターソーレ（2022年7月24日）
- ・こうちネットホップ学習会「シェルター事業について」（NPO 理事長・報告者）高知市男女参画センターソーレ（2022年7月30日）
- ・第56回全国障害者問題研究会（共同研究者）兵庫大会〔オンライン〕（2022年8月7日）
- ・第54回全国保育団体合同研究集会（実行委員長）高知県民文化ホールほか（2022年8月20日・21日）
- ・大川村大川中学校出前講座「地域福祉のおもしろさー住民主体の幸せのまち・むらづくりー」（講師）大川村大川中学校（2022年9月1日）
- ・高知医療センター学術集会Pシスターズ発表（座長）高知医療センター（2022年9月15日）
- ・認知症の人と家族の会研修「海外の介護事情と日本の介護保険の現状と課題」（講師）高知市男女参画センターソーレ（2022年9月15日）
- ・ひきこもり支援の会（エスポワール）研修「生きづらさに寄り添うー『福祉』の形の多様性ー」（講師）高知市男女参画センターソーレ（2022年10月22日）
- ・四万十町地域福祉計画策定委員会（アドバイザー）四万十町社会福祉協議会（2022年10月27日）
- ・地域活性化フォーラム「学生が変わる・地域が変わるー中山間地域における域学共生と小さな拠点ー」（パネリスト）高知県立大学永国寺キャンパス（2022年10月29日）
- ・高知県年金調整会議（委員長）高知会館（2022年10月31日）
- ・高知県立大学社会福祉学部オープンキャンパス「福祉・介護の本質」（講師）高知県立大学池キャンパス（2022年11月3日）
- ・高知県退職者連合総会講演「住民主体の支えあい、つながりが拡がる地域づくり」（講師）三翠園（2022年11月4日）
- ・高知県立大学社会福祉学部FD委員会講演「東日本大震災の教訓と地域再生」（コーディネーター）高知県立大学池キャンパス（2022年11月10日）
- ・中四国医療生協講演会「生活困窮者支援と居場所づくりーホームレス支援の事例報告と医療従事者へのメッセージ」（講師）オンライン（2022年11月20日）
- ・慶尚国立大校社会福祉学部国際交流プログラム「高知県の地域福祉と学生参加型の地域づくり」（講師）高知県立大学池キャンパス（2022年11月24日）
- ・第54回高知県リハビリテーション研究会「生きづらさに寄り添い多様性を認め合う当事者主体の地域づくり」（実行委員長）福祉交流プラザ〔対面+オンライン〕（2022年11月27日）
- ・高知市地域活動実践ゼミナール（講師）高知市役所鷹匠庁舎〔対面+オンライン〕（2022年12月3日）
- ・慶尚国立大校とのオンライン交流会「越境する福祉の学び」（社会福祉学部国際交流委員長）オンライン（2022年12月21日）
- ・日本FP協会高知支部パネルディスカッション報告「『年金の持続可能性』と『老後の生活の持続可能性』」（2023年1月28日）

## 教育研究活動報告書（田中 きよむ）

- ・高知県幼保支援課懇談会（高知県保育運動連絡会会長）県民文化ホール（2023年2月1日）
- ・高知県居住支援協議会セミナー（会長）シリーズ（2023年2月6日）
- ・土佐清水市在宅医療・介護連携推進事業市民公開講座「介護難民を救え」（講師・シンポジスト）土佐清水市立中央公民館3F（2023年2月11日）
- ・高知県保育運動連絡会総会（会長）高知城ホール（2023年2月12日）
- ・こうちネットホップ学習会「DV 被害者支援について」（NPO理事長）県立大学永国寺キャンパス（2023年2月18日）
- ・北川村地域福祉計画策定委員会（アドバイザー）北川村役場（2023年2月28日）
- ・高知県年金調整会議（委員長）高知会館（2023年3月6日）
- ・高知市生活困窮者支援運営委員会（委員長）あんしんセンター（2023年3月9日）
- ・高知県運営適正化委員会（委員）高知会館（2023年3月17日）
- ・香南市の国保をよくする会講演会（講師）「社会保障をめぐる動向と運動課題」野市青少年センター本館研修室（2023年3月18日）

### ○総合評価及び今後の課題

- ・研究面では、2022年度は、①生活困窮者の実態把握と支援方法に関する検討、②地域共生社会における住民の主体性形成要因とNPOによる支援方法に関する事例検討、③近年の社会保障制度改革の構造と本質に関する動向分析を進めた。2023年度は、それらに関する実態調査をさらに進める一方で、理論的検討を深めていきたい。
- ・教育面では、講義に関しては、地域福祉論、社会保障論、公的扶助論、福祉行政財政と福祉計画、権利擁護論、福祉NPO論などを担当しているが、授業アンケート結果をふまえれば、それらの科目に関する学生の理解力、関心の向上や主体的取り組みを改善する授業の工夫が依然として課題となっている。オンライン授業を契機として、レジュメによる教育内容の明確化や、授業毎の理解度の確認に努めた。

専門演習に関しては、とくに4回生の卒業研究において、コロナ禍の下でのフィールド調査研究の制約を受けつつも、可能な限りの聞き取り調査に向けた指導をおこなった。

2023年度は、講義においては、ミクロの個別支援に関心が強い学生に対して、それをメゾレベル（地域福祉）やマクロレベル（社会保障）で捉え直すことの意義を理解してもらえる工夫に一層努めたい。

社会的活動は、2022年度は、様々な地域の住民の生活課題を学生と共に明らかにしつつ、対策を考えたり、生活困窮者を地域で支える仕組みづくりについて実践的に検討する機会を戴けた。今後も、学生と共に、地域との接点を持ち、住民の現実の生活課題を明らかにしつつ対策を検討するとともに、各地域ならではの積極的な固有価値を再発見して、活性化する関係づくりに少しでも寄与していきたい。

# 長澤 紀美子

Kimiko NAGASAWA

## ○研究活動

### (1) 論文 (1件)

- 「小特集に寄せて-評価の有効性の検証に向けて-』（小特集「日本の福祉政策における評価レジームの変容の諸相」）「社会政策」, Vol. 14 No. 1 pp. 81-85 (2022)

### (2) 学会発表 (なし)

### (3) 競争的資金等の獲得状況 (2件)

- 科学研究費補助金 基盤研究(B) (一般) 課題番号 #19H01586

「社会福祉における評価レジーム再編の課題をめぐる理論的・実証的研究」(平成31年／令和元年度～令和4年度) (研究代表者：東京通信大学人間福祉学部 平岡公一教授) の分担研究者

- 科学研究費補助金 基盤研究(C) (一般) 課題番号 #20K02267

「クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」(令和2年度～令和4年度) の主任研究者

## ○教育活動

### (1) 学部

#### ① 講義科目【学部専門科目】:

- 「社会福祉の原理と政策Ⅰ」「社会福祉の原理と政策Ⅱ」(行貞講師とのオムニバス)  
新カリ2年目であり、対面を基本としつつ、昨年度までのムードルでの動画(URL)や資料の活用も並行して進めた。一方で試験に関する重要項目を予め提示したが、法律・制度の理解度にはばらつきがあり、苦手とする学生への対応が課題である。
- 「女性福祉論」／「国際福祉論」(玉利助教・河内准教授とのオムニバス)  
女性福祉論では、国際LGBTQ団体の元事務局長の災害とLGBTQが専門の山下梓先生やXジェンダーの研究者ソンヤ・デール先生を始め、国内外のジェンダー問題の研究者や実践者など5人のゲストスピーカーを招き、グローバルな視点でのジェンダー問題を扱った。「国際福祉論」では英コミ科目の代替的役割となり、移行期間のため受講生が2～4回生約100名と多かった。担当回(8コマ)の中で、従来の授業の内容に加えJICA四国や留学等国外移住経験のあるゲストスピーカー2名を招き、日本やヨーロッパにおける多文化共生について多角的に学ぶ機会を設けた。

#### ② 講義科目【共通教育科目】:「基礎ジェンダー学(永国寺)」「基礎ジェンダー学(池)」

- 永国寺、池を併せ受講生計200名を超えて、看護学部の岩崎講師をはじめ、ゲストスピーカー(ソーレ共催講座の講師(ジェンダーと労働)、災害とジェンダー、DV・デートDV支援NPO、LGBTQ団体等)も招聘し、多角的な問題からジェンダー規範を強化する社会構造の理解やUnlearning、支援の視点について学ぶ機会を設けた。

#### ③ 卒業研究指導(ゼミ):「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」(受講者6名),「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」(受講者7名)

（2）大学院

【人間生活学研究科博士前期課程】

- ・「国際福祉論Ⅰ」（受講生5名） 研究指導：主研究指導教員としてM2生1名

【人間生活学研究科博士後期課程】

- ・「研究デザイン」（オムニバス）（受講生3名） 研究指導：主研究指導教員としてD2生1名、副研究指導教員としてD3生2名（社会福祉学）を担当

○委員会活動

【全 学】 社会福祉学部長

\*全学会議委員（部局長会議、教育研究審議会、大学教育改革プロジェクト、大学院あり方検討委員会、入学試験委員会、自己点検評価運営委員会、非常勤講師審査委員会、学術研究戦略委員会、研究不正防止委員会）

【学 部】 \*学部教授会議長

○社会的活動

（1）委員等

高知市人権尊重のまちづくり審議会委員（令和元年度～）／高知県人権尊重の社会づくり協議会委員（令和元年度～）

高知県第4次DV被害者支援計画策定委員会委員（令和3年度～）

高知地方労働審議会委員（令和3年度～）・高知労働局「求職開拓事業」に係る提案書技術審査委員会（委員長）（令和3年度～）

高知県男女共同参画センターソーレ広報番組（ジェンダーと防災）放送委託業務プロポーザル審査委員

高知県社会福祉審議会委員（令和3年度～）

高知県社会福祉協議会「女性の活躍支援事業・関係機関ネットワーク会議」学識者として参加

（2）大学としての社会貢献

・11/24（対面）、12/21（ズーム）韓国・協定校 慶尚大学との交流行事に参加  
（3）地域での講演（人権研修会講師）等

- 6月1日 高知市人権教育研修会青柳支部講演会「性的指向・性自認（SOGI）を人権として尊重する学校づくりを目指して」（高知市立高須小学校）
- 11月25日 令和3年度宿毛市人権教育推進講座第3講座「性的指向・性自認」（宿毛市役所）
- 12月25日 ARTIST FOCUS #03 角田和夫 関連イベント  
「レクチャー LGBTからクィア、SOGIEへ」（高知県立美術館）  
(以上、任意団体「ソーシャルアライ・コナツハット」の他の共同代表とともに実施)
- 高知県社会福祉協議会「困難な問題を抱える女性への支援にむけた研修会」Web講座講師（11月に関係機関限定公開）

## ○総合評価及び今後の課題

### （1）教育活動

- ・原則、対面授業になったが、ムードルとの併用による視覚的教材（動画）等やURL資料の活用により社会の最新動向や多様な分析に触れる機会を設けるようにした。また継続して、フィードバックの質問に対する受講生の回答を分析して次回の授業で共有し、学生の理解度を確認し、双方向型授業となるように努めた。

### （2）研究活動

- ・科研（分担）の研究課題について、昨年度の学会報告の研究班メンバーで、学術論文誌の小特集としてまとめることができた。日本の評価制度の動向整理と共に、イギリスでの制度の動向について比較分析することが今後の課題である。
- ・科研（主任）の研究課題について、昨年度のオーストラリアでの APASWE での報告を含め、日本での調査や研究会を継続したが、論文として公表するまでに至っておらず、次年度の継続（延期）申請に伴い、研究の方向性について検討中である。

### （3）社会貢献

- ・SOGI に関する人権課題について、県内の自治体職員や教育関係者に向けた研修講師を継続して行った。また困難女性支援法の R6 年度よりの施行に向けて、高知県社協での支援者向け研修講師を担当し、関係者協議の場に参画した。

### （4）学内業務について

- ・昨年度まで 4 年間の人間生活学研究科長に代わり社会福祉学部長となり、初めて学部運営の役割を担うことになった。まずは学部の現状について総合的に理解すること、コロナ禍の対応を含め、学生や教員に係る課題に対して迅速かつ的確に対応することが課題となった。過去 8 年間務められた前学部長の宮上教授にご教示頂きつつ、同僚教員に助けられながら、7 年に一度の認証評価や 1 年を通じた複数の公募人事など、新たな課題の対応に追われた一年であった一方で、継続的な学部の検討課題については、次年度以降に持ち越した問題も多い。
- ・次年度以降の課題として、R5 年度も 3 名の公募人事の継続と未充足科目への対応、入試出願者減少への対応と広報戦略、教員の研究活性化の機運の醸成、卒業生等のネットワーク化や大学院「認定社会福祉士科目」導入に向けた卒業生を始め現場専門職への広報、国際化・グローバル化への教育面での対応など多様な側面があるが、新任の教員も含めた新体制で協力し、学部の難局を乗り切っていきたい。

# 西 内 章

Akira NISHIUCHI

## ○ 研究活動

### 1. 論説

西内章（2023）「地域連携ネットワークにおけるソーシャルワークの権利擁護アセスメントの意義と課題」『高知県立大学紀要（社会福祉学部編）』72, 89-98.

### 2. 学会発表

御前由美子・安井理夫（関西福祉科学大学）、小榮住まゆ子（堀山女学園大学），  
西内章「人口減少地域への支援と課題－文献研究を通じた考察－」日本社会福祉学会第70回秋季大会（関西福祉科学大学）  
※2022年10月15日（土）～11月17日（木）インターネットによる発表

### 3. 科学研究費助成事業

研究種目 基盤研究（C）：2018～2023年度

※2023年度まで研究期間を1年間延長した。

研究代表者 西内章

研究課題 『ソーシャルワークにおけるICTを活用した多職種連携モデルの構築』

### 4. その他（共著）

西内章（2022）「地方の子どもの状況や施設の子どもの権利保障はどのようなものでしたか」浅井春夫他編『太平洋戦争と子どもたち』吉川弘文館.

### 5. 研究会

ソーシャルワークの研究会である「エコシステム研究会（大阪府立大学名誉教授・関西福祉科学大学名誉教授 太田義弘主宰、京都府立大学公共政策学部教授 中村佐織会長）」に所属し、アセスメント支援ツールの研究開発を行った。

## ○ 教育活動

### [共通教育教養科目]

①「専門職連携論」

### [学部専門教育科目]

①「事例研究法」

②「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」

③「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」

④「虐待防止論」

⑤「ケアプラン策定法」

⑥「相談援助演習Ⅲ」

⑦「相談援助演習Ⅳ」

⑧「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」

⑨「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」

⑩「相談援助実習指導Ⅲ」

⑪「相談援助実習」

⑫「社会福祉専門演習Ⅰ」

⑬「社会福祉専門演習Ⅱ」

⑭「社会福祉専門演習Ⅲ」

⑯ 「社会福祉専門演習IV」

[大学院人間生活学研究科・博士前期課程]

- ①研究方法論Ⅱ
- ②ソーシャルワーク論
- ③高齢者福祉論
- ④課題研究演習

※主指導教員として院生1名の研究指導を行い、修士論文を提出した。

○委員会活動

- ・入試実施委員長
- ・学部総務・予算委員長
- ・人事関係検討会委員
- ・自己点検評価委員
- ・入試広報部会委員

○社会的活動

[委員等]

- ・高知県行政不服審査会委員
- ・高知県教育委員会スクールソーシャルワーカー活用事業スーパーバイザー
- ・高知県高齢者・障害者権利擁護センター運営協議会副委員長
- ・高知県地域福祉活動支援計画推進委員会委員
- ・高知県教育振興基本計画推進会議委員
- ・高知市成年後見制度利用促進審議会会長
- ・高知県成年後見制度利用促進協議会委員
- ・高知市高齢者虐待予防ネットワーク会議会長
- ・高知市社会福祉協議会評議員
- ・高知市成年後見サポートセンター運営委員会会長
- ・日常生活自立支援事業契約締結審査会委員
- ・高知市社会福祉協議会これから安心サポート事業審査委員会委員長
- ・津野町地域包括支援センター及び地域密着型サービス運営協議会委員
- ・津野町認知症初期集中支援チーム検討委員会委員

[研修会講師・講演等]

- ・令和4年度高知県市町村教育長会議研修講師「教育と福祉の連携について」（2022年4月13日）
- ・高知県児童福祉司任用前講習会講師「児童家庭支援のためのケースマネジメント基本（1）」（2022年6月9日）
- ・高知県教育委員会研修講師「令和4年度スクールソーシャルワーカー活用事業第1回初任者研修会」（2022年6月17日）
- ・令和4年度高知県社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー養成研修講師「対人援助における権利擁護の視点」（2022年6月24日）
- ・令和4年度高知県教育委員会子育て支援員養成研修講師「児童虐待と社会的養護」（2022年6月30日～7月10日：オンライン開催）
- ・高知県社会福祉士会研修講師「基礎研修Ⅱ 実践事例演習」（2022年7月9日）

## 教育研究活動報告書（西内 章）

- ・第21回高知県民生委員児童委員大会コーディネーター「地域共生社会の実現に向けた民生委員児童委員活動－複雑化・複合化した地域生活課題への対応－」（2022年7月13日）
- ・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催令和4年度福祉サービス苦情解決セミナー講師「苦情解決の責任と関与－対立場面における基礎的技法を学ぶ」（2022年9月20日）
- ・令和4年度高知県立大学社会福祉学部リカレント教育講座「生活と向き合う支援とは－ソーシャルワークは何ができるのか－」（2022年10月16日）
- ・令和4年度高知県入退院支援事業研修講師「第2回多職種協働研修」（2022年11月7日）
- ・令和4年度高知県キャリア推進事業・訪問講座「中村高校 × 高知県立大学社会福祉学部2022」（2022年11月11日）
- ・令和4年度医療的ケア児等支援者・コーディネーター養成研修講師「支援の基本的枠組み、制度、保育」（2022年12月7日）
- ・高知県心の教育センター主催学習会講師「令和4年度第4回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」（2022年12月10日）
- ・高知県教育委員会研修講師「令和4年度スクールソーシャルワーカー活用事業第2回初任者研修会」（2022年12月16日）
- ・高知県社会福祉協議会・高知県運営適正化委員会主催福祉サービス第三者委員プロック別研修会講師「当事者・家族からの申し出と事故やトラブルの実際」（2022年3月17日）

### ○総合評価及び今後の課題

令和4年度も新型コロナウィルス感染症の影響で講義・演習科目は、対面方式だけでなく、ZoomやMoodleを活用した遠隔形式も活用した。社会福祉専門演習III・IVでは、4回生8名の卒業研究論文指導を行った。大学院では大学院生1名の主指導を担当し、修士論文を提出し修了させることができた。

次年度の教育活動でも、授業の目標をもとに有効な教材研究を行い、学生の理解度に応じた授業展開を実践したい。

研究活動では、科研費の研究について新型コロナウィルス感染症の影響で研究が予定通り進まなかつたため、研究期間を1年間延長し令和5年度も継続することにした。次年度は科研費の最終年度になるため研究活動をまとめたい。

委員会活動では、学部総務・予算委員長として学部連絡会・教授会の準備、備品や資料の購入・管理等に取り組んだ。

社会的活動についても新型コロナウィルス感染症の感染状況をみながら対応することになった。具体的には、外部委員としての活動と、外部研修の講師を行った。社会的活動は、自らの研究活動と関連しているテーマも多いため自己研鑽になっている。

次年度も教育活動及び研究活動、委員会活動、社会的活動に継続的かつ積極的に取り組み、現在の自分を見つめ直し、気づきを得ながら改善に取り組み、尽力したいと考えている。

# 宮 上 多 加 子

Takako MIYAUAE

## ○研究活動

### (1) 論文

- ・宮上多加子・辻 真美・荒川泰士・笛村 聰(2023)「ICTを導入した訪問介護事業所における職場学習—質問紙調査による分析—」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』72, 45-57.

### (2) 学会発表

- ・荒川泰士・宮上多加子・辻 真美, 「訪問介護事業所におけるICTの利用実態調査からの一考察」, 第27回日本在宅ケア学会学術集会(2022年7月).

## ○教育活動

### [学部]

#### (1) 「介護過程Ⅰ・Ⅱ」

「介護過程Ⅰ」は、介護福祉コース1回生（後期）開講、「介護過程Ⅱ」は、介護コース2回生（前期）の科目である。例年のように、ナイチンゲールの看護思想に基づく「KOMIケア理論」の基礎と、事例を用いた介護過程の概要について講義した。Ⅰ・Ⅱの講義内容を関連して継続的に説明することで、内容の理解が深まったという評価が多かった。

#### (2) 「認知症の理解Ⅰ・Ⅱ」

「認知症の理解Ⅰ」「認知症の理解Ⅱ」とともに昨年に引き続きオムニバスで担当した。医学的側面からの理解を深めると同時に、当事者からの発信、地域社会における認知症をもった人への支援などを取り上げた。本年度より必携テキストを変更したことにより、認知症ケアの新しい動きも網羅できるようになった。

#### (3) 「福祉研究法入門」

学部教員の欠員のため、本年度のみ担当した2回生後期の科目である。1学年全員受講という科目担当は久しぶりだったが、必携テキストの活用や4回生および大学院生をゲストスピーカーとして招くなど授業方法を工夫することで、科学的な思考の特徴や福祉分野の研究に対する基礎的知識についての理解を促すようにした。

#### (4) 「社会福祉専門演習Ⅲ・Ⅳ」

本年度は4回生のゼミ生のみ担当し、受講者は7名であった。研究テーマによってデータ収集方法を変更し、学生が主体的に論文作成のプロセスを学べるように指導した。

### [大学院（人間生活学研究科博士前期課程）]

#### (1) 「介護福祉論Ⅰ」を学外教員とオムニバスで担当した。受講者は4名であった

#### (2) 論文指導

正指導教員としてM2生1名、副指導教員としてM2生2名を担当した。研究を進めるためのディスカッションの場として、大学院ゼミを毎月1回程度継続的に開催した。

### [大学院（博士後期課程）]

#### (1) 論文指導

正指導教員として院生3名を担当し、うち2名が3月に修了して博士（社会福祉学）の学位を取得した。また、副指導教員として院生1名を担当した。

## ○委員会活動

### [全学]

就職委員会/入試監査委員会

### [学部]

学部人事関係検討会/自己点検評価委員会/4回生学年担当（後期のみ）

### [大学院（人間生活学研究科）]

入試実施委員会（博士後期）

## ○社会的活動

高知県福祉活動支援基金運営委員会委員／高知市民生委員推薦会委員（前期のみ）

高知県社会福祉協議会理事／高知県医療提供体制推進事業等評価委員会委員

## ○総合評価と今後の課題

### (1) 教育活動

従来からの担当科目に加えて、2回生配当の必修科目である「福祉研究法入門」を担当したことが新しい経験であった。72人の受講者の担当は久しぶりであり、講義開始前は授業内容や、感染症等に伴うスケジュール変更への対応について私自身の不安が大きかった。実際には、新型コロナ感染者や健康観察者への対応はやや煩雑ではあったが、ほぼ予定通りの対面授業が実施できて受講者は真面目に学習に取り組んでくれたため、Moodle等を活用した課題提出もスムーズであった。

大学院教育においては、博士前期課程よりも博士後期課程の指導学生が多い年度となり、研究指導に長時間を費やした。

### (2) 研究活動

科学研究費補助金(基盤(C))「中堅介護職員の循環型経験学習を促すメンタリングの様相」を活用して、2021年度に実施した訪問介護事業所職員を対象とした調査結果を本学紀要に投稿した。

### (3) 学内業務

学部長業務が外れたため、比較的余裕の出来た年度であった。しかし、昨年度までに退職した学部教員の補充ができておらず、数名の欠員が生じたために、思いがけず新たな役割も担当することになり、新鮮な気持ちとともに最後まで学内業務が続く状況となつた。

学部全体としての今後の課題として、志願者確保のための入試広報のあり方の工夫や、研究活動の活性化および学部教員の発表論文数の底上げ、卒業生をはじめ福祉専門職に対するリカレント教育の推進等があげられる。これらは計画的で長期的な取り組みが必要となるため、次年度以降も新メンバーを迎えた体制で前向きに取り組んでもらいたい。

最後に、1998年4月に高知女子大学に社会福祉学部が新設されてから、学部定員増や法人化・共学化を経て25年間にわたり、福祉教育に携わることが出来たのは、学部の先生方のご協力はいうに及ばず、社会福祉を真摯に学ぼうとする学生の熱意があつてのことだと感じている。今後も、良い伝統は引き継ぎつつ、社会の変化に柔軟に対応して社会福祉の教育・研究機関として発展することを期待したい。

# 横井 輝夫

Teruo YOKOI

## ○研究活動

### 論文

- Yokoi Teruo, Inagaki Kayo: A good casework relationship and Buddhist philosophy. Internal Social Work, 2023, <https://doi.org/10.1177/00208728231156743>.
- Yokoi Teruo: Alzheimer's disease is a disorder of consciousness. Gerontology and Geriatric Medicine 9, pp. 1-3, 2023.
- Ri Ketu, Yokoi Teruo, Miyoshi Yayoi, Watanabe Hiroyuki, Fukuda Toshihide: Eating behavior and environments of severe Alzheimer's disease patients with loss of language skill. Gerontology and Geriatric Medicine 8, pp. 1-8, 2022.

## ○教育活動

### (学部)

- |                  |                        |
|------------------|------------------------|
| • 精神保健学 II       | • 精神科リハビリテーション学        |
| • 発達と老化の理解 II    | • こころとからだのしくみ I        |
| • こころとからだのしくみ II | • 社会福祉専門演習 I・II・III・IV |
| • 障害の理解 I        | • 介護の基本 II             |
- (大学院)
- |                |               |
|----------------|---------------|
| • 健康リハビリテーション論 | • 社会福祉学課題研究演習 |
| • 研究デザイン       |               |

## ○委員会活動

### (全学)

- 教務委員会
- 人権委員会

### (学部)

- 教務委員会
  - 人事関係検討会
- (自己点検評価委員会)

### (大学院)

- 監査委員会

## ○社会的活動

### (学外非常勤講師)

- 吉備国際大学（「運動発達学」「理学療法技術実習」担当）
- 吉備国際大学大学院保健科学研究科修士課程（通信制）（「臨床保健学特論」担当）

## ○総合評価及び今後の課題

### (1) 教育活動について

介護福祉士指定科目である、「こころとからだのしくみ I」「こころとからだのしくみ II」「発達と老化の理解 II」については、毎回、あるいは単元毎に知識確認テストを行なが

## 教育研究活動報告書（横井 輝夫）

ら進めた。また精神保健福祉士指定科目の「精神保健学Ⅱ」「精神科リハビリテーション学」については、深い思考を求める資料を提供して進めた。

大学院では、主指導を務めた院生が当事者研究で修士論文を提出した。

### (2) 研究活動について

上記3論文が英文誌に掲載された。

### (3) 学内業務について

全学では人権委員会の委員長を、学部では学部教務委員会の委員長を務めた。

### (4) 社会貢献について

特に、研究での新たな知見を発表することを通して社会に貢献していきたい。

# 遠山 真世

Masayo TOHYAMA

## ○研究活動

### (1) 競争的資金の獲得

- ・科学研究費補助金（基盤研究（C），課題番号 18K02112，2018 年度－2022 年度）

研究代表者：遠山真世

研究課題名：重度障害者の就労支援における工賃向上のための「高知モデル」の構築

## ○教育活動

### (1) 担当科目

- ・相談援助演習 I・II・IV
- ・相談援助実習指導 I・II・III
- ・相談援助実習
- ・福祉研究演習 I・II・III・IV
- ・障害者福祉論
- ・社会調査の基礎

### (2) 学生支援

- ・卓球サークル顧問

## ○委員会活動

### (1) 全学

- ・入試実施委員会
- ・地域教育研究センター運営委員会

### (2) 学部

- ・学生委員会
- ・入試広報部会
- ・実習委員会

## ○社会的活動

- ・高知県要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識 II」担当
- ・高知県障害者介護給付費等不服審査会委員
- ・土佐あけぼの会評議員及び第三者委員

## ○総合評価及び今後の課題

### (1) 研究活動について

本年度は障害者就労継続支援 B 型事業所の平均工賃が高い都道府県と低い都道府県の違いや背景を分析するため、各都道府県から公表されている各事業所の平均工賃や作業内容等のデータを収集した。次年度は、障害者優先調達法の調達実績にかんする各都道府県

のデータを収集・分析するとともに、その結果をまとめ論文を執筆したいと考えている。また、これまでの研究成果をもとにB型事業所を対象としたアンケート調査の企画も進めていきたい。新型コロナウィルス感染拡大の前と後とでは、B型事業所の状況が大きく変化したと思われるため、その影響を調査・分析にどのように組み込むかが課題である。

## （2）教育活動について

昨年度と比べ本年度は、対面授業を維持することができたが、学生自身がコロナに感染したり濃厚接触者となったりした場合も多く、個別の対応が必要となった。可能な場合はzoomで受講できるようにしたり、課題の提出期限を配慮したり、他の受講生と同様の学習成果が得られるよう工夫した。実習期間中も学生自身や実習先の利用者・職員のコロナ感染が相次いだが、体調の確認や実習日程の再調整などを行い、学生が安心して実習に取り組めるように心がけた。

講義科目においては、ポイントを明確化し理解しやすい授業を心掛けた。復習問題や課題、小テストを用いて、学生自身が理解度を確認できるようにした。実習指導においては、個別指導を通じて学生の関心や考えを引き出したり、実習で得た経験について考察を深めたりできるよう努めた。3回生のゼミでは、後期に重症児を対象としたサービス事業所と障害者支援施設を訪問することができた。4回生のゼミでは、個別指導を中心となつたが、個々の学生の関心に沿ってスムーズに研究が進められるよう、情報収集や分析方法、論文としてのまとめ方などについて助言を行った。今後も遠隔と対面を組み合わせた授業展開が求められるため、どちらの形態においても多様な授業方法を盛り込み、学生の理解や考察が深まるようにしていきたい。

また本年度は2回生の学年担当を務めた。実習先やゼミなど選択する機会が多い学年であるため、学生それぞれの学習状況や希望を聞き、主体的な選択ができるようサポートした。

## （3）委員会活動・社会活動等について

委員会活動では、学部入試実施委員会の主担当となって活動した。例年より教員数が少なく、入試業務の分担に苦慮したが、滞りなく運営することができた。聴覚障害をもつ受験生が本学部を受験した際は、受験生本人や入試課と協力して適切な受験環境を調整し、問題なく受験していただくことができた。

社会活動では、対面による専門職の養成講座を行うことができた。今後もさまざまな形で、地域住民や専門職の方々、高校生などに学んでいただけるよう貢献していきたいと考える。

# 西 梅 幸 治

Koji NISHIUME

## ○研 究 活 動

### (1) 研究会参加

- 1) エコシステム研究会（太田義弘大阪府立大学名誉教授主催）への参加

### (2) 研究資金の導入

- 1) 基盤研究（C）「エンパワメント志向ジェネラル・ソーシャルワークにおける協働アセスメント方法の構築」（令和2～4年度）

- 2) 基盤研究（C）「分担研究：クィア視点に基づく性的指向・性自認に関する社会福祉士養成教育プログラムの開発」（令和2～4年度）

### (3) 論文等

#### 論文

- 1) 西梅幸治・加藤由衣（2023）「地域共生社会の実現に向けたジェネラル・ソーシャルワークの意義と展開課題」『高知県立大学紀要』72, 1-14.

## ○教 育 活 動

### (1) 担当科目

#### (学部)

「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」 「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」

「ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ」 「相談援助の理論と方法Ⅳ」

「ソーシャルワーク演習Ⅰ」 「ソーシャルワーク演習Ⅱ」

「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」 「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」

「相談援助実習指導Ⅲ」 「相談援助実習」 「ソーシャルワーク実習Ⅰ」

「社会福祉専門演習Ⅰ」 「社会福祉専門演習Ⅱ」 「社会福祉専門演習Ⅲ」

「社会福祉専門演習Ⅳ」 「相談援助演習Ⅳ」 「スーパービジョン」

#### (大学院)

「研究方法論Ⅱ」 「社会福祉原論」 「社会福祉学課題研究演習」

### (2) クラブ活動

- ・グローカルクラブ顧問 　・手話サークル顧問

## ○委 員 会 活 動

### 全 学

- ・入試実施委員会（大学院：副委員長） 　・キャリア支援委員会

### 学 部

- ・実習委員会（長） 　・総務予算委員会 　・国試対策支援委員会（長）  
・教務委員会 　・学部キャリア支援委員（長）

## ○社会的活動

- ・エコシステム研究会 副代表
- ・四国中央医療福祉総合学院 非常勤講師
- ・全国社会福祉協議会中央福祉学院 相談援助演習講師
- ・高知リハビリテーション専門職大学 非常勤講師
- ・高知県スクールソーシャルワーカー活動事業 スーパーバイザー
- ・日本学校ソーシャルワーク学会 中国四国ブロック運営委員
- ・日本学校ソーシャルワーク学会 第17回岡山大会実行委員
- ・日本社会福祉学会臨時査読委員
- ・高知県福祉教育・ボランティア学習推進委員会委員長
- ・特定非営利活動法人 結人の紹 就労支援事業所 未来ドア 第三者委員
- ・ヤングケアラー普及啓発事業委託業務に関するプロポーザル審査委員
- ・高知県子ども・福祉政策部 講師「児童福祉司任用前講習会 ソーシャルワークの基本」  
(2022年6月3日)
- ・高知県心の教育センター 講師「令和4年度第2回スクールソーシャルワーカーグループ学習会」(2022年7月23日)
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉の基礎知識Ⅰ」(2022年8月6日)
- ・高知県社会福祉士会 講師「基礎研修Ⅱ スーパーバイジ一体験」(2022年8月13日)
- ・高知県医療ソーシャルワーカー協会 講師「基礎研修 専門的援助関係とは」(2022年9月11日)
- ・高知県隣保館職員等研修事業 講師「新任職員研修Ⅱ」(2022年10月6日)
- ・高知県地域福祉部地域福祉政策課 講師「高知県中堅民生委員児童委員研修会」(2022年10月17日、10月31日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「先輩職員研修」(2022年10月20日)
- ・要約筆記者養成講座 講師「対人援助」(2022年12月10日)
- ・介護支援専門員実務研修 講師「相談援助の専門職としての基本姿勢及び相談援助技術の基礎」(2022年12月17日)
- ・第74回高知県養護教員後期研究協議大会 講師「スクールソーシャルワークの専門性について」(2022年2月2日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「相談援助応用研修」(2023年2月17日)
- ・高知県社会福祉協議会 講師「新任職員研修ステップ3」(2023年3月9日)
- ・学部リカレント研究会事業「卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会」(2022年11月10日)
- ・学部リカレント研究会事業「スクールソーシャルワーク研究会」(10月30日、11月28日、12月19日：計3回)
- ・学部リカレント研究会事業「ソーシャルワーク学習会」(12月18日、1月15日、3月27日：計3回)

## ○総合評価及び今後の課題

### (1) 研究活動について

研究活動については十分とはいえないが、継続的に研究を行ってきた。今年度も、科研費による調査を予定していたが、新型コロナ感染症流行のため、見送らざるを得なかった。定期的な研究会では、昨年度から引き続きオンラインで実施しながら、eスキャナーの新たな開発に取り組むことができた。自身の主たる研究テーマについては、その成果の一部を公表できたものの課題が残ったと感じており、次年度に集中して取り組んでいきたい。

### (2) 教育活動について

今年度も、感染症流行と新カリキュラム移行に伴い、すべての科目で大きな変更を迫られた。講義系科目（理論と方法Ⅱ・Ⅳ）では、通常の講義資料に加え、解説編を作成したり、学生相互に学びを交換できる工夫を行い、学生の理解促進に努めた。加えて、毎回の講義の感想などを提出してもらうフィードバックを作成し、授業展開の修正ならびに学生回答の提供、追加資料の配付なども行った。今後も理論と実践を融合した支援展開の修得や国試対策も見据え、学生自身が目標を持って取り組むための工夫を重ねていきたい。

実習科目では、事前指導として実習中の感染症対策や配慮について丁寧に指導した。今年度は、変更や延期はあったものの、全員が無事に実習を終えることができた。ふり返りの授業である演習Ⅳでは、グループ・スーパービジョンに取り組み、自己覚知や専門職としての姿勢が養われ、将来への動機づけを高めた成長プロセスを感じることができた。

また今年度は、6名の学生の卒論指導を行った。学生個々に、かつゼミでの相互作用をおして指導に取り組み、それぞれの努力によって就職・卒業論文・国家試験いずれもよい成果を残すことができた。大学院では、課題研究演習にて担当した院生が副指導の先生の的確な助言を得ながら、無事に修了することができた。

### (3) 委員会活動・社会的活動について

実習委員長としては、関連授業の効果・効率的な授業運営と連絡調整、および統合的な予算執行と同時に、感染症対策と管理を徹底するように努めた。キャリア支援委員長としては、キャリア支援特別講座やリカレント研究会を開催し、卒業生・在学生・教員をつなぐ機会や共同研究への契機となるような機会をつくることができた。

国試対策支援委員長としては、対策プログラムの効果・効率的運営と、4回生自身が企画する国試対策講座や国試対策勉強会のサポートに少なからず貢献できたと感じている。今年度は、学生の努力とともに、前年度の合格基準への全国的な問題提起によって基準が一定水準に落ち着いたこともあり、社会福祉士の合格率が大幅に向上した。今後も対策の成果を合否の結果に結びつけていくことに努めていきたい。

社会的活動についても、継続して高知県スクールソーシャルワーカー活用事業や要約筆記者養成、ならびに高知県社会福祉協議会での研修などにも尽力できたと感じている。特に今年度は、高知県子ども・福祉政策部子ども家庭課によるヤングケアラー普及啓発事業に、学生とともに参加することができた。今後も努力と経験を重ね、学内はもちろん地域や社会に、全国的な視野を持ちながら貢献していきたい。

# 福間 隆康

Takayasu FUKUMA

## ○研究活動

### 1 論文

- ・福間隆康「精神障がい者のキャリア初期における組織適応タイプの特徴：勤続年数に着目して」『社会福祉学』第63巻第4号, pp. 38-49, 2023年2月。
- ・福間隆康「精神障がい者の組織適応を促進する行動：プロアクティブ行動の視点から」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』第72巻, pp. 15-29, 2023年3月。

### 2 学会発表

- ・福間隆康「精神障がい者の職場適応行動の特徴：プロアクティブ行動の視点から」日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック第53回岡山大会, 2022年7月。
- ・福間隆康「精神障がい者の組織適応を促進する要因：プロアクティブ行動の視点から」第30回職業リハビリテーション研究・実践発表会, 2022年11月。

### 3 外部資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（基盤研究(C)）「障害のある従業員の組織社会化過程における個人の適応行動に関する研究」（2022年度～2025年度）

## ○教育活動

### 1 学部

- ・福祉対象入門
- ・福祉援助入門
- ・地域福祉論 I
- ・福祉サービスの組織と経営
- ・社会福祉専門演習 I・II・III・IV
- ・ソーシャルワーク演習 I・II
- ・ソーシャルワーク実習指導 I・II
- ・相談援助実習指導 III
- ・相談援助演習 IV
- ・ソーシャルワーク実習 I
- ・相談援助実習

### 2 研究科

- ・研究方法論 II
- ・地域福祉論 I
- ・副研究指導

## ○委員会活動

### 1 全学

- ・図書館委員会委員

## 2 研究科

- ・博士前期課程学務委員
- ・情報処理施設委員会委員

## ○社会的活動

### 1 委員等

- ・特定非営利活動法人大阪障害者雇用支援ネットワーク 地域連携事業部委員
- ・一般社団法人四国ソーシャルインクルージョンセンター 協力委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国ネットワーク連絡会委員
- ・南国市社会福祉協議会 南国市あつたかにんにん運営委員会委員

## ○総合評価及び今後の課題

### 1 研究活動

科学研究費助成事業（若手研究）および（基盤研究（C））の研究成果の一部を学会報告するとともに、学術雑誌および研究紀要に掲載することができた。次年度は、科学研究費助成事業（基盤研究（C））の研究計画書に基づき着実に研究を遂行し、研究成果の一部を学会で報告するとともに、学術雑誌に投稿する予定である。

### 2 教育活動

授業では、アクティブ・ラーニングに重点を置き、学生に主体性をもって答えのない問題に答えを見いだしていくよう努めた。学生には講義を聴くだけではなく、より発展した疑問を考えさせたり、自分の意見を発表させたりするよう思考の可視化を行った。

具体的には、学習意欲の ARCS モデルに基づき、以下の取り組みを行った。  
①思考を促す問い合わせをしたり、最新の研究テーマ紹介し、探究心を喚起した。  
②口頭説明の間に動画を入れたり、多様な資料を提示し、表現方法を変化させた。  
③授業内容が将来に役立つことを伝え、目的志向性を高めた。  
④身近な具体例を提示し、授業内容を学生の体験・知識とひも付けた。  
⑤課題へ取り組むスマールステップを提示し、成功の機会を提供した。  
⑥課題の自己評価を促し、成功要因を自分に帰属させるようにした。  
⑦仮想ではなく、現実の事例・データを用いて、学ぶこと自体を楽しむようにサポートした。  
⑧課題に対して追加点を与える、外的報酬を高めた。

次年度は、学生による授業評価に基づき授業を改善するとともに、学生の積極的な意見交換を促すことができるオンラインツールを利用し、授業を充実させていきたい。

### 3 委員会・社会的活動

社会福祉コース主担当として、新カリキュラムに対応した実習関連科目および実習を実施することができた。博士前期課程学務委員として、大学院ルートでの「認定社会福祉士」の資格取得制度の設置を円滑に進めることができた。日本ソーシャルワーク学校教育連盟担当者として、各ブロックセミナーに参加し、ソーシャルワーク実習に関する情報を収集することができた。

南国ネットワーク連絡会および南国市あつたかにんにん運営委員会において、関係機関・団体とつながりをつくることができた。今後は、高知県内の企業等との共同研究や産学官民の交流の場への参加等を通じ、産業界および地域の発展に貢献できるよう取り組んでいきたい。

# 加 藤 由 衣

Yui KATO

## ○研 究 活 動

### (1) 論文・著書等

- ・西梅幸治・加藤由衣「地域共生社会の実現に向けたジェネラル・ソーシャルワークの意義と展開課題」『高知県立大学紀要 社会福祉学部編』第 72 号, 1-14, 2023 年 3 月.

### (2) 研究会参加

- ・エコシステム研究会（太田義弘主催）への参加

### (3) 競争的資金の獲得状況

- ・科学研究費助成事業（若手研究）「省察的実践の理論に基づくソーシャルワーク実践方法と省察ツールの開発」（平成 30 年度～令和 4 年度），研究代表者

### (4) その他

- ・日本社会福祉士養成校協会編（2022）『社会福祉士国家試験模擬問題集 2023』中央法規

## ○教 育 活 動

### (1) 担当科目

- |                     |                     |
|---------------------|---------------------|
| ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ」 | ・「ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ」 |
| ・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ」  | ・「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ」  |
| ・「児童・家庭福祉論」         | ・「子育て支援論」           |
| ・「ソーシャルワーク実習指導Ⅰ」    | ・「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」    |
| ・「相談援助実習指導Ⅲ」        | ・「相談援助演習Ⅳ」          |
| ・「相談援助実習」           |                     |
| ・「社会福祉入門演習」         | ・「社会福祉基礎演習」         |
| ・「社会福祉専門演習Ⅰ」        | ・「社会福祉専門演習Ⅱ」        |
| ・「社会福祉専門演習Ⅲ」        | ・「社会福祉専門演習Ⅳ」        |

### (2) 学生支援

- ・1回生学年担当
- ・ハモ☆いけ顧問
- ・バスケットボール部顧問
- ・こどもみらい塾顧問

## ○委 員 会 活 動

### (1) 全学委員

- ・入試実施委員会
- ・FD 委員会

### (2) 学部委員

- ・学部キャリア支援委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部学生委員会
- ・学部入試実施委員会
- ・福祉実習支援室長

## ○社会的活動

### (1) 学外講師等

- ・南国市教育委員会スクールソーシャルワーカー
- ・高知県教育委員会チーフスクールソーシャルワーカー
- ・高知県社会福祉士会理事
- ・高知県子どもの環境推進委員会委員
- ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「社会調査の基礎」担当）
- ・社会福祉士通信課程短期養成校コース講師（「相談援助演習」担当）
- ・三好市社会福祉協議会 講師「よりそい相談研修会」（2022/9/30）
- ・高知県福祉研修センター事業 講師「相談援助技術基礎研修」（2022/11/2、12/21）
- ・高知県隣協人権課題別研修 講師「子どもの人権」（2022/11/10）
- ・要約筆記者養成講座 講師「社会福祉従事者としての専門性」（2022/12/18）

## ○総合評価及び今後の課題

### (1) 研究活動について

科研費（若手研究）の研究については、省察的実践を支援するツール開発に向けた取り組みを進めた。具体的には、エコシステム研究会で開発してきた実践支援ツールを、省察的実践支援ツールとして活用するための改修を進めるとともに、省察的実践に関する具体的な質問項目をツールに導入した。次年度は、開発した省察的実践支援ツールの検証作業に着手し、実践で活用可能なツールの精緻化を図っていきたい。

### (2) 教育活動について

本年度も引き続き、講義科目においては遠隔授業による教育を中心の一年であった。そのなかで、学生同士の意見交換やグループディスカッションによりソーシャルワーク支援の方法を深められるように、グループ課題の設定と早めのアップ作業などにより、グループ学習を促す工夫をした。しかし遠隔授業でのグループ学習は、学生間で取り組み状況の差も大きいため、次年度は、グループ学習に関しては可能な限り対面で実施しながら、学生間や学生と教員の相互作用を活性化できるようにしていきたい。

実習教育においては、感染拡大による実習期間の変更や実習内容の制限が生じた学生もいたため、学生がモチベーションを維持し、目的をもって実習に臨めるように、学生・実習指導者と密に連絡を取りながら、学生へのきめ細やかな支援に力を注いだ。そして事後指導では、実習後のグループスーパービジョンを丁寧に行うことで、学生が各自の体験を共有しながら、子ども・家庭を支援する専門職の役割や子ども家庭分野のソーシャルワークについて深められていたように感じる。本年度の成果と課題をふまえつつ、今後も学生が体験的な学びからソーシャルワーカーとしての力量を向上できるように、実習指導者とも密に連携し、教育内容・方法の改善に取り組んでいきたい。

また本年度は、1回生の学年担当として、学生が計画的に授業を履修できるように全体指導をするとともに、履修コース等の個別相談に応じながら、個々の学生が充実した学生生活を送ることができるよう支援した。また、コロナ禍で様々な活動が制限されるなかで、学生同士が交流できるように、学生による学生間交流の企画を促した。次年度以降も学生の状況を把握し、丁寧な学生支援と学生間の交流促進に尽力していきたい。

# 河 内 康 文

Yasufumi KOCHI

## ○研 究 活 動

### 1. 論 文

河内康文「介護職員の職場外・職場内研修への参加と成長実感の関連」.『厚生の指標』69(8), pp.32-38. 2022年8月.

### 2. 競争的資金の獲得

(1) 科学研究費補助金若手研究[2019年度～2021年度]「介護現場リーダーの越境的学習に基づく職場学習の実証研究－混合研究法に基づく分析－」(代表者:河内康文)  
※新型コロナウイルスの影響により1年期間延長

### 3. フォーラム講演録

河内康文・寶子丸周吾・山中康平・久保田トミ子「第18回日本社会福祉学会フォーラム国際化する福祉人材と社会福祉運営管理～地域共生社会を志向するなかで～日本社会福祉学会中国・四国地域ブロック機関誌編集委員会発行.『中国・四国社会福祉研究』第10号. pp.1-34. 2023年2月.

## ○教 育 活 動

1. 介護の基本 I
2. 介護の基本III
3. コミュニケーション技術
4. 介護総合演習I
5. 介護総合演習II
6. 介護総合演習III
7. 介護総合演習IV
8. 介護実習I
9. 介護実習II
10. 介護実習III
11. 障害の理解II
12. 社会福祉専門演習I
13. 社会福祉専門演習II
14. 社会福祉専門演習III
15. 社会福祉専門演習IV

## ○委 員 会 活 動

1. 広報委員会委員長
2. 介護福祉コース主担当
4. 健康管理センター運営委員会
5. 教務委員会
6. 社会福祉研究倫理審査委員会
7. 入試実施委員会
8. 共通テスト実施委員会

## ○社 会 的 活 動

### 1. 委員等

- (1) いの町社会福祉協議会成年後見運営委員
- (2) 南国市高齢者及び障害者虐待防止ネットワーク委員会委員
- (3) 高知市障害者計画等推進協議会 副会長
- (4) 高知県福祉人材センター・福祉研修センター運営委員会副委員長
- (5) 高知県自立支援協議会委員
- (6) 高知県障害者施策推進協議会委員
- (7) 高知県自立支援協議会専門部会長

## 2. 講演等

- (1) 高知県キャリア教育推進事業高校生講座 高知小津高等学校、高知西高等学校：両校 9月 28 日.
- (2) 高知県社会福祉法人経営青年会 講師「学生から就職したいとい思われる職場を目指して」 8月 18 日（高知市）.
- (3) 高知県立大学地域教育研究センター 夜学講師「福祉と介護の仕事」（本山町プラチナセンター） 10月 21 日.
- (4) 高知県社会福祉協議会 福祉職場の人材育成推進セミナー「福祉職場の人材育成を科学する—データから見える人材の成長」 2月 10 日（高知市）.
- (5) 高知県社会福祉協議会 新人職員研修 講師「入職後の実践を振り返り専門職としての目標を考える」 12月 6 日（四万十市）、12月 16 日（安芸市）、2月 17 日（高知市）.
- (6) 高知県立大学 FD 研修会 「コミュニケーション技術におけるパフォーマンス課題に基づくループリック評価の試み」 3月 7 日

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

担当科目では、学生の関心や年次、新型コロナウイルスの感染状況に応じて、遠隔リアルタイム双方向型、録画配信型、対面授業を実施した。録画配信型では、電子黒板を活用した配信を行った。コミュニケーション技術では、ループリック評価をはじめて試みた。ループリック評価は、学生から概ね高い評価が得られた。今後も継続して、より精度を高めていきたい。ゼミ活動では、高知県社会福祉協議会の協力を得て福祉介護事業所向けに学習内容を発表する機会を得た。学生の学びの促進とともに、学外に向けた知の発信につながったと思われる。

### 2. 研究活動について

代表者として科学研究費で取り組んでいる研究の量的調査を分析し、論文としてまとめ発表した。また、今年度は質的調査を実施し、分析を進めている。

### 3. 社会活動について

科学研究費で取り組んでいる研究成果を高知県社会福祉協議会が主催する研修で反映することができた。また、高知市・高知県の障害者計画等に参画ができた。高知県の福祉・介護の課題に対して、少しでも貢献ができるように研鑽をしていく。

私の教育・研究・社会活動に大きな影響力を与えてくださった宮上多加子先生に敬服と感謝を申し上げます。宮上先生が与えてくださった数多くのサポートにどれだけ応答することができたのであろうかと振り返っています。宮上先生に頂いた多くのものを少しでもお返しできるように、また先生が積み上げてきたものを引き継いでいけるように教育・研究・社会活動に向けて努力を重ねていきたいと思います。

# 辻 真 美

Mami TSUJI

## ○研 究 活 動

### 1. 論文

- ・宮上多加子・辻真美・荒川泰士・笹村聰「ICT を導入した訪問介護事業所における職場学習－質問紙調査による分析－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』72, pp45-57. 2023年3月.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士・下元佳子「ホームヘルパーが体験した最もつらく深刻なハラスメント－質問紙調査からの分析－」『高知県立大学紀要社会福祉学部編』72, pp59-71. 2023年3月.

### 2. 学会発表

- ・荒川泰士・宮上多加子・辻真美「訪問介護事業所における ICT の利用実態調査からの一考察」第 27 回日本在宅ケア学会学術集会. 抄録集 p 34. 2022 年 7 月 30 日.
- ・辻真美・三好弥生・岡京子・荒川泰士「ホームヘルパーが利用者から受けるハラスメントの実態報告」第 30 回日本介護福祉学会大会. 抄録集 p 64. 2022 年 10 月 9 日.
- ・横田純子・村上留美・椿大輔・辻真美「留学生を対象とした介護総合演習の教育課題の検討—プロセスレコード記録から見えてきたこと—」第 30 回日本介護福祉学会大会. 抄録集 p 27. 2022 年 10 月 9 日.

### 3. 学内外の競争的資金の獲得状況

- ・令和 2 年度～4 年度 日本学術振興会科学研究費補助事業（若手研究）「ホームヘルパーが利用者から受けているハラスメントの実態と要因に関する研究」（代表者）
- ・高知県立大学戦略的研究推進プロジェクト「特別養護老人ホームにおける入所者の自分らしさを支えるケア指針の作成」（代表者：藤村眞紀）（研究分担者）

## ○教 育 活 動

- ・介護の基本 II ・認知症の理解 I , II ・コミュニケーション技術・社会福祉専門演習 I ~IV ・介護総合演習 I ~IV ・介護実習 I ~III ・介護論（健康栄養学部）・ケアマネジメント論・ケアマネジメント演習

## ○委 員 会 活 動

- ・災害対策委員・健康長寿センター運営委員・国際委員・総務予算委員会・学生委員会（23 期生学年担当）・介護人材確保事業部会

## ○社 会 的 活 動

### 1. 委員等

- ・富士屋ヘルパーステーションベターライフ登録ヘルパー・手話サークルゆびの会・高知県ホームヘルパー連絡協議会理事・高知県介護福祉士会倫理委員会委員・日本介護福祉学会評議員・高知市斎場運営協議会委員・介護労働安定センター高知支部（ヘルスカウンセラー, 雇用管理コンサルタント, 介護人材育成コンサルタント）

### 2. 学外講師等

- ・高知県ホームヘルパー連絡協議会全体研修会「事業所におけるハラスメント防止の取り組み」（2022 年 5 月 21 日, 7 月 16 日）
- ・永国寺キャンパス「介護等体験事前指導」（2022 年 5 月 16 日）

## 教育研究活動報告書（辻 真美）

- ・高知大学「介護等体験事前指導」（2022年4月19日 オンライン）
- ・第38回本山町公開講座夜學（お昼の特別講座）「健康体操」（2022年9月7日）
- ・ひなた薬局「認知症カフェミニ講座」（2022年9/24, 10/22, 12/24, 1/28）
- ・社会福祉学部リカレント教育講座「介護現場における介護従事者が利用者や家族等から受けるハラスメントについて」（2022年10月16日）
- ・高知県福祉研修センター ケアテーマ別基本研修「レクリエーション」（2022年7月13日, 8月17日, 10月13日 オンライン併用）
- ・高知県ホームヘルパー連絡協議会「高校生ふくしキャンプ」（2022年8月26・27日）
- ・介護労働講習（実務者研修含）「サービス提供責任者とは」（2022年11月8日）
- ・ふくし総合フェア来場者向けセミナー「ハラスメント研修」（2022年11月18日）
- ・高知県福祉・介護職員若手職員研修及び介護交流会「コミュニケーション基礎編その1, その2」（2022年7月28日オンライン, 12月23日 オンライン）
- ・ホームヘルパー連絡協議会四国ブロック徳島大会研修（2022年12月10日）
- ・広島県訪問介護事業連絡協議会サービス提供責任者研修（2022年12月17日）
- ・令和4年度広報活動用映像制作事業 ミニ講義「社会福祉学部×防災」（動画撮影）
- ・高知市居宅介護支援事業所協議会（東部・西部ブロック）「ハラスメント研修」（2023年1月18日, 2月7日）
- ・第64回高知医療センター地域医療連携合同研修会（包括的連携事業）「在宅ケアを担うホームヘルパーからみた医療との連携」（2023年2月18日）
- ・新見公立大学 ケアネットにいみ研修会「介護を語ろう」（2023年3月4日）
- ・ヘルスカウンセラー及び雇用コンサルタント, 介護人材育成コンサルタント（計8回：6/9, 6/17, 10/6, 11/11, 11/15, 1/19, 2/9, 3/14）
- ・おうちで健康長寿体験型セミナー「日々の生活に取り入れよう②食べるときの姿勢とコツ」, 「認知症の人とのかかわり方」（動画公開）
- ・富士屋ヘルパーステーションヘルパー定例会（2022年5～6月, 2023年2月）

### ○総合評価及び今後の課題

#### 1. 教育活動について

今年度新たな科目を担当したが、なんとか遂行することができ安堵している。次年度はいよいよ4回生の学年担当となる。その重要な責務を果たせるよう、これまでと同様、細部についても行貞先生と相談しながら進めていきたい。学生のニーズを聴きながら面前の出来ることを検討すること、また、学生と関わる時間を大切にしていきたい。

#### 2. 研究活動について

科研最終年となる3年目も、研究計画が思うように進まず不安や苦悩があった。しかし、先生方の励ましや貴重なご助言を得ながら口頭発表と論文を公表することができた。また、ホームヘルパーを対象としたアンケート調査と聞き取り調査（追加分）を行うことができた。得られた研究成果は、現場の実践者にフィードバックできるよう、丁寧に分析を続けていくことを常に忘れず研究を進めていきたい。

#### 3. 社会活動について

現場のニーズに沿った内容を目指していくことは、利用者や家族介護者の生活の豊かさや安心、居場所づくりへと繋がっていく。利用者及びケアラーの方々、エッセンシャルワーカーとして尊敬する現場の方々や卒業生に向けて、少しでも貢献につながる機会を創出できる社会活動を目指していきたいと考えている。

# 行 貞 伸 二

Shinji YUKISADA

## ○研 究 活 動

### 1. 論文

行貞伸二・西島文香「高知県町村部における福祉行政の実態に関する研究—町村役場に対するアンケート調査から—」『Humanismus』第34号、2023年3月。  
西島文香・行貞伸二「住宅セーフティネット制度と住居確保給付金の現状と課題—コロナ禍における高知市の実態から—」『高知論叢』（高知大学経済学会）、第124号、2023年3月。

### 2. 著 書

なし

### 3. 研究発表

行貞伸二「『市町村中心主義』のもとでの町村部における社会福祉行政—町村は『社会福祉拡大』の要請にどこまで応えられるか」日本法政学会第137回総会及び研究会（白鷗大学、2022年11月26日）。

行貞伸二「社会福祉行政におけるナショナルミニマム再考」2022年度 現代福祉政策研究会（大阪公立大学、2023年3月21日）。

### 4. 競争的資金の獲得

なし

## ○教 育 活 動

### 【担当科目】

- |            |                  |
|------------|------------------|
| ・社会福祉史     | ・権利擁護論           |
| ・公的扶助論     | ・社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ   |
| ・相談援助演習Ⅱ・Ⅳ | ・相談援助実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ   |
| ・相談援助実習    | ・社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ |
| ・生活と社会福祉   | ・地域学実習Ⅰ          |

## ○委 員 会 活 動

### 1. 全 学

共通教育専門委員会、学生委員会

### 2. 学 部

教務委員会、学生委員会、情報処理施設委員会、研究倫理審査委員会、紀要委員会

## ○社 会 的 活 動

### 〔学外非常勤講師、研修会講師等〕

- ・高知学園短期大学看護学科（「看護と福祉」、全8回）
- ・高知県社会福祉協議会 生活困窮者自立支援制度人材養成研修 都道府県研修（後期研修）「生活困窮者自立支援制度の理念について～ホームレス支援の実践から～」

[委員等]

- ・高知県共同募金会 配分委員
- ・高知県共同募金会 評議員
- ・高知県営住宅入居者選考基準等審査委員会 委員
- ・高知市民生委員推薦会 委員
- ・高知市行政改革推進委員会 委員

○総合評価及び今後の課題

1. 教育活動について

(1) 授業について

「社会福祉史」「権利擁護論」「公的扶助論」「社会福祉の原理と政策Ⅰ・Ⅱ」などの講義科目においては、対面授業と遠隔授業の併用形式で行った。遠隔授業では、原則として、MOODLE 上に授業のレジュメ、参考資料、講義内容を録音した音声ファイルをアップしておき、学生はレジュメおよび参考資料を確認しながら音声で授業を受講するという方法をとった。一方、「社会福祉史」では、対面、遠隔オンライン、遠隔オントンデマンドのなかから学生が受講方法を自由に選択できるよう授業方法に配慮した。また、これらの講義科目では、授業回ごとに MOODLE のフィードバック機能でリアクションペーパーを提出してもらい、学生個々の理解度を確認するばかりでなく、学生に対してコメントも行うなど双方性に配慮し、また、授業内容や教授方法の改善にも役立てた。「社会福祉史」および「権利擁護論」は 4 回生配当科目であることから、社会福祉士・精神保健福祉士の国家試験への対応の観点から、MOODLE の小テスト機能を利用して国家試験の過去問に回答する小テストをすべての授業回ごとに実施し、知識の定着に配慮した。

演習科目については、可能な限り対面での授業を心掛けた。その際には、事例を用いる、グループワークを取り入れるなど、学生の主体的学びを促すよう配慮した。また、学生個々の思いや到達度をつねに把握できるよう心掛けた。

(2) 学年担当について

2021 年度より、辻真美先生と 23 期生（3 回生）の学年担当を受け持っている。

コロナ禍における大学生活が 3 年目となった 3 回生であったが、こうした状況、環境のなかでも円滑に大学生活を送ることができるよう最大限のサポートを行い、その思いで 1 年間継続した。

2. 研究活動について

高知県の町村福祉行政の実態に関する研究を進めた。

今後の課題として、研究者ばかりでなく実践者とも共同研究を遂行できるようなネットワークづくりを進め、地域に貢献できる研究を行っていきたい。

3. 社会活動について

社会福祉学部教員として社会に貢献できる活動を行いたい。

# 稻垣 佳代

Kayo INAGAKI

## ○研究活動

### (1) 論文

- Teruo Yokoi, Kayo Inagaki (2003) 「A Good Casework Relationship and Buddhist Philosophy」 International Social Work.

### (2) 学内外の競争的資金の獲得状況

- 高知県立大学戦略的研究プロジェクト推進費による活動「メンタルヘルスの課題を抱える人と支援者のつながりの構築」(研究代表者：藤代知美、研究分担者：塩見理香、高橋真紀子、稻垣佳代)
- 令和4年度 厚生労働科学研究費補助金（障害者政策総合研究事業）「障害者総合支援法の見直しを踏まえた、地域で暮らす障害者の地域生活支援の効果的な支援方法及び評価方法の検討のための研究」(研究代表者：田村綾子、研究分担者：青石恵子、鈴木孝典、曾根 直樹、藤井千代、研究協力者：稻垣佳代 ほか)

### (3) 発表

- 日本地域看護学会第25回学術集会「メンタルヘルスにおける『つながり』の概念分析」(藤代知美、塩見理香、高橋真紀子、稻垣佳代)

## ○教育活動

### (1) 講義

- 精神保健福祉援助技術各論
- 就労支援サービス
- 精神保健福祉援助演習
- 精神保健福祉援助実習指導Ⅰ・Ⅱ
- 精神保健福祉援助実習Ⅰ・Ⅱ

### (2) 講義以外

- 国家試験受験生への学習支援

## ○委員会活動

- 実習委員会
- 入試委員会
- 国試対策支援委員会
- 入試広報部会

## ○社会的活動

- ・日本精神保健福祉士協会「就労・雇用支援の在り方検討委員会」委員
- ・高知県精神医療審査会 委員
- ・高知医療学院 非常勤講師（「社会福祉学」担当）
- ・土佐リハビリテーション学院 非常勤講師（「社会福祉学概論」担当）
- ・特定非営利活動法人 就労サポートセンターかみまち 理事
- ・高知県立大学同窓会しらさぎ会 理事
- ・令和4年度あつたかふれあいセンター職員コーディネーター研修講師

## ○総合評価と今後の課題

### (1) 教育活動について

コロナ禍も3年目を迎える、実習の受け入れなど厳しい状況が続くなか、実習指導者や実習先のご尽力により今年度も学内実習ではなく全員が現場に身を置いて学びを深めることができた。また、見学訪問（配属実習に向けた事前学習の一環）も再開し、実習先となる病院や事業所等に学生が訪問し、実習指導者や職員から説明を伺ったり、施設内を見学したりする機会をもつことができた。

対面講義の機会も増え、オンライン講義では不足しがちだった学生同士のディスカッション、講義前後の雑談を含むコミュニケーションが活発となり、好循環が生まれていると感じる。

### (2) 研究活動について

学内外において共同研究の機会をいただき、研究分担者、研究協力者として調査・研究に携わることができた。それぞれの立場で携わることにより、研究の進捗管理、共同研究者への配慮、調査協力者との意見交換の機会の持ち方など共同研究に係るさまざまなノウハウを学ぶことができた。

### (3) 社会活動について

あつたかふれあいセンター職員・コーディネーターを対象にした研修の機会をいただき、「私（たち）が経験したかかわりの失敗から学ぶ～相談支援のきほん～」というテーマで講義をさせていただいた。研修の企画運営に携わっていたのは本学の卒業生であり、研修参加者にも卒業生が複数いた。現場で試行錯誤している卒業生の姿が頼もしく、月日の流れの早さを感じるとともに教育や学生へのかかわりを振り返る機会にもなった。

### (4) 今後の課題

現在は新カリキュラムへの移行期であり、学内外で必要となる手続き等も抜かりがないよう進めたい。精神保健福祉士養成課程の教員が2名不足している厳しい状況が次年度も続くため、学生に不利益がないよう尽力したい。

# 大熊 絵理菜

Erina OGUMA

## ○研究活動

1. 論文・報告書・著書・発表
  - ・なし

## ○教育活動

- |                |                |
|----------------|----------------|
| ・相談援助演習Ⅲ       | ・相談援助演習Ⅳ       |
| ・ソーシャルワーク演習Ⅰ   | ・ソーシャルワーク実習指導Ⅰ |
| ・ソーシャルワーク実習指導Ⅱ | ・相談援助実習指導Ⅲ     |
| ・相談援助実習        | ・ソーシャルワーク実習Ⅰ   |
| ・生活と社会福祉       | ・チームアプローチ      |
| ・医療ソーシャルワーク論   | ・医療福祉論         |

## ○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部総務・予算委員会
- ・学部広報支援委員会
- ・学部情報処理委員会
- ・学部学生委員会（22期生学年担当）
- ・医療センター連携事業

## ○社会的活動

1. 学外講師等
  - ・学校法人すみれ学園 高知福祉専門学校非常勤講師（「相談援助の理論と方法」担当）
  - ・令和4年度 高知県医療ソーシャルワーカー協会月例会研修「ソーシャルワークの質があがるスーパービジョン」講師〔2022年1月21日（土）Zoomにて実施〕

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

学生が卒業後の進路において、粘り強くクライエントや他職種と関われるような人材を育成したいと考えている。粘り強く社会で活躍するためには、学生自身が自己肯定感をもつこと、そして自分自身について考察できる力をもつことが大切であると考えている。そのため、講義や演習では自身の経験も話しながら、ソーシャルワークの難しさ楽しさを伝え、ソーシャルワークに興味や関心をもってもらうことを大切にしながら行った。また講義以外でも学生とのコミュニケーションを積極的にとり、学生の良いこと

## 教育研究活動報告書（大熊 絵理菜）

も悪いことも含めて、根拠を提示しながら評価することも大切にした。学生自身が自分の良いところに気づき、それはかけがえのないものであると感じることができれば、自己肯定感をもつことや自分自身について考察できる力につながると考えている。またその力がクライエントと関わるときに、クライエントをかけがえのない存在として認めることに繋がると考えている。

今年度は教員が不足している中で、新カリキュラムが開講し、今まで経験したことがない事務作業や授業の準備に日々が追われていた。その中で、学生を主体にしながら教育することは容易いことではなかった。次年度は事務作業の効率化を図り、学生を主体しながら教育活動が出来るように精進したい。

### 2. 学年担当について

今年度も引き続き 22 期生（4 回生）の学年担当となった。今年度は最終学年ということもあります、4 月中に前期の学年担当であった大松先生と分担して、学生との就職面談を実施した。また必須の単位を落としている学生には、個別の履修指導を行った。

10 月には後期の学年担当であった宮上先生と分担して、卒業単位が履修出来ているかどうかの確認を行い、履修指導が必要な学生には指導を行った。特に後期は、卒業論文の執筆、国家試験の勉強、就職活動等、疲弊している学生もいた。学年担当としては、積極的に学生へ声をかけたり、メッセージを送ったりと叱咤激励を行った。

学部の先生方のおかげで国家試験の合格率については嬉しい結果を残してくれた。22 期生については休学から復学した学生もいるため、引き続き次年度も対応していきたいと考えている。

### 3. 研究活動について

今年度も引き続き、医療ソーシャルワークにおけるスーパービジョンについての勉強会を、現場のソーシャルワーカーと実施している。それが実を結び、スーパービジョンの研修会を実施することが出来た。また高知医療センター包括連携事業でも、スーパービジョン体制を整えるべく、講義や実践形式の演習を実施した。次年度は、この取り組みを研究発表、研究活動につなげるようにしていきたいと考えている。

### 4. 社会活動について

今年度は、高知県医療ソーシャルワーカー協会の月例部会で会の運営を行い、研修会を実施した。研修会の大半が、WEB 開催となつたが、その中で、現場のソーシャルワーカーと積極的にコミュニケーションをとり、実践についてや就職のことなど、様々な情報共有を行うことが出来たと感じている。次年度も、協会活動を積極的に行い、学生のソーシャルワーク実習や就職活動へ繋がるようにしていきたいと考えている。

# 片岡 妙子

Taeko KATAOKA

## ○研究活動

### 1. 論文

なし

### 2. 学内外の競争的資金の獲得状況

日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和4年度～令和6年度）

研究課題名：「重度要介護高齢者の内在的能力に着目した生活継続のための指標に関する研究」研究代表者：片岡妙子

日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和5年度～令和9年度）

研究課題名：「施設職員の『演じる行為』を涵養する研修プログラムの開発」

研究代表者：田中眞希先生

## ○教育活動

### 担当科目

- |          |          |
|----------|----------|
| ・介護総合演習Ⅰ | ・介護の基本Ⅱ  |
| ・介護総合演習Ⅱ | ・介護の基本Ⅲ  |
| ・介護総合演習Ⅲ | ・介護過程Ⅳ   |
| ・介護総合演習Ⅳ | ・生活支援技術Ⅲ |
| ・介護実習Ⅰ   | ・医療的ケアⅠ  |
| ・介護実習Ⅱ   | ・医療的ケアⅡ  |
| ・介護実習Ⅲ   | ・介護技術    |

## ○委員会活動

- ・学部実習委員会
- ・学部健康長寿センター委員
- ・学部入試委員会
- ・学部情報処理委員会
- ・学部国試対策支援委員会
- ・学部広報委員会
- ・学部入試広報部会

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・「全国高校生介護福祉研究発表大会四国地区予選」審査員

### 2. 学外講師等

- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2月28日）

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

対面と Zoom 等を併用した教育活動が 3 年目となった。学生教員ともに併用の授業形態に慣れ、ムードル上の課題提出等も順調に行えている。今後、感染症を留意した対応が終了することを考え、次年度以降の授業方法を検討していく必要がある。介護実習については、昨年度春に行う予定の介護実習Ⅲが 5 月に延期となり、実習中も感染症対策のため急遽学内実習に変更する等の対応が必要となった。不安定な状況で実習に向かう学生に対して、卒論、就職活動等多忙となる 4 回生での実習であることも考え、通常以上にメンタル面でのサポートを行うよう留意した。同様に昨年度春に介護実習Ⅰが学内実習に切り替わり介護実習Ⅱを向えた 2 回生に対しては、施設実習の経験が少ない今までの実習であることへの配慮が不十分であったと感じている。今後、学生の傾向も以前とは変わってくることが考えられる。コースの教員間で学生の状況を共有しながら教育活動を行っていきたい。

### 2. 研究活動について

研究代表者として、日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和 4 年度～令和 6 年度）の研究活動を行う予定であったが、新型コロナ感染症者の増加に伴う施設の業務多忙により、調査実施に至らなかった。そのため、今年度はこれまでの知見の整理を行うとともに、新らしい知見を追加できるよう、社会学からみたケアの概念について文献検討を行った。次年度は、研究分担者である愛知東邦大学三好教授と調査対象施設を選定し、調査を実施していく。

また、今年度、田中眞希先生が研究代表者である日本学術振興会科学研究費補助事業（基盤研究（C）令和 5 年度～令和 9 年度）の研究分担者となった。昨年田中眞希先生らと調査を行った研究の継続発展させるテーマであり、今後も田中眞希先生らとの共同研究を進めていきたいと考えている。

### 3. 委員会活動

主にこれまでの委員を継続して担当した。情報処理委員会で昨年行った学部内（各教室・学生自習室）PC 等の状況の確認を受け、使用頻度の少ない機器類の整理を行った。各学生が自身のノートパソコンを持参することが多くなり、自習室のパソコンが活用される機会は少ない。そのため、情報処理委員長、総務委員長に相談し、スペックの高いパソコン数台を設置するよう変更した。今後、学生が学内で課題等に取り組めるよう、自習室の環境を整えていく。

### 4. 社会活動について

昨年度に引き続き行った「全国高校生介護福祉研究発表大会四国地区予選」の審査では、昨年同様、高校や専門学校等で教職をされている他の審査員の方々より良い刺激を頂いた。

# 田 中 真 希

Maki TANAKA

## ○研究活動

### 1. 論文

- ・恒吉真希「障害者施設利用者との相互関係に着目した介護職員の『演じる行為』」高知県立大学大学院人間生活学研究科人間生活学専攻博士後期課程学位論文 2023年3月

### 2. 著書

### 3. 学会発表

### 4. 競争資金の獲得

} なし

## ○教育活動

- ・障害の理解 I
- ・生活支援技術 I
- ・生活支援技術 III
- ・介護総合演習 I
- ・介護総合演習 III
- ・介護実習 I
- ・介護実習 III
- ・介護等体験事前指導（文化学部）
- ・生活支援技術 II
- ・生活支援技術 IV
- ・介護総合演習 II
- ・介護総合演習 IV
- ・介護実習 II
- ・介護論（健康栄養学部）

## ○委員会活動

- ・学部総務予算委員会
- ・学部実習委員会
- ・学部国試対策委員会
- ・学部介護人材確保事業部会

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- ・社会福祉法人ミレニアム 障害者支援施設 アドレス・高知 第三者委員
- ・高知県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会研修企画委員会委員
- ・公益財団法人ひかり協会 高知県地域救済対策委員

### 2. 学外講師等

- ・令和4年度 介護福祉士実習指導者講習会「実習指導の理論と実際」講師（2022年11月10日）
- ・高知工科大学「介護等体験事前指導」講師（2022年3～4月※Moodle）

## 教育研究活動報告書（田中 真希）

- ・学部リカレント研究会事業「介護コース卒業生を対象とした事例検討と情報交換会」  
(2023年3月17日)
- ・高知県キャリア教育推進事業高校生講座 高知商業高等学校：2022年8月25日，  
高知南高等学校：2022年9月21日
- ・高知県キャリア教育推進事業 高校生のためのWeb EVENT 第4弾「認知症を地域で  
支える」(2023年3月22日)

### ○総合評価及び今後の課題

#### 1. 教育活動について

一昨年度から続く新型コロナウイルス感染症の影響で、介護実習が年度を超えての延期となるなど、実習先との連絡調整はもちろん、学内関係者への連絡などの対応が必要であった。実習実施の状況が変わるために、学生が混乱しないことを心がけて取り組んだ。新型コロナウイルス感染症の影響は快方に向かっているが、施設利用者は今後も慎重な対応が必要となるため、介護実習においては実習先との連絡や先生方と情報共有をしながら、学生の教育効果を考えて取り組みたい。

一方で、コロナ禍前のように授業ではゲストスピーカーを招くなど、教育効果を考えた取り組みを実践したい。また、リアクションペーパーの活用など、学生が主体的に取り組むことができるような授業内容の工夫を継続して実践する。

介護コース卒業生を対象とした学部リカレント研究会では、久しぶりに対面で実施ができた（Zoomを併用したハイブリッドで実施）。宮上先生が3月末で退職されたため、元本学部教員の黒田先生や三好先生をお招きし、多くの卒業生・在校生が参加した。介護コース創設の経緯やこれまでの出来事について共有し、懐かしさを感じると共に、継続した教育実践の必要性を感じた。

#### 2. 研究活動について

昨年度実施した障害者施設での調査結果をまとめ、学位論文にまとめることができた。博士後期課程在籍の3年間はコロナ禍が重なり、常に不安があった。しかし、主査の宮上先生の丁寧なご指導、副査の杉原先生、五百蔵先生、社会福祉学部の先生方の温かいサポートがあったことが大きいと感じている。先生方に感謝を申し上げたい。

#### 3. 社会活動について

一昨年度から引き続き、介護人材確保事業部会で実施する講座を担当した。キャリア教育推進事業の集合研修では、地域包括支援センター及び社会福祉協議会の担当者に協力を依頼し、高校生の疑問により詳細に応えられるよう、事前に打ち合わせを重ね実施内容を検討した。また、昨年度は新型コロナウイルスの感染状況からZoomを用いての実施となつたが、今年度は高校に訪問し研修を実施することができた。高校生にとって先輩から直接話を聞ける機会は貴重であるため、高校生はもちろん先生方からも好評であった。次年度はコロナ禍前に実施していた施設見学など、高校生が福祉や介護の仕事に興味を持てるような機会の提供に取り組みたい。

# 玉利 麻紀

Maki TAMARI

## ○研究活動

### 競争的資金の獲得

- 1) 科学研究費補助金（基盤研究（C）、課題番号：19K02191、2019-2023年度）  
研究代表者：玉利 麻紀、研究課題名：「社会的マイノリティへの偏見軽減要因の探索～無関心という壁を越えるために～」
- 2) 令和4年度 文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」  
研究課題：リカバリーカレッジ高知による新たな共生の場づくり、実施主体：高知県立大学（研究期間 2022年5月-2023年3月）、研究代表者：玉利 麻紀

### 著書（共著）

「図解でわかる ソーシャルワーク」（印刷中）中央法規出版。  
[担当部分] 第3章 ソーシャルワーカーが挑む課題 - SDGsとのかかわり、⑤-2「ジェンダー・マイノリティ」の問題とソーシャルワーク

### 学術論文（単著）

「九州探訪リカバリーカレッジの旅」（2023）Humanismus, 第34号, pp. 74-81.（研究報告、査読なし）

### その他（報告書）

令和4年度 文部科学省「大学・専門学校等における生涯学習機会創出・運営体制のモデル構築」、「リカバリーカレッジ高知による新たな共生の場づくり」成果報告書

## ○教育活動

### 1) 担当科目（10科目）

精神保健福祉援助実習指導I、精神保健福祉援助実習指導II、精神保健福祉援助演習、精神保健福祉援助実習I、精神保健福祉援助実習II、心理学理論と心理的支援、就労支援サービス、国際福祉論、対人関係とメンタルヘルス（前期・永国寺キャンパス）、対人関係とメンタルヘルス（後期・池キャンパス）

### 2) 学生支援

- 東京大学先端科学技術研究センターのプロジェクト LEARN with Porsche のコーディネーターを依頼され、社会福祉学部として協力する体制を整えた。また、このプロジェクトに学生2名がボランティア参加し、最先端の学びの機会を得ることができた。
- 国家試験の受験生への学習支援を行った。
- 就職活動に困難を覚える学生に、個別に就職支援を行った。

## ○委員会活動等

学部FD委員、学部教務委員、学部実習委員、学部国試対策支援委員

## ○社会的活動

### 1) 委員等

## 教育研究活動報告書（玉利 麻紀）

2018（平成 31）年度～	高知県精神保健福祉協会 研修委員
2018（平成 31）年度～	介護労働安定センター高知支部 ヘルスカウンセラー
2021（令和 3）年度～	高知県精神医療審査会 審査委員
2021（令和 3）年度～	高知県精神保健福祉士協会 研修部会委員
2022（令和 4）年度～	社会福祉法人士佐あけぼの会 第三者委員
2022（令和 4）年度～	県立野市総合公園再整備方針検討委員

### 2) 研修講師、講演等

- メンタルヘルス研修 ヘルスカウンセラー（2022年8月1日 場所：特別養護老人ホームはるの若菜荘、2022年9月16日場所：特別養護老人ホーム湯の里）主催：公益財団法人介護労働安定センター高知支部
- 精神保健福祉士大会 中国・四国大会 山口県大会 分科会②「ピアの関わりについて～リカバリー～」コーディネーター（2022年10月11日、オンライン開催）
- 高知県立大学 出前講座「それってほんとに『できない』の？—発達障がい者支援が教えるヒント—」 講師（2022年10月20日、場所：高知県立安芸高等学校）
- 令和4年度高知県社会福祉協議会福祉職員基礎講座「心理学の基礎」講師（2022年11月10日、オンライン開催）
- 高知県立大学第31回学際的交流サロン「リカバリーカレッジ高知の取り組みを通して、高知に共同創造（co-production）の芽を育む」発表者（2022年12月21日、オンライン開催）
- 令和4年度「学校卒業後における障害者の学びの支援に関する実践研究事業」地域連携による障害者の生涯学習機会の拡大促進「共に学び、生きる共生社会コンファレンス まるのつどい」分科会3「リカバリーカレッジ（テーマ：垣根を超えて『私たち』になるためには？ リカバリーカレッジ高知やいそのさんちの取り組みを通して共同創造を考える）」（2023年2月5日-2月19日、動画配信）
- 令和4年度愛媛県ライフスキルトレーニング指導者養成研修「チュートリアル④ 初期成人期（親密性）・成人期（生殖性）に関わるライフスキルの涵養～事例を元に～（テーマ：成人期は長い…だからこそ、QOLへのまなざしを）」講師（2023年2月、動画配信）
- 高知県精神保健福祉士協会定例研修会、高知県立大学社会福祉学部精神・社会福祉コース連携企画「学生と現場の精神保健福祉士との交流企画 Mental Health Social Worker の実践と魅力」コーディネーター（2023年2月23日、オンライン開催）
- 高知県立大学社会福祉学部精神・社会福祉コース、高知県精神保健福祉士協会、合同研修会「デジタル×物語×MHSW～デジタルストーリーテリングって何？～」企画・コーディネーター（2023年3月4日、場所：高知県立大学永国寺キャンパス）

### ○総合評価及び今後の課題

今年度は精神・社会福祉コースの教員半減という厳しい状況であったが、学生の学習機会を保障し、教育レベルも落とさないよう最大限努力しながら、教育に携わった。また、精神・社会福祉コースの講義や国際福祉論、就労支援サービス等の担当科目において、その分野の当事者や専門家をゲストスピーカーとして招き、多彩かつ専門的な学びを学生へ届けることができた。ゲストスピーカーからのリアリティ溢れる話題提供に対し、学生からのコメントは大変好評であり、実りのあるものとなつたと感じている。

研究面においては、文科省からのモデル助成を得て、リカバリーカレッジ高知の開校・運営を行うことができた。大変な忙しさであったが、一般社団法人りぐらっぷ高知のメンバーと共に、なんとか走り切ることができ、ふりかえればたくさんの成果が並んでいた。これらの成果を論文の形に昇華するのが今後の課題である。

本研究は2023年度も文科省モデル事業に採択された。障害のある人ない人がまぜこぜになって共同創造を試み、共生社会の実現へ寄与できるよう、研究を進めていきたい。

# 福田 敏秀

Toshihide FUKUDA

## ○研究活動

### 1. 論文

- Ketu Rie, Yokoi Teruo, Miyoshi Yayoi, Watanabe Hiroyuki, Fukuda Toshihide, Eating Behavior and Environments of Severe Alzheimer's Disease Patients With Loss of Language Skills, Gerontology & Geriatric Medicine Volume 8: 1–8, 2022.7

### 2. 学会発表

- 福田 敏秀「認知症対応型共同生活介護事業所におけるサービスの見える化「棚卸シート」導入に関する報告」 第11回日本認知症予防学会学術集会（WEB開催）2022.9

### 3. 競争的資金の獲得

- 科学研究費補助金（基盤研究（C）：2021年度～2023年度）「高齢者の在宅介護推進の障壁「介護者の阻害要因」への適切なアセスメント方法の開発」（研究代表者）

## ○教育活動

### 1. 担当科目

- 高齢者福祉論 I    • 高齢者福祉論 II    • ソーシャルワーク演習 II    • 相談援助演習 III
- 相談援助演習 IV    • ソーシャルワーク実習指導 I    • ソーシャルワーク実習指導 II
- 相談援助実習指導 III    • 相談援助実習    • ソーシャルワーク実習 I    • 地域学実習 I
- 対人関係とメンタルヘルス    • 社会福祉入門演習

### 2. クラブ活動

- 高知県立大学池キャンパス吹奏楽部顧問    • 映画鑑賞サークル顧問

## ○委員会活動

- |               |           |               |
|---------------|-----------|---------------|
| • 学部教務委員会     | • 学部実習委員会 | • 学部国試対策支援委員会 |
| • 学部キャリア支援委員会 | • 学部防災委員会 | • 学部学生委員会     |

## ○社会的活動

### 1. 委員等

- 日本認知症予防学会 代議員    • 日本認知症ケア学会 代議員
- 高知市介護保険施設等整備事業者審査委員会委員長
- 鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部理事
- 公益財団法人介護労働安定センターヘルスカウンセラー
- 公益財団法人介護労働安定センター介護人材育成コンサルタント
- 高知大学 医学部看護学科非常勤講師（「健康福祉行政論」担当）
- 学校法人龍馬学園 龍馬看護ふくし専門学校 福祉保育学科非常勤講師（「社会福祉の原理と政策」担当）

### 2. 学外講師等

#### 介護支援専門員研修

- 高知県介護支援専門員更新（専門）研修講師（高知県社会福祉協議会）2022.5.28
- 令和4年度介護支援専門員実務研修講師（鳥取県社会福祉協議会）2023.1.7
- 令和4年度鳥取県介護支援専門員連絡協議会西部支部研修会講師（鳥取県介護支援専門

## 教育研究活動報告書（福田 敏秀）

員連絡協議会 西部支部) 2023.3.18

### 高知県社会福祉協議会（福祉職員研修、施設管理運営に関するセミナー等）

- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程令和4年度研修企画会議 2022.4.21/10.21/12.22
- ・令和4年度介護助手スタートアップセミナー2 講師 022.6.24
- ・令和4年度介護助手導入支援事業における第1回情報共有会 2022.8.4
- ・令和4年度福祉職員基礎講座講師 2022.10.14
- ・令和4年度介護助手導入支援事業における第2回情報共有会 2022.10.17
- ・令和4年度ケアテーマ別研修「メンバーシップ基礎研修」講師 2022.10.21/11.18
- ・福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程「チームリーダー研修」講師 2022.12.2
- ・令和4年度ケアテーマ別研修「メンバーシップリーダー研修」講師 2023.1.13

### 福島県社会福祉協議会

- ・令和4年度介護職機能分化モデル事業 情報・意見交換会講師 2023.3.7

### 介護労働安定センター（介護サービス事業者研修、管理運営支援等）

- ・ヘルスカウンセラー業務 2022.7.22/2023.2.13
- ・介護人材育成コンサルタント業務 2022.7.23 ・ケア・サポート講習講師 2022.10.3
- ・令和4年度雇用管理相談専門家連絡会議 2023.3.9

### 大学関連

- ・第39回本山町・本山町老人クラブ連合会・高知県立大学公開講座「夜學 2022」2022.7.1

### その他

- ・第6回高知県ジュニアボッチャ大会役員（審判員）（高知県ボッチャ協会） 2022.11.13
- ・2022年県民スポーツフェスティバル（ボッチャ）役員（審判員）（高知県ボッチャ協会） 2022.11.23

## ○総合評価及び今後の課題

### 1. 教育活動について

今年度の授業は、新型コロナウイルス感染防止に注意し、また状況を見ながら少しづつ対面実施が行えた。やはり対面では学生の反応や意見等をより受け取れるので、それらを集め授業に活かすよう心がけた。講義科目では小テストタイプのリアクションペーパーを用い理解度に注視しながら進めた。実習においては、各実習施設・機関のご協力により現地実習を行うことができた。今年度も学生たちはそれぞれ貴重な体験を持ち帰ることができ、自身の関心をより深めることができた。学生ごとにこれから目指したい社会福祉士像を描き目標も新たにした。貴重な学びの機会を頂いた実習指導者の方はじめスタッフの皆様に心より感謝申し上げたい。また、今年度も引き続き、遠山真世先生と第24期生の学年担当を受け持った。学習面だけでなく課外活動など学校生活全般にわたり相談を受けたり、あるいは声をかけたりし対応した。本学での学生生活がより順調に送れるよう今後もサポートして行きたい。

### 2. 研究活動について

採択が得られている科学研究費補助金（基盤研究（C））の研究に関して、倫理審査、文献収集および検討に留まり研究計画に従って調査を行うことができなかった。次年度は、調査準備等をしっかりと行い、計画の段階を着実に前へ進めて行きたいと考えている。

### 3. 社会的活動について

今年度も社会福祉関連の専門職者へ研修講師の機会が得られ、実践現場に活かせる内容を心がけて取り組んだ。微力ながら少しでも現場に役立つ社会貢献をおこなって行きたい。

# III

## 社会福祉学部教員の委員会活動 (委員会活動年度報告書)



## 2022年度 社会福祉学部社会福祉学科 委員会体制一覧

全学	学部	構成メンバー					
地域教育研究センター		遠山 真世					
全学 プロジェクト	災害対策	辻 真美	福田 敏秀				
	大学教育改革	杉原 俊二	長澤 紀美子				
実習委員会	人事関係検討会	宮上 多加子	杉原 俊二	田中 きよむ	長澤 紀美子	西内 章	横井 輝夫
	自己点検・評価運営委員会	宮上 多加子	杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章	横井 輝夫	
	倫理審査委員会	田中 きよむ	河内 康文	遠山 真世	行貞 伸二		
	実習委員会	河内 康文 (介護福祉士コース 主担当)	西梅 幸治 (実習委員長)	福間 隆康 (社会福祉士コース 主担当)	加藤 由衣 (室長)	稻垣 佳代 (精神保健福祉士 コース主担当)	大熊 絵理菜 (社福 助教リーダー)
		片岡 妙子	田中 真希 (介護 助教リーダー)	玉利 麻紀 (精神 助教リーダー)	福田 敏秀		
	総務・予算委員会	西内 章	長澤 紀美子	西梅 幸治	辻 真美	大熊 絵理菜	田中 真希 (助教リーダー)
	国試対策支援委員会	西梅 幸治	加藤 由衣	稻垣 佳代 (助教リーダー)	大熊 絵理菜	片岡 妙子	田中 真希
教務委員会		横井 輝夫	河内 康文	西梅 幸治	行貞 伸二	玉利 麻紀	福田 敏秀 (助教リーダー)
共通教育専門委員会		行貞 伸二					
FD委員会		加藤 由衣	玉利 麻紀				
キャリア支援委員会		西梅 幸治 (全学)	田中 きよむ	加藤 由衣	福田 敏秀		
入学試験委員会		杉原 俊二	長澤 紀美子	西内 章			
入学試験実施委員会		遠山 真世	河内 康文	加藤 由衣	稻垣 佳代 (学部入試委員)	片岡 妙子 (学部入試委員 助教リーダー)	
共通テスト実施委員会		河内 康文					
入学試験監査委員会		宮上 多加子	田中 きよむ				
学生委員会	行貞 伸二	田中 きよむ	大松 重宏	遠山 真世	加藤 由衣	辻 真美	
	大熊 絵理菜	福田 敏秀 (ボランティア担当)					
就職委員会	大松 重宏	宮上 多加子	大熊 絵理菜				
広報委員会(入試広報含む)	河内 康文	西内 章	遠山 真世	稻垣 佳代	大熊 絵理菜 (助教リーダー)	片岡 妙子	
総合情報センター	図書部会	福間 隆康					
	情報処理部会	行貞 伸二	大熊 絵理菜	片岡 妙子 (助教リーダー)			
国際交流センター 運営委員会	田中 きよむ	辻 真美					
人権委員会	横井 輝夫						
紀要委員会	行貞 伸二						
健康長寿センター 運営委員会	辻 真美	片岡 妙子 (助教リーダー)	福田 敏秀				
入退院支援事業	大松 重宏						
介護人材確保事業部会	辻 真美	大松 重宏	田中 真希	片岡 妙子			
医療センター連携事業 健康長寿・地域医療連携部会	長澤 紀美子						
医療センター連携事業 看護・社会福祉連携部会	長澤 紀美子	大松 重宏	大熊 絵理菜				
健康管理センター運営委員会	河内 康文						
大学院(M)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	田中 きよむ (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+主査)	横井 輝夫 (講義+主査)
		遠山 真世 (講義+副査)	西梅 幸治 (講義+主査)	福間 隆康 (講義+副査)			
	委員会	杉原 俊二 (研究科長)	田中 きよむ (図書)	横井 輝夫 (監査)	遠山 真世 (広報)	西梅 幸治 (入試)	福間 康文 (学務 情報)
大学院(D)	講義	宮上 多加子 (講義+主査)	杉原 俊二 (講義+主査)	長澤 紀美子 (講義+主査)	西内 章 (講義+副査)	横井 輝夫 (講義+副査)	
	委員会	宮上 多加子 (入試)	杉原 俊二 (研究科長)	長澤 紀美子 (学務 教務)	横井 輝夫 (監査)		

■ : 全学委員

—重下線

: 学部委員長

# 教務委員会

横井 輝夫

2022年度の教務委員会は、西梅幸治准教授、河内康文准教授、行貞伸二講師、玉利麻紀助教、福田敏秀助教、横井の6名体制であった。1年間の活動内容は次の通りである。

## 1. 教務委員会の開催

2022年度は、通常の審議・協議事項である非常勤講師や予算などの教務関連業務以外に、昨年度に引き続き新型コロナウィルス禍での授業方法の検討と対応が、教務委員会の業務の重要な課題となった。

以下に審議、協議した項目と概要を示した。

## 2. 新型コロナウィルス感染予防と授業

新型コロナウィルス禍での授業も3年目に入り、この2年間のような戸惑いは学生、教員ともに減少した。「高知県立大学における授業実施に関する基本的な考え方」に従い、対面授業が中心に実施された。また、学外実習については、新型コロナウィルス感染症の影響で一部延期されたが、年度内には終了できた。

## 3. 新カリキュラムの開始

2021年度から社会福祉士、精神保健福祉士の新カリキュラムが始まり、今年度は2年目に入り、実習が本格的に新カリキュラム下で開始された。そこで新カリキュラムでの実習の課題を整理し、3年目の準備を進めた。

## 4. 2023年度科目担当者の検討

3名の新任教員を加え、2022年度の担当科目、教員の教育歴と研究領域、そして担当科目数と担当時間を考慮して、2023年度の担当科目を協議・検討した。

## 5. 卒業研究論文発表会の開催

昨年度の卒業研究論文発表会は、新型コロナウィルスの影響を受けZoomで実施したが、2022年度は卒業研究論文構想発表会、卒業研究論文の中間発表会、卒業研究論文発表会を対面で実施できた。

3回生の卒業研究論文の「仮テーマ」は2023年1月に提出された。なお、卒業研究論文指導教員の学部外教員の希望の有無を確認したが、学部外教員を希望する学生はいなかった。また、『卒業研究論文執筆のてびき』は、例年通り2023年2月に作成し、3回生に配布した。

## 6. 2023年度のゼミ配属についての調整

例年通り、12月に『社会福祉専門演習選択資料』を作成し、2回生へ配布した。2日間のゼミ見学の上、14人の教員が担当する2023年度の「社会福祉専門演習Ⅰ・Ⅱ」のゼミは、1ゼミあたり上限7名の学生数を目安として調整した。

## 7. 学習到達度調査の実施

昨年度に引き続き今年度も2月にMoodle上で卒業予定者（22期生）を対象に「学習到

達度調査」を実施した。この調査の項目は、ディプロマポリシーで示す「知識・理解」「汎用性・実践的技能」「態度・志向性」「総合的な学習経験と創造的思考力」の4つのカテゴリーから構成され、この4つのカテゴリーはそれぞれ8項目、計32項目からなる。そして各項目は「全く理解できなかった」、「あまり理解できなかった」、「概ね理解できた」、「理解できた」の4件法で回答をもとめるものである。今回の調査への回答では、「概ね理解できた」、「理解できた」を合わせると97%であり、昨年度より2ポイント低下したが、良好な結果であった。

#### 8. ループリック (Rubric)

ループリックとは、学習到達度を示す基準であり、学生が何を学習するかを示す評価規準と学生が学習到達しているレベルを示す評価基準からなる。今年度は昨年度に引き続き社会福祉専門演習（卒業研究）と介護実習について、昨年度のループリックを修正して実施した。社会福祉専門演習のループリックでは、卒業研究論文の完成度と卒業研究に取り組む学生の姿勢のバランスをとったものに修正した結果、現状の成績評価との高い相関を示した。社会福祉専門演習のループリックは、妥当なものになったと考えられる。また、介護実習のループリックでは、実施者からの意見をふまえ実習指導者による評価の際に試験的活用を試みた。

#### 9. 今後の課題

重要課題は2点である。1点目は新型コロナウィルスが、5月8日から第二種に指定されこれまでと対応が変わることが、今後も感染拡大の危険性があることを鑑み、感染予防を継続し対応を迅速にとること、2点目は、新カリキュラムの運用が3年目になり、課題の整理と対応である。

## 入 試 委 員 会

遠 山 真 世

## 1 令和5年度入学者選抜の概況

区分	募集人員A	志願者数B		受験者数C		合格者数D		追加合格者数	入学手続者数	辞退者数	入学者数		志願倍率	合格倍率
		全體	(県内)	全體	(県内)	全體	(県内)				全體	(県内)	B/A	C/D
推薦	県内	20	18	18	18	18	18			0	18	18	0.9	1.0
	全国	10	13	0	13	0	10	0		0	10	0	1.3	1.3
	計	30	31	18	31	18	28	18		28	18	0	28	1.0
一般	前期	35	78	14	70	12	42	6	0	36	5	2	34	2.2
	後期	5	68	20	27	8	9	4	0	7	4	0	7	13.6
	計	40	146	34	97	20	51	10	0	43	9	2	41	3.7
社会人	若干名	0	0	0	0	0	0			0	0	0	0	
私費外国人留学生	若干名	3		3		3				3		0	3	1.0
合計		70	180	52	131	38	82	28	0	74	27	2	72	2.6
														1.6

- ・一般選抜（前期日程）の課題図書：：濱島淑恵（2021）『子ども介護者 ヤングケアラーの現実と社会の壁』角川新書

## 2 令和5年度入学者選抜の特徴

## (1) 志願倍率、合格倍率、入学手続者の県内率

前年度と比べ志願倍率、合格倍率ともに低下した。入学手続者の県内率は、年度ごとに増減を繰り返しているものの、前年度と比べ増加している（下表）。

	令和5年度	令和4年度	令和3年度	令和2年度	平成31年度	平成30年度
志願倍率	2.6	4.7	4.9	4.7	4.1	4.4
合格倍率	1.6	3.0	3.2	2.6	2.5	3.0
入学手続者の県内率（%）	37.5	40.0	39.2	37.2	42.1	43.8

## (2) 志願者数

学校推薦型選抜の志願者数（31人）は、前年度（40人）と比較し減少した（志願者前年比77.5%）。内訳をみると、県内枠の志願者数（18人）は、前年度（23人）と比較し減少し（志願者前年比78.3%）、全国枠の志願者数（13人）は、前年度（17人）と比較し減少した（志願者前年比76.5%）。

一般選抜前期日程の志願者数（78人）は、前年度（175人）と比較し減少した（志願者前年比44.6%）。一方、一般選抜後期日程の志願者数（68人）は、前年度（110人）と比較し減少した（61.8%）。この背景には、コロナ禍で経済環境が悪化するなかで職業と直結しており、専門資格を取得できる学部を選ぶ受験生が増加したこと、大学入学共通テストの平均点が低下した科目が多くあったことなどが関係していると考えられる。

(3) 社会人選抜

平成 26 年度入試より開始した社会人選抜については、出願がなかった。

(4) 私費外国人留学生選抜

私費外国人留学生選抜については、3名の出願があり 3名が受験した。3名を合格とし、3名の入学手続きがあった。

### 3 課題

- ・本学部の志願者数（180 人）は、前年度（329 人）と比較し減少した（志願者前年比 54.7%）。この背景には、18 歳人口の減少があり、特に高知県は減少率が高いことが影響していると考えられる。今後は、県内および四国内の高等学校を対象とした入試広報が課題である。入試広報委員会と連携し、高等学校における進路指導の実態や大学志願者の志願傾向について情報を収集する。あわせて、広報委員会、介護人材確保事業部会、地域教育研究センターと協力し、公開講座、学部出前授業、キャンパス訪問の受け入れなど、志願者の増加に向けた取り組みを行う。
- ・学校推薦型選抜（県内枠）の高等学校別志願者数の動向を把握し、今後の入学者選抜に活用する。
- ・新入生を対象とした国語力および英語力測定テストを継続して行い、学力のデータを蓄積し、今後の入学者選抜に活用する。
- ・一般選抜の順位決定の方法について見直しを行う。

# 学 生 委 員 会

行 貞 伸 二

## ○ 活 動 方 針

学生委員会は、学生の福利厚生の向上、自主的活動の支援、学生生活に必要な情報提供を目的に活動している。

## ○ 活 動 内 容

### 1. 相談活動

今年度も昨年度から継続して、新型コロナ感染症に伴う種々の問題も重なり、学生の精神面や身体面の不調、友人間の悩み、より複雑化した生活上の悩みに対して、学年担当教員を中心に、実習担当教員、ゼミ担当教員、健康管理センター、学生・就職支援課と連携し、解決に取り組んだ。特に、様々な理由で欠席が続いた学生には、学年担当教員が連絡を頻回にとり学業の継続に導いた。

### 2. 経済的支援に関する対応

本年度もコロナ禍のため学生のアルバイト収入が大幅に減ったことにより、ガイダンスの際に授業料の免除や各種奨学金の申請について、繰り返し説明した。さらに、一時金給付の情報も付け加えた。学生・就職支援課と連携しながら、情報提供及び手続き支援を行った。また、生活の支援として食材提供等の情報提供を行った。

### 3. 事故・事件への対応

交通事故を含めた事故があとを絶たない。事故等に対して学年担当教員を中心に迅速に対応した。交通安全講習会は、例年通り実施された。

### 4. 学生の活動への支援

3年ぶりに通常開催となった紅葉祭（大学祭）において、受付時の検温対応、飲食スペースでの黙食巡回、模擬店の補助などの形で学生委員会の教員が運営の協力を行った。1000人超の参加者があるなど盛況のなか、無事に日程を終えることができた。

### 5. 学生ニーズ調査

今年度は2年に1度の学生ニーズ調査の実施年であった。さらに、第3期中期計画（6年）の始まりの年でもあることから、アンケート項目の大幅な見直しが可能とのことであったため、委員会において項目の見直しについて検討し、アンケート項目の修正に反映させた。

## ○ 今後の課題

今年度も、新型コロナ感染症に伴い、学業面と精神面への支援、経済的支援に関する対応が例年以上に求められた。学生は精神面、経済面、友人、家庭等の課題をかかえながら学生生活を送っている。学生が個々人の課題を乗り越え健全に学業を継続するためには、学生のかかえる課題に早期に気づき、対応することが必要になる。

来年度は新型コロナ感染症の問題が新しい局面に入ることが予想される。高校時代をコロナ自粛とともに過ごした学生たちが、より充実した大学生活を送ることができるよう、学年担当教員とゼミ担当教員を中心に、健康管理センターや学生・就職支援課との連携のもと迅速で適切な対応をしたい。

# 実習委員会

西 梅 幸 治

## 1. 実習委員会の活動の特徴

実習委員会は、社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士の資格取得に向けた実習及び実習関連科目を円滑に実施するために、実習に関わる予算の計画や執行、コース相互に関連する実習事務やカリキュラム等の調整、学内外との連絡調整等を行うことを目的に設置されている。本学部の3つの福祉士養成課程に係るコースの運営及び教育は、コース主担当（コース長）を代表とする各コースの実習・演習担当教員が行っている。

## 2. 配属実習の実施状況

本年度の配属実習では、新型コロナウイルス感染者の感染拡大を昨年度より継続的に考慮し、状況に応じて実習の中止および実習を延期することになった。そのうえで、必要な感染対策を大学と実習先で取り決め、実習を再開するなどの対応を継続して行った。

### （1）相談援助実習・ソーシャルワーク実習 I

相談援助実習 74名（内、2カ所実習生は児童5名）の内訳は、福祉事務所5名、社会福祉協議会25名、病院（精神科除く）18名、児童相談所7名、児童養護施設2名、児童家庭支援センター4名、児童自立支援施設3名、小規模多機能型居宅介護2名、療養介護事業所・医療療養型障害児入所施設1名、障害福祉サービス事業所4名、児童発達支援センター2名、障害児通所支援事業所6名であった。

ソーシャルワーク実習 I 33名の内訳は、社会福祉協議会10名、病院（精神科除く）5名、児童相談所4名、児童養護施設4名、小規模多機能型居宅介護4名、児童発達支援センター1名、障害児通所支援事業所5名であった。

### （2）精神保健福祉援助実習 I・II

精神保健福祉援助実習 I・II の17名の内訳は、精神科病院11名、精神科病床を有する一般病院6名、精神保健福祉センター1名、地域活動支援センター（相談支援事業所併設）2名、障害福祉サービス事業所12名、相談支援事業所2名であった。

### （3）介護実習 I・II・III

介護実習 I の11名の内訳は、特別養護老人ホーム6名、特定施設入居者生活介護5名、小規模多機能型居宅介護9名、生活介護12名であった。

介護実習 II の21名では、特別養護老人ホーム12名、特定施設入居者生活介護3名、障害者支援施設3名、療養介護/医療型障害児入所施設3名であった。

介護実習 III の18名では、特別養護老人ホーム8名、特定施設入居者生活介護3名、障害者支援施設3名、療養介護/医療型障害児入所施設4名であった。

## 3. 実習連絡協議会

本学部の実習教育や配属実習について、実習指導者と本学実習担当教員が率直な意見交換を行い、適切な実習指導体制を整えるために実習連絡協議会を開催している。今年度も、コースごとに実習連絡協議会を企画し、相談援助実習連絡協議会、精神保健福祉援助実習連絡協議会、介護実習連絡協議会を開催した。

2022年5月30日（月）相談援助実習連絡協議会（Zoom開催）

参加施設数：40施設 実習指導者数：69名

2022年8月1日（月）介護福祉実習連絡協議会（Zoom開催）

## 委員会活動年度報告書（実習委員会）

参加施設：9 施設 参加実習指導者：13 名

2023年3月3日（金） 精神保健福祉援助実習連絡協議会（対面開催）

参加施設：8 病院、3 事業所 参加実習指導者：12 名

### 4. 成果と課題

#### （1）旧カリキュラムと新カリキュラムへの対応

2021年度入学生から、社会福祉士養成カリキュラムと精神保健福祉士養成カリキュラムは新カリキュラムを適用している。これに伴い、例年4月入学当初に実施している介護・社会福祉コースの選択希望に加え、1回生後期に社会福祉コースのソーシャルワーク実習Iの配属先の提出、及び精神・社会福祉コースの選択希望を実施することにした。配属先の選定については、希望先の調整に時間がかかること、精神・社会福祉コースの選択後に変更希望が生じるなど、いくつかの課題がみえてきた。またソーシャルワーク実習I・II・IIIでは、総合的かつ包括的な支援を学ぶことが求められており、介護・社会福祉コース、精神・社会福祉コースとの実習先の調整が一部、生じることとなった。これらの点については、今後、継続的に協議していく必要があると考えている。

#### （2）実習予算及び実習事務の確認・情報共有

本年度も、実習予算及び実習事務の確認・情報共有を行うために、実習支援室長と福祉実習支援室を担当する助教、実習委員長の三者による連絡会議を月1回実施した。日常的なコース運営については、各コースに一任しているが、特に実習費の使途と実習事務の進捗状況については、月1回の連絡会議で確認・情報共有を行っている。特に本年度は、実習予算の対応、感染症に伴う実習再開に必要な手続きの確認などについて情報共有を行った。そのなかで、学内実習費の適切な執行に係る課題が生じた。次年度については、丁寧な予算執行に努めたい。

また今年度についても、新型コロナウイルスの感染予防の観点から、福祉実習支援室の学生への窓口対応を一時的に閉鎖した。次年度については、感染対策の協議を継続し、窓口対応を再開するかどうかを見極めたい。

#### （3）新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う配属実習への影響

今年度の実習についても、全学で設定した各学部の「リスクレベルに応じた実習方法」に加えて、全学的に求められた「学外実習に係る検討資料」の提出・承認により実施した。さらに、学長からの指示により、学部で厳密に実習を管理し、新型コロナウイルス感染症に伴う実習の中止・再開について学部長が適切に判断することとなった。そこで、新型コロナウイルス感染症に関する学外実習の対応方針、及び感染症に関する対応状況を管理するシートを作成して実習の配属を進めた。丁寧な配属実習の管理により、感染症関連での大きな問題はなく、無事に実習を終えることができた。各コースの主担当の先生、及び実習担当の先生方、何よりも受け入れ先の実習指導者をはじめとした皆様に深謝したい。

# 就 職 委 員 会

宮 上 多 加 子

## 1 社会福祉学部の就職活動支援

### (1) 就職ガイダンス等の実施

- ・オリエンテーション（2022年4月5日）

### (2) 学生・就職支援課ワクワク Work!!との連携

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携し、求人情報や就職支援情報の提供、メールやWeb会議ツールZOOMを活用した就職相談を行った。合格・内定後は速やかに学年担当教員に連絡するとともに、その都度、ワクワク Work!!に「体験報告」および「進路決定届」を提出するよう促し、随時情報の共有をはかった。

### (3) 個別相談等

学生・就職支援課ワクワク Work!!と連携しながら、ゼミ担当教員、学年担当教員が中心となり、4回生の進路相談、応募書類の添削、模擬面接等を行った。

### (4) 情報提供

定期的にワクワク Work!!から社会福祉学部宛に届いた求人一覧を確認し、希望地域・業態が一致する学生に情報を提供した。また、ファイリングした求人票を社会福祉学部棟のラウンジスペース卓上に設置したり、学年担当の研究室で管理し、求人の情報提供を行った。また福祉就職フェア（各県福祉人材センター主催）に関する情報を提供した。

## 2 進路状況

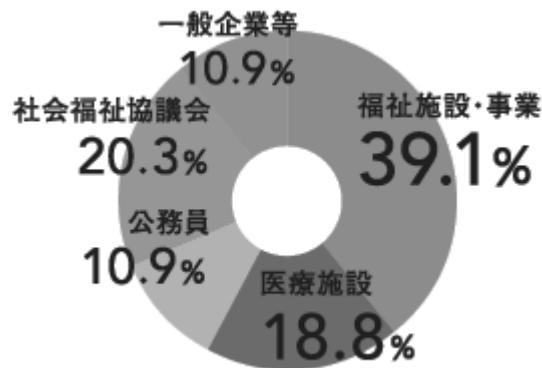


図 業務別就職状況（就職希望者 64 人/就職率 100%）

## 3 今後の課題

新型コロナウイルスの影響で、国試対策、実習、卒業論文等の優先順位の付け方や、スケジュール管理に対する学生の意識を高めていく必要がある。特に卒業に向けた履修指導や国試対策の取組みについては、就職における内定に大きく影響するため、学生主体の丁寧な指導が必要である。

# 広 報 委 員 会

河 内 康 文

## ○本年度の取り組み

### (1) 「大学案内」の編集・製作

2024年度版「大学案内」の社会福祉学部の紹介では、昨年のコンセプト、デザインのまま大幅な修正は行わず、一部内容を更新した。

### (2) オープンキャンパス

11月3日（木）にハイブリッド開催で田中きよむ教授の講義を主体とするオープンキャンパスを実施した。オンライン参加は20名（高校2年生：2名、高校3年生：13名、保護者：1名、その他：2名、不明：2名）、対面参加は54名（高校1年生：1名、高校2年生：10名、高校3年生：25名、保護者：16名、その他：2名）であった。また、遠山准教授による社会福祉学部紹介動画（進路担当者向け説明会と一本化）を作成し、視聴回数は511であった。

### (3) 在学生による出身高校訪問

新型コロナ感染拡大防止のため多くはオンラインでの実施となった。

### (4) キャンパス訪問への対応

新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

### (5) 学部パンフレットの更新

在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について、最新情報に更新した。

### (6) 学部ホームページの更新

- ・在学生数や国家試験の合格率や就職先の分野について最新情報に更新するとともに国家試験の合格率や就職先の分野を更新した。
- ・高校生のための公開講座やリカレント講座など、社会福祉学部主催のイベントについて掲載した。
- ・学部教員の教育・研究活動「学部報」を掲載した。

## ○今後の課題

昨年に引き続き、コロナ感染拡大防止のためオープンキャンパスや大学説明会など多くの広報活動がオンラインによる実施となった。オンラインによる広報とともに、対面による広報の機会を得た。人と人とのつながりの大切さを見つめなおす機会にもなったようだ。社会福祉が価値をおく人と人のつながりを広報のなかでも大切にしていきたい。

# 介護人材確保部会

辻 真美

## 1. 集合型研修 社会福祉をわかりやすく学べます

- 開催日時：2022年7月23日（土曜日） 13:00～15:00
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス（大講義室 Zoom配信）
- 講師：河内 康文 准教授、玉利 麻紀 助教、横野 綾 株式会社 SMILE PLUS 児童指導員（卒業生）
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数：139名（スタッフ等含む）

### （1）事業概要

高校生とその保護者等に対して、福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。大学教員と卒業生・学生が福祉介護の学びをプレゼンテーションし、専門職の役割やキャリアについて学ぶ。

### （2）活動成果

アンケート集計結果からは、講義の前後で福祉・介護のイメージが良くなつたという変容が見られた。自由記述からは、「実際にサポートを受けた方の話を聞いて、福祉に関わる仕事に就きたいという思いが一層強くなった」、「将来のイメージが深まり、一人ひとりと向き合えるような人になりたいと新たな志ができた」、「福祉について深く知ることができ、興味を持ちました」などの回答があった。

### （3）活動評価

本事業のプログラムは、6年目となる。本年度は「WEBオープンキャンパス2022」と同日開催とし、高知県以外の地域からも参加があった。昨年度より20名程参加者数は減少したが、アンケートの結果から、プログラム構成の全体において満足度が高かったと考える。

### （4）当日の様子



在学生によるプレゼンテーション



在学生の運営スタッフ（開始前）

## 2.集合型研修 現場で働く卒業生からの LIVE 配信

- 開催日時：2022年9月23日（金曜日・祝日） 13:30～15:00
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス（大講義室 Zoom配信）
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数：28名（スタッフ等含む）
- 講師：津野 高敏（特別養護老人ホームウエルプラザ高知 施設長），藤山 輝（特別養護老人ホームウエルプラザ高知 統括主任），伊井 雪乃 特別養護老人ホームウエルプラザ高知（卒業生），福本 和生 住宅型有料老人ホームウエルリブじんざん（卒業生），奥村 早希 ウエルショートしなね短期入所生活介護事業所（卒業生），安岡 真帆 特別養護老人ホームウエルプラザやまだ荘（卒業生）

### （1）事業概要

高校生とその保護者等に対して、福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。介護施設長・卒業生が福祉・介護現場での仕事ややりがいについてプレゼンテーションをし、専門職の役割やキャリアについて学ぶ。

### （2）活動成果

アンケート集計結果からは、回答者のほぼ全員が「福祉・介護への興味を持った」「福祉・介護への勉強をしたくなった」「福祉・介護の仕事をしたくなった」ことが示されていた。また、同アンケートからは、「福祉の現場での一番のやりがいとは何かの質問に対し、その人の人生に関われるという言葉がすごく心に残りました」、「現在は、介護する側への配慮もなされており、長期的な活躍が期待できると感じた。また、自分の成長も図れるという点に魅力を感じた」などの記述が見られた。

### （3）活動評価

参加者数について、昨年度は94名（2021年）であり、今年度は大幅な減少に転じてしまった。この結果を踏まえ、高校生に届く広報活動について、先生方や幅広い方々のご意見を頂きながら検討し、工夫を図っていきたい。しかし、講師を務めた卒業生らは、学生のときにこのイベントの学生スタッフとしてかかわっていた経験があったため、趣旨を充分に理解した効果的なプレゼンテーションを行っていた。

アンケート結果は、ポジティブな内容が多く、現場の第一線に立つ実践者のリアルな発信が福祉介護のイメージ変容に重要な役割を果たしていることがわかる。コロナ禍で介護現場に出向いて行くことが困難な現状を鑑みると、今回の発信は重要な試みであったといえる。

(4) 当日の様子



参加者の質問に丁寧に答える



卒業生によるプレゼンテーション

### 3.集合型研修 アカデミックに福祉・介護を探求する

- 開催日時：2022年11月3日（木曜日） 13:30～15:00
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス（ハイブリッド開催）
- 講師：田中きよむ教授
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数：92名（スタッフ等含む）

(1) 事業概要

高校生とその保護者等に対して、福祉・介護分野でのキャリア像を明確に示すことで、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。大学教員が介護福祉に関する研究の現状や課題について講義したあと、在校生が大学での学びの実際を報告しながら福祉・介護専門職になるためのアカデミックな学びを理解する。

(2) 活動成果

アンケート集計結果からは、「福祉・介護に対するイメージ」が講座後、全員の回答者によって良いものへと変化していた。大学教員がアカデミックな観点から講義をすることで、よいイメージが膨らんだと思われる。

自由記述からは、「この子らを世の光に！」という言葉にはっとさせられました。私もその人からたくさんのこと学び、お互いに成長していきたいです！」「福祉や介護について具体的な内容が分かり、より明確に進路の実現に向けて意思固まった」などの大学での学びに対する期待が感じられる記述が見られた。

(3) 活動評価

本講座は、大学で実施している福祉介護のアカデミックな講義を体験し、福祉介護の理解を深める契機になった。在学生のいきいきとしたプレゼンテーションにおいても、参加者は真剣な眼差しを向けられ、講座終了後は、参加者と学生による活発なディスカッションが行われた。高校生からの積極的な福祉介護に関する感想・気づきも述べられた。

また、今年度もすべての集合研修において講座がわかりやすくなるよう事前に講義資料を送付した。集合研修はリピーターによる参加者も多いため、各講座の資料を見直す機会が可能となり、福祉介護の理解の深まりが期待できる。

## 委員会活動年度報告書（介護人材確保部会）

### （4）当日の様子



田中きよむ教授による講義



ハイブリッド形式にて開催

### 4.集合型研修 新高校生2・3年生のための入門講座

- 開催日時：2022年3月22日（水曜日） 13:00～15:00
- 開催場所：高知県立大学池キャンパス（ハイブリッド開催）
- 講師：田中 真希 助教，堤英哲 株式会社すまいるケア ヘルパーステーションほっとすまいる，北村知世 高知市三里地域包括支援センター 管理者，西川祐平 高知市社会福祉協議会 地域協働課
- 対象：高校生と保護者
- 参加者数： 32名（スタッフ等含む）

#### （1）事業概要

高校1・2年生とその保護者等に対して、大学教員が高知県における福祉・介護の現状や課題について講義、在校生が大学での学びの実際を報告した後、認知症サポーター養成講座をとおして福祉・介護分野に関心をもってもらうとともに、長期的な展望に立って人材確保につなげることを目的に実施した。

#### （2）活動成果

アンケートの自由記述の集計結果からは、「色々な職種からの意見が聞けたり、大学の活動が知れたりして、とてもよい機会になった。認知症への知識が増え、家族や地域の方々との関わりを深めたいと思った」「障がいを持っている人も高齢者も、人は人ということが心に残りました」「講演会を聞いて、私は福祉・介護の仕事に少し興味は持っていたけれど、大変そうな仕事だと思っていました。ですが、今日のお話を聞いて福祉にさらに興味が持てたし、今まで知らなかった詳しい知識も学ぶことができたので参加してとてもよかったです」等が示されていた。

#### （3）活動評価

（2）で得られた結果は、福祉介護へのイメージが不透明な高校生1,2年生が対象であることが考えられる。早期かつ継続的なアプローチが重要といえる。本講座は、高知市が実施している認知症サポーター養成講座および高知市社会福祉協議会と連携して実施した。多機関と連携を図りながら取り組みを続けていく必要がある。

(4) 当日の様子



オープニング「10年先の未来を学ぼう」



認知症サポーター養成講座

5. 訪問型研修（計 10 校：10 回）

○開催日時：場所

- (1) 8月25日（木曜日）13:30～15:00 高知商業高校：対面
- (2) 9月21日（水曜日）16:00～17:00 高知南高校：対面
- (3) 9月26日（月曜日）16:50～18:00 高知丸の内高校：対面
- (4) 9月27日（火曜日）14:00～16:00 高知西高校：対面
- (5) 9月27日（火曜日）16:45～18:15 岡豊高校：対面
- (6) 9月28日（月曜日）17:00～19:00 高知小津高校：対面
- (7) 10月3日（月曜日）16:30～17:30 安芸高校：対面
- (8) 11月11日（金曜日）16:10～17:30 中村高校：対面
- (9) 高知農業高校：対面

\*新型コロナウイルス感染拡大にて中止、次年度開催予定

- (10) 1月16日（月曜日）16:10～17:30 春野高校：対面
- (11) 2月8日（水曜日）13:30～15:15 椿原高校：対面

○講師：西内 章教授（8）、河内 康文 准教授（4）（6）、田中 真希 助教（1）（2）、片岡妙子 助教（3）（5）、辻 真美（7）（9）（10）（11）、川村 文菜（岡南病院医療ソーシャルワーカー）、村上 達朗（ウェルプラザ洋寿荘 介護職員）、伊井 雪乃（ウェルプラザ高知 生活相談員兼介護職員）、福本 和生（在宅型有料老人ホームウェルリブじんざん 社会福祉士・介護福祉士）、山本 桃子（介護老人福祉施設 グランボヌール）

○対象：高校生・高校教員

○参加者数：計 286 名（講師・スタッフ等含む）

(1) 事業の概要

高校生に対する福祉・介護の概要理解を目的に、高知市内外の高等学校に訪問し、大学教員が理論、専門職が福祉・介護現場の実際、学生が大学での学びの実際を説明した。

(2) 活動成果

アンケート集計結果は、概ね好評であった。具体的には「介護・福祉を選んだ理由が聴けてとても参考になった」、「介護は大変というイメージしか持っていたけど、現場のやりがいや楽しきが伝わってきました」、「介護・福祉の仕事をする上で、自分のことをしっかり知っておくことが大事だと分かりました」などの回答が見られた。自身の高校を卒業した先輩からの声は、高校生にとって影響を及ぼすことが理解できる。

(3) 活動評価

本事業が7年目となり、大学生時のスタッフ経験者が専門職として参加をするようになり、内容が充実した。また、今年度も訪問高校を新規も含めて10校とした。新型コロナウイルスの影響で、依然として高校生が大学見学などへの参加が困難な状況にあり、受入が好意的であったように思われる。先輩からの話を聞く高校生の目は真剣そのものであることが実感できた。

また、卒業生らは自分を振り返る機会になったり、本講座を担当することで自信につながったりしているようである。このように卒後の教育的効果も期待できる講座となっている。事業の継続とともに、内容のさらなる充実を目指していきたい。

(4) 当日の様子



卒業生と高校生とのグループワーク



在学生による講義後の質疑応答



在学生による体験に基づいた講義



緊張をほぐすアイスブレーキング

# キャリア支援委員会

西梅幸治

キャリア支援委員会は、委員長を西梅、田中きよむ教授、加藤講師、福田助教で構成した。本年度に行った業務は、下記のとおりである。

## 1. 活動内容

### ①キャリア支援に係るガイダンスの実施

全学委員会の学部別キャリア教育・就職ガイダンス開催経費を用いて、学年担当教員の協力のもと、以下のガイダンスを開催した。開催された講座は、どの講座も好評であった。

開催日	テーマ	講師	対象
12月15日	卒業生によるキャリア支援講座	兵頭七海（高知県・高知市病院企業団立高知医療センター） 山口由貴（社会福祉法人 四万十市社会福祉協議会）	1回生
2月7日	卒業生による就職ガイダンス	石元里佳（医療法人地塩会 介護老人保健施設夢の里） 尾崎果子（社会福祉法人昭和会 福祉牧場おおなろ園）	2回生
2月10日	4回生からの就職活動報告会	本学部4回生6名	2・3回生
10月1日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	4回生
12月22日	国家資格取得のための勉強方法や心構え	本学部卒業生	4回生

### ②リカレント研究会事業の取り組み

学部運営費による事業として、以下の研究会を実施した。継続的に実施されている研究会もあり、参加者には有益な機会となっている。

事業名 開催日（回数）	担当教員	内容と成果	参加人数
スクールソーシャルワーク研究会 10月30日（日） 11月28日（月） 12月19日（日）	西梅幸治 加藤由衣	本研究会は年3回で実施し、スクールソーシャルワーカー相互の情報交換や報告、活動のふり返り、研修の準備・練習などを実施した。今年度も、新型コロナ感染症流行に伴い、対面での実施が難しくZoomを活用したオンラインで開催した。しかし、参加メンバーにとっては、研修用の資料作成などにも取り組むことで、実践面のみならず研修を実施する	延べ 11人

委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

(計3回)		上での力量向上に主体的に取り組む機会になった。	
介護コース卒業生を対象とした卒業生による報告と情報交換会  3月17日(金) (計1回)	宮上多加子 三好 弥生 河内 康文 辻 真美 片岡 妙子 田中 真希	<p>介護コース開設13年目を迎える創設期の教員が退職する中、創設の背景や創設期の話を宮上先生、黒田先生、三好先生にしていただいた。先生方の話の合間に、司会の河内先生から卒業生に意見や感想を求めた。</p> <p>その後、1期生4名（猪野氏、上杉氏、長崎氏、福田氏）が先生方の話を受けての感想、当時の話や後輩・在校生に向けてのメッセージなどを話してもらった。</p> <p>また、最後に角子氏（4期生）によって準備された動画を披露した。</p> <p>多くの卒業生・教員・在校生が参加し、様々な期生・立場の参加者からさまざまな意見が述べられ、充実した時間となった。研究会終了後もしばらく大講義室に残り、名残惜しいようであった。</p>	延べ 64人
ソーシャルワーク学習会  12月18日(日) 1月15日(日) 3月27日(月) (計3回)	西梅 幸治	本学習会では例年、ゼミ生を中心とした卒業生に対して、個別スーパービジョンや、キャリアに関する相談などを実施している。今年度も、コロナ禍のため開催が難しかったが、研修に向けた資料作成などに関する内容で実施した。日々の業務におけるソーシャルワークの意義を見出す機会になり、かつこれまでの業務のふり返りにもなった。また児童福祉分野の関係者との共同研究に向けて、SSWについて研究した本学大学院生の報告を中心に、研究課題発見に向けた研究会も実施した。	延べ 11人
児童福祉施設における実践研究会  7月27日(水) 12月12日(月) 3月9日(木) (計3回)	加藤 由衣	本研究会では、児童福祉施設に勤務する2021年度卒業生が参会し、グループスーパービジョン及び業務や支援に関する情報交換を行った。そのなかで、各施設の特徴や実践の相違とともに、入職1年目に共通する課題や悩みを共有することができた。加えて、参加者が実践する県外2施設の訪問を行い、県外施設の実践状況などを学ぶことができた。これらの内容をとおして、児童分野におけるソーシャルワーカーとしての力量の向上や同じ分野で実践する卒業生同士の交流を促進する機会となった。	延べ 12人

③キャリア支援特別講座の開催

学部の活動計画に基づき、リカレント研究会の一環として、卒業生・在学生・教員をつなぐ学内講演会を岩手県の社会福祉法人堤福祉会総合施設長の芳賀潤氏を講師として招聘し、大講義室及びZoomによるオンラインとのハイブリッド形式で実施した。本講演会は、学部F D委員会と学部災害対策委員会とも共催で実施した。講演会では、東日本大震災発生時の現地の状況、施設が取り組んだ避難所運営、地域での連携、震災後のコミュニティ

## 委員会活動年度報告書（キャリア支援委員会）

再生の実際について講演していただいた。講演会を通じて、被災した際の社会福祉施設やソーシャルワーカーとしての支援、地域づくりの視点について学ぶことができた。参加者にはとても好評であり、南海トラフ大震災に向けて災害福祉に携わる専門職としての実践力を高める機会となった。

開催日	テーマ	講師	参加人数
11月10日	東日本大震災の教訓と地域再生 —サポートセンターの実績とその後—	芳賀潤氏（社会福祉法人堤福祉会常務理事総合施設長） コーディネーター：田中きよむ 司会：加藤	101人

### ④学内就職説明会の開催

本年度は、卒業生が在籍する社会福祉法人より新卒採用に向けて、本学部卒業生を通じた説明会開催の要請や、教員への新卒採用に関する説明希望などがあり、試験的に実施した。その際には、学生・就職支援課職員にも同席していただくことができた。当日は、新型コロナ感染症対策に伴い、卒業生は参加できなかつたが、在学生にとって貴重な機会となった。

## 2. 今後の課題

本委員会での取り組みに関する今後の課題としては、年度当初の活動計画の確認による取り組みの具体的で継続的な推進である。特に卒業生を中心とするリカレント研究会事業や、在学生と卒業生をつなぐ交流の場の提供により、学術的・実践的な力量を継続的に培うことが課題である。また今年度も継続して、既卒者への国試対策支援を含めて進めることができた。次年度は、学部F D委員会との連携により、研究と社会正義に関するテーマでの講演会を実施予定である。今年度の活動を契機としたさらなる取り組みを活動計画に基づいて、進めていきたいと考えている。

# 健 康 長 寿 セ ン タ ー

辻 真 美

## ○活動内容

1. 健康長寿センター運営委員会  
全学での運営委員会として、令和4年4月から令和5年3月においてズームとメールによる会議を12回実施した。
2. 健康長寿センター運営委員  
池田光徳（センター長 看護学部）・看護学部教員・健康栄養学部教員・社会福祉学部教員（辻・片岡）・総務部企画課健康長寿担当者
3. 令和4年度活動実績（社会福祉学部がかかわった主なもの）
  - ①リカレント教育講座ようこそ！知のフィールドへ－社会福祉学部×SDGsシリーズ2
  - ②おうちで健康長寿体験型セミナーPresented by 高知県立大学健康長寿センター企画事業申請（看護学部や学生サークルとの共同を含む3件）③健康長寿文庫の選定

## ○活動の評価と課題

- ①2講座を、同日にオンラインにてライブ配信した。質疑応答やアンケート調査を実施し、概ね好評を頂いた。受講者の声を次年度の本講座に活かしていきたい。
- ②配信型の「おうちで健康長寿体験型セミナー」を代表者として企画し、健康長寿センターの公式YouTubeチャンネル（登録者数270人）から無期限で動画配信した。また、おうちで健康長寿体験型セミナーの第一弾となった「転倒予防について」の全8回シリーズのDVD版を県内49箇所の地域包括支援センターへ無料配布した。
- ③健康長寿文庫の推薦図書として一般啓発書を30冊、選定した。多くの県民の方々が健康に関する書籍に興味を持ってくださるよう、推薦コメントを添えて提出した。

### ① リカレント教育講座－ようこそ！知のフィールドへ－

開催日	テーマ「社会福祉学部×SDGsシリーズ2」	講師	参加者
10月16日	生活と向き合う支援とは－ソーシャルワークは何かができるのか－	西内教授 辻	47人
	介護現場における介護従事者が利用者や家族等から受けるハラスメントについて		

### ② おうちで健康長寿体験型セミナーPresented by 高知県立大学健康長寿センター

配信期間	テーマ及び講師	再生回数
5/3 から 随時配信	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「つながりの大切さ～認知症予防と防災の事例から～」 　　雑賀助教、社会福祉学部生</li> <li>・「日々の生活に取り入れよう②食べるときの姿勢とコツ」</li> <li>・「認知症の人へのつかわり方」 　　小原講師、看護学部生、乾入退院支援コーディネーター、社会福祉学部生、辻</li> <li>・「災害が起こったとき～聴覚障がい者への支援～」3編（地域減災支援活動事業と連動）看護学部生、社会福祉学部生、辻</li> </ul>	1733回

# 高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会 看護・社会福祉連携部会

大熊 絵理菜

## ○看護・社会福祉連携部会について

### 1. 組織

- 1) 高知医療センター：看護局長、地域医療連携室長、看護局、ソーシャルワーカー
- 2) 高知県立大学：看護学部長、社会福祉学部長、看護学領域教員、社会福祉学領域教員

### 2. 事業

- 1) 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供
- 2) 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力
- 3) 教員によるコンサルテーションの実施
- 4) 臨床実践能力（知識・技術・態度）及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究
- 5) 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催
- 6) その他看護・社会福祉連携活動の実施

## ○社会福祉連携部会における取り組みの評価

1. 学生の臨地実習（上記事業1にあたる）については、前期で社会福祉コース（3回生1名）の相談援助実習（24日間）を予定していたが、コロナ感染症拡大の影響を受け、後期に実施した。精神コース（4回生2名）の精神保健福祉援助実習（12日間）は前期と後期に実施した。また今年度から社会福祉コース（2回生2名）の新カリキュラムで12月と2月にソーシャルワーク実習I（8日間）を実施している。
2. 共同研修会（上記事業3にあたる）を毎月1回、前期は事例検討会を実施した。事例検討会には社会福祉学部3回生や看護学部の教員や院生が参加した。事例はMSWが心に残ったケースについて発表した。後期はソーシャルワーカーキャリアラダーの評価をメンバー全員分の取りまとめたものをメンバーと確認した。ラダー評価で得られた課題の一つである《スーパービジョン体制を整える》にあたって一人ひとりの思いや考えについて、大学教員が個別面談を実施した。
3. 共同研究（上記事業4にあたる）については、個々でラダー評価を実施したものを全員分とりまとめた。ラダー評価を実施することで専門職としての自分を客観視することに繋がっている。また全体の課題として《スーパービジョン体制を整える》《ソーシャルワークの理論やモデルの学習が必要》なことが明らかになったため、これらについて、どのように取り組んでいくか検討中である。

## ○社会福祉連携部会における取り組みの課題

1. 学生にとって、ソーシャルワークの生の意見が聞ける貴重な機会となっている。次年度においても実習や見学が円滑かつ効果的に進められるよう実施していく。
2. 引き続き事例検討を実施する。今後も看護部門や他職種の参加を促進し、多様な視点から事例検討ができるよう取り組んでいく。またスーパービジョン体制について体制をメンバー皆で話し合い実施する。
3. 次年度の日本医療ソーシャルワーカー協会の大会で発表できるように準備していく。

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

**令和4年度 看護・社会福祉包括連携事業実績一覧（社会福祉部会）**

**1. 学生の臨地実習・教員の臨床研修における場の提供**

**1) 学生の臨地実習**

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1 前期	(社会福祉) 10/11～11/28 実施	社会福祉学部 3回生	1	相談援助実習による配属実習
	(精神) ・7/11～7/29 実施 ・10/3～10/20 実施	4回生 4回生	1 1	※8月～予定していた社会福祉実習(1名)と精神保健福祉実習(1名)は新型コロナ感染拡大のため実習中止となったが、別日程で実施
2 後期	12/13～12/23 実施 2/27～3/8(予定)	社会福祉学部 2回生	1 1	ソーシャルワーク実習 I による配属実習

**2) 教員の臨床研修**

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

**2. 基礎教育・継続教育・大学院教育における相互協力**

**1) 基礎教育**

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	毎回 参加予定	社会福祉学部 3回生	順次参加	定例研修会 (3. 教員コンサルテーションに該当)への参加

**2) 継続教育**

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

**3) 大学院教育**

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

**3. 教員によるコンサルテーションの実施**

	実施日・期間	氏名or対象	参加人数	事業内容
1 前期	4/18(月) 17:30～ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)	9名	本年度計画の立案 ソーシャルワーカーキャリアラダーに取り組んで(羽方・中山)
2 前期	5/16(月) 17:30～ (Zoom)	●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海) ●社会福祉学部学生(藤井結芽子・福元萌・橋本千明・立花彩・小松鈴佳・山内和香・伊田彩音・岡林優希・川上夏歩・大崎涼平・比嘉優・上井麻由・井上稔望・片岡萌否) ●高知県立大学大学院生 (西鳴恭子・坂口結映・森岡理恵)	27名	事例検討(藤井) 『ソーシャルワーカーはどのように子どものアドボカシー実践に取り組んでいくか』 * 司会(竹村)

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

3 前期	6/20(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)</li> <li>●社会福祉学部学生(藤井 結芽子・小松鈴佳・永山和佳 余・福元萌・橋本千明・立花 彩・上井麻由・石田琴海・梶 畠暖乃・片岡萌香*)</li> <li>●高知県立大学 大学院生 (田中陽子)</li> </ul>	20名	<p>事例検討(中山)</p> <p>『抗がん剤治療の終了を受容していないターミナル期の患者にSWIはどのような支援ができたのか』</p> <p>* 司会(兵頭)</p>
4 前期	7/25(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大松重宏・大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)</li> <li>●社会福祉学部学生(春木 菜摘・迫楓・橋本千明・石田 琴海・藤野聟大・福元萌・市 村颯太・井上穂望・岡林優 希*)</li> <li>●高知県立大学 大学院生 (三賀山美紀子・阪本祐子)</li> </ul>	21名	<p>事例検討(羽方)</p> <p>『内服薬に対する課題を抱えた患者・家族の意思決定支援について』</p> <p>* 司会(藤井)</p>
5 前期	8/15(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●高知医療センター看護師 (古田さより)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)</li> <li>●高知県立大学 大学院生 (西嶋恭子)</li> </ul>	11名	<p>事例検討(西原)</p> <p>『若年未婚未受診妊婦の事例』</p> <p>* 司会(和田)</p>
6 前期	9/26(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)</li> <li>●高知県立大学 大学院生 (住吉久美子)</li> </ul>	10名	<p>事例検討(川上)</p> <p>『生活困窮から自殺を図った身寄りのない男性への生活環境調整支援』</p> <p>* 司会(西原)</p>
7 後期	10/17(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)</li> <li>●高知県立大学 大学院生 (久保田聰美)</li> </ul>	10名	<p>事例検討(兵頭)</p> <p>『患者に寄り添い尊厳を守る支援とは～頸髄損傷を負ったクライエントとの関わりを通じて～』</p> <p>* 司会(羽方)</p>
8 後期	11/21(月) 17:30～ (Zoom)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中山真紀・竹村貴深・西原梓・和田真奈美・羽方沙由美・兵頭七海)</li> </ul>	9名	<p>ソーシャルワークキャリアラダーの関する研究 ～それぞれの発表と他者評価を受けた後のまとめについての分析～</p>
9 後期	12/19(月) 17:30～ (医療センター 相談室、研修室)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜)</li> <li>●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・西 原梓・和田真奈美・丁野江里 子・羽方沙由美・兵頭七海)</li> </ul>	8名	<p>ラダーに関する研究(グループディスカッション) スーパービジョンについて、大熊先生との個別面談</p>

委員会活動年度報告書（高知医療センター・高知県立大学包括的連携協議会）

10 後期	1/16(月) 17:30～ (医療センター 相談室、研修室)	●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中 山真紀・竹村貴深・西原梓・ 和田真奈美・羽方沙由美・兵 頭七海)	9名	ラダーに関する研究(グループディスカッション) スーパービジョンについて、大熊先生との個別面談
11 後期	2/20(月) 17:30～ (医療センター 相談室、研修室)	●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中 山真紀・竹村貴深・西原梓・ 和田真奈美・羽方沙由美・兵 頭七海) ●事務職 (松本英雄)	10名	個別面談の結果と今できるスーパービジョンの体制について(大熊)
12 後期	3/20(月) 17:30～ (医療センター 相談室、研修室)	●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中 山真紀・竹村貴深・西原梓・ 和田真奈美・羽方沙由美・兵 頭七海) ●事務職 (松本英雄)	10名	スーパービジョンに関する演習(大熊)

4. 臨床実践能力及び実践モデル等の開発・検証に関する共同研究

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	4月～3月	●社会福祉学部教員 (大熊絵理菜) ●ソーシャルワーカー (藤井しのぶ・川上めぐみ・中 山真紀・竹村貴深・西原梓・ 和田真奈美・丁野江里子・羽 方沙由美・兵頭七海)	4～10名	ラダーに関する研究 北海道医療ソーシャルワーカー協会の医療ソーシャルワーカーキャリアラ ダー・モデルブックを使用して、個々でラダー評価を実施し、今年度中に 個々の評価を発表予定となっている。それによって得られた知見を研究や 来年度のラダーの取り組みにつなげる。
2				
3				

5. 県民・市民の健康づくりに資する活動の共同開催

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

6. その他看護・社会福祉連携活動の実施

	実施日・期間	氏名or対象	人数	事業内容
1	該当なし			
2				

# 災害対策プロジェクト

辻 真美

## ○本年度のとり組み

全学の災害対策プロジェクト担当として辻、学部委員会としては福田助教が参加した。主な取り組みは以下の通りであった。

### 1. 高知医療センターとの合同災害訓練

#### (1) 災害対策プロジェクトの会議及び合同災害訓練打合せ会の開催・参加

災害対策プロジェクトメンバーとの会議は主にメールで実施した。また、イケあいボランティア防災サークルの社会福祉学部生と複合災害時に予想される避難所運営の課題について意見交換を行い、事前準備も参加してもらった。実施後には、参加教員からの意見を集約し、チームとしての目的・訓練内容と方法に関する評価を行った。さらに、事前準備に参加したイケあいボランティア防災サークルの学部生にも報告を行い、振り返りを行った。12月12日（月）には、健康栄養学部FD研修会に福田助教と辻が出席し、学部間の連携方法や課題について意見交換を行った。

#### (2) 合同災害訓練の実施

11月27日（日）の8時～12時30分に行なわれ、本学部はPart1として社会福祉学部棟からの避難訓練終了後、Part2として体育館での避難所運営支援を中心に関わった。新型コロナ感染対策のため、学生の参加及び学外の地域住民の参加はなく時間も短縮して実施されるなか、教員9人が参加した。

#### (3) 令和4年度避難所運営支援の目標

新型コロナ感染拡大のなかにおいても、大規模な自然災害が起こらないという保障はない。命をつなぐ重要な役割を担う避難所運営においては感染拡大防止に向けての安全策を徹底しなければならない。そのなかでも特に、感染リスクが高いと予測される受付対応においては、互いに意識を高めながら、真摯な取り組みを目指さねばならない。今年度の訓練の目的は、1. 「感染症対策を踏まえた避難所運営（特に受付の場面に焦点を当てる）」とし、参加者においては、2. 「感染症にかからない避難行動が取れること」とした。また、昨年度の訓練実施の課題を踏まえ、3. 「避難者が参画する、柔軟な避難所運営」についても目的に加えた。具体的な訓練内容としては、1) 感染予防対策を講じた、避難者の受け入れ（受付までの動線と受付対応）、2) 感染予防対策を講じた、避難者の一般避難者エリアへの誘導及びエリアでのアセスメント（感染の疑いのある避難者への対応）、3) 被災者ニーズの変化に応じて、スタッフの役割分担を交代しつつ、避難者も主体的に役割を担うよう、柔軟な連携・協働体制で運営できるようにする。4) 本部との連携と情報共有、とした。

#### (4) 評価

メールにて参加教員に意見や改善点を伺い、得られた主な内容は以下のとおりである。まず、Part1では、① E311への教員と学生避難について、教室内の機器や文書類が多く、散乱することが予測されるため、実際に避難することは困難ではないか、余震でさらに危険な場所となる可能性がある、②避難経路については、実際に自動ドアは作動しないと思われる。訓練においても、

## 委員会活動年度報告書（災害対策プロジェクト）

その状況を想定し、緊急解除の方法を使って自力で開ける訓練を行ってはどうか等、であった。

Part 2においては、①健康相談ブースの感染対策で使用したパーテーションと透明の黒板の使用については、声が聴きづらく、両者とも設置しない方がよいのではないか、②受付や健康相談ブースには、予備のマスクや水を備えておく必要がある、③2階倉庫の備蓄一覧表内に商品名の説明を明記しておくとスムーズに備品を取り出すことができる、④アセスメントシートについては、記入後の管理徹底や項目へのふりがなの表記を付ける、⑤訓練の事前準備や片付けについては、避難所運営支援チーム全員で実施した方が実際の災害時に活かされる、⑥震災時の避難所運営支援への意思確認の必要性を感じる等であった。

以上、参加教員の意見や課題チェックリストの確認、防災委員の振り返りを踏まえ、避難所支援チームの目的と訓練内容は総じて達成できたと考える。しかし、上記に記した貴重な意見や改善点については、検討が必要であり、次年度の課題である。また、今年度も学部教員一人ひとりが体育館2階の備品保管場所（倉庫NO9～11）や鍵保管場所ボックスの解除ナンバーを記憶に留めておくことの重要性が確認できた。誰もが共通認識をもちながら、いつでも人権と尊厳に配慮した避難所運営の支援ができるよう、そのための訓練を今後も引き続き行っていく。

### （5）当日の様子



開始前にそれぞれの担当役割を確認する



健康相談ブースでのシミュレーション

## 2. 社会福祉学部における災害福祉教育

学部専門科目のなかの災害福祉に関する教育内容を学部教員間で共有した（2月教授会）。地域福祉論II（2コマ）、社会福祉の原理と政策II（1コマ、以下同じ）、女性福祉論、認知症の理解II、ケアマネジメント演習、社会福祉基礎演習（リカレント教育講座としても実施）の6講義科目で災害に関する教育に取り組んだ（受講生延べ324人）。

### ○次年度に向けて

本年度実施されたコロナ感染対策を講じた訓練の評価によって得られた課題をもとに、今後の改善策を検討し、積極的に導入していきたい。複合災害を想定したマニュアルの検証を行い、実用的なマニュアルにしたい。加えて、他学部のメンバー間との連携強化を図っていきたいと考える。本学部における災害福祉教育については引き続き、学部専門科目で取り組まれている災害教育の内容について教員間で共通認識を深めていきたい。

# 総務・予算委員会

## 西 内 章

総務・予算委員会は、委員長を西内が担当し、宮上学部長、西梅准教授、辻講師、田中助教、大熊助教で構成した。本年度に行った業務は、以下のとおりである。いずれも学部事務職員の協力を得て取り組んだ。

### 1. 活 動 内 容

#### ① 「連絡会・教授会」の資料準備及び運営

- 開催計画、議題および資料等の整理、議事メモの作成等を行った（計24回）。

#### ② 学部棟・看護福祉棟等施設・備品の整備

- 例年同様、社会福祉学部棟3階4階に設置してあるコピー機及び印刷機について、各教員のコピーライフ充當分として年度当初に一定額を確保し、使用枚数分の予算確保・調整を行った。

- E414教材作成室に除湿機を設置した。

- 学部関連設備では、E102・E103・F207のホワイトボード、F207のプロジェクター、学生自習室のパソコン、介護実習室のギャッジベッド・マットレス、車いす等を新装した。

#### ③ 学部日常事務の対応

- 寄贈資料・郵便物の整理、回覧等の仕事に対応した。

#### ④ 『令和3年度社会福祉学部報』発行

- 令和3（2021）年度『社会福祉学部報』（自己点検評価資料・第24号）の冊子媒体100部を作成し、関係各所に配布した。

#### ⑤ 学生教育用図書・資料等の充実

- 学部・大学院の学生教育用予算等を活用して、図書館を通じて定期購読している研究雑誌の拡充及び研究図書の充実を図った。

- 国家試験対策用図書や学内実習用教材、社会福祉に関する基礎文献等を福祉実習支援室に配置して資格関係教材・資料等の充実を継続的に図った。

#### ⑥ 宮上多加子教授の最終講義

- 3月25日（土）に宮上多加子教授の最終講義を大講義室及びZoomのハイブリッド方式で実施した。①高知女子大学保育短期大学部・高知女子大学・高知県立大学社会福祉学部の在学生と卒業生、②高知女子大学大学院・高知県立大学大学院の在学生と修了生、③社会福祉現場で活躍されている皆様等が参加した。宮上先生が携わった高知女子大学保育短期大学部の当時の様子、高知女子大学社会福祉学部の設置時の様子、高知県立大学社会福祉学部設置に至る経緯等を振り返ることができた。

### 2. 今 後 の 課 題

本年度も新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、年度当初に計画した学部行事をZoom開催等に変更して実施した。また授業や実習も予定通りの形式で実施できず、高知県内の新型コロナウイルス感染状況に応じて喚起を徹底する等、学部内の感染対策を徹底する必要があった。総務・予算委員会としては、教務委員会、実習委員会等と予算の執行状況を常に確認して適切な執行に努めた。

次年度は、ほとんどの学部行事を対面開催で実施できることから、昨年度までとは異なる運営と予算管理になると予測している。コロナウイルス感染拡大前の状況に戻ることを想定しながら、学部運営の補助及び設備・備品管理と、学部の重点事項への適正な予算配分に務めなければならない。

# 国試対策支援委員会

西梅幸治

## ○本年度の取り組み

本年度の国試対策支援委員会は、委員長を西梅が担当し、加藤講師、稻垣助教、大熊助教、片岡助教、田中助教、玉利助教、福田助教で構成した。

### （1）4回生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②受験対策スケジュールの確認、③過去問解答・模擬試験の実施、④国試対策講座開催への支援、⑤ソ教連などからの受験情報の周知、⑥国試対策勉強会実施への支援、⑦個別面談などの取り組みを行った。

月	概要
4月	国家試験に関するガイダンス（4/5）
5月	国試対策週間（過去問4/28-5/13）・参考等テキスト購入
6月	国試対策週間（過去問6/6-6/22）
7月	国試対策週間（過去問7/11-7/29）、個別面談
8月～9月	「受験の手引」解説・模擬試験（介護福祉士8/5） 「受験の手引」解説（moodle：社会福祉士・精神保健福祉士8/26）
10月	卒業生による受験体験報告（10/1）、 模擬試験（高知県社会福祉士会10/10）
11月	介護福祉士国試対策講座（11/4） 模擬試験（日本ソーシャルワーク教育学校連盟10/28・10/29）
12月	介護福祉士模擬試験解説・国試対策（12/6）、受験対策直前web講座周知 卒業生による受験体験報告（12/22）、模擬試験（中央法規12/26） 国試対策講座、対策講座DVD貸出、個別面談、学内国試対策勉強会（12/21）
1月	学内国試対策勉強会（1/5・1/6）、個別面談 介護福祉士国家試験（1/29）、自己採点集計（2/15）
2月	社会福祉士・精神保健福祉士国家試験（2/4・2/5）、自己採点集計（2/15）
3月	合格発表（社会福祉士・精神保健福祉士3/7、介護福祉士3/24） 卒業後の手続きに関する説明・資料配布（3/20）

## 委員会活動年度報告書（国試対策支援委員会）

### （2）卒業生への国試対策支援

主に、①事務手続きの説明、②模擬試験などの案内・送付、③教科書や参考書などの貸出、④国試対策講座などの情報提供、⑤個別相談の受付などの取り組みを行った。

### （3）2022年度の国家試験合格率

#### 1) 社会福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
89	67	75.3%	62	54	87.1%	27	13	48.1%

合格順位：全国 21 位（既卒含）、全国 30 位（新卒のみ）／205 校（総数での学校数）

合格基準点：90 点（満点 150 点）

全国平均合格率：44.2%

合格順位：全国 4 位／46 校（受験者 50 名以上・新卒）

#### 2) 精神保健福祉士の合格率について

総数			新卒			既卒		
受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率	受験者数	合格者数	合格率
18	17	94.4%	17	16	94.1%	1	1	100%

合格順位：全国 5 位（既卒含）、全国 19 位（新卒のみ）／90 校（総数での学校数）

合格基準点：95 点（満点 163 点）

全国平均合格率：71.1%

合格順位：全国 6 位／34 校（受験者 15 名以上・新卒）

#### 3) 介護福祉士の合格率について

総数（新卒）		
受験者数	合格者数	合格率
14	14	100%

合格基準点：75 点（満点 125 点）

全国平均合格率：84.3%

### ○今後の課題

今年度も、新型コロナ感染症流行に伴い、大幅に実施内容を変更することとなった。教室確保の難しさもあったが、模擬試験や学生が中心で進める国試対策講座、国試対策勉強会を実施することができた。また例年同様、個別面談を前期・後期とも実施し、必要に応じて定期的に相談・助言を行った。その結果、今年度は社会福祉士の合格率が大幅に上がった。合格基準点が是正されたこともあるが、学生個々の努力の成果といえよう。卒論や就職、実習などとの兼ね合いもあるが、国試対策の課題を整理し、支援体制を引き続き充実させていきたい。



# IV

学生を中心とした活動



# 社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士 国家試験に向けての取り組み

## 国試対策講座について

本年度の国試対策講座では、学生に希望科目についてのアンケートを実施し、要望の多かった9科目を先生方に開講していただきました。これまでの出題傾向を基に科目全体を網羅的に講義していただき、自己学習だけでは難しい内容もポイントを抑えながら理解することができました。また、効果的な学習方法や国家試験に即した練習問題なども提示していただいたことで、自分の得意・不得意な分野を理解して勉強することができました。

本年度は新型コロナウイルス対策として、対面とオンラインの双方を活用した講座となりました。対面時にはビデオ録画を行い、就職活動等により当日参加することができなかつた学生も講座を受講することができるよう努めました。対面・オンライン双方において、先生方には分かりやすい資料や音声、授業を準備していただいたことに加え、授業前後には質問や相談を受け付けていただきました。そのため、分からぬ部分をそのままにせず、しっかりと理解したうえで自己学習につなげることができました。

## 国試対策について

新型コロナウイルスの影響により、例年行われていた国試対策合宿の開催が困難であったため、昨年度と同様に学内での国試対策勉強会を実施しました。本年度は、卒論から国試の勉強へと本格的に切り替わる12月21日に1日、お正月休み明けに2日（1月5・6日）行い、多くの学生が自主的に国試対策に取り組みました。勉強会の開催にあたり、ゼミ室の使用人数を制限し、空き教室を開放するなどの感染予防策を講じることで学生が安心して勉強会に参加できるよう努めました。

国試対策勉強会は、国試勉強に励む学生達が集まり、切磋琢磨しながら同じ目標に向かって努力することができる良い機会です。もちろん、一人で勉強する時間を確保することは重要ですが、友人と情報共有をしたり、勉強方法や悩みなどを共有できる環境はとても有意義なものです。長期間に及ぶ国試勉強の日々を仲間と助け合いながら、共に高め合ってほしいと思います。

## 後輩のみなさんへ

国試に向けての1年間は、目標とそれを達成するための計画を立てながら課題に向き合っていくことが重要です。早い段階から先々の見通しを立て、計画的に取り組んでいくことで、限られた試験期間を有効に活用することができるでしょう。また、毎日短時間でも試験勉強に取り組む時間を確保し、習慣づけていくことで、自分に合った勉強方法や1日のスケジュールを早期から見つけていってほしいと思います。

4回生は、国家試験以外にも実習や卒論、就職活動など、並行して行っていかなければならぬことが数多くあり、様々な悩みや苦悩があると思います。時には、自分と周囲の人を比べ、焦ったり、孤独を感じることもあるでしょう。そのような時、一人で抱え込むのではなく、友人や家族、先生方など身近な人達の力を借りながら、自分のペースでじっくりと課題に向き合ってみてください。そして、支えてくれる人達に感謝しながら、自分の精一杯の力を出しきれることを祈っています。

## P シ ス タ ー ズ

地域活動サークル「P シスターズ」です。私たちは、本学にある「立志社中」というプロジェクトに加入し、県内の幅広い地域で活動を行っている団体です。P シスターズは、地域住民の「主体性」を何よりも大切にしながら、住民の「やりたいこと」の実現を目的として活動しています。昨年度は、安芸市東川地区、三原村、津野町に加え、高知市三里地区で新たに活動を始めました。

### ◇安芸市東川地区

地域の伝統文化である「獅子舞踊り」を地域住民の皆さんから直接指導をいただきながら練習を行い、学生が担い手となって伝統を継承しています。



### ◇高知市三里地区

池キャンパスのある高知市三里地区での活動は、生活支援ボランティアさんからの「学生と一緒になにかしたい」というお声がきっかけとなり、はじめました。生活支援ボランティアさんと、現地踏査やグループワークをする中で、学生が地域づくりのアイデアを出し、フィードバックをいただいている。



その他にも、三原村や津野町などで活動しています。三原村では学生が考えた健康体操や PR 動画をより良いものにするため、地域住民の皆さんにアイデアを頂きました。また、中山間地の移動問題について、津野町の住民さんの声を聞かせていただきました。

P シスターズは、SNS でも活動の様子を公開しています。ぜひ、ご覧ください。

Instagram psis.u\_kochi Twitter : @P29045067

## 池手話サークル

私たち、池手話サークルは週1回、社会福祉学部棟の一室を使用し、活動を行ってきました。普段の活動内容は、指文字の練習をしたり、日常で使えそうな会話文や簡単な単語を覚えたり、発表会に向けた手話コーラスの練習をしています。主に昼休みに活動しているため、お昼ご飯を食べながら楽しく練習をしています。また、高知県聴覚障害者協会青年部（以下、手話青年部）の方々と交流をしながら、楽しく手話を学んでいます。

昨年度の1月末に行われた手話青年部の方々との交流会は、対面で行うことができ、本校の体育館でバレーをしたり、手話を使って雑談をしたりなど、楽しい時間を過ごしました。また、3月初旬には耳の日記念集会に参加させていただき、そこで手話コーラスを披露しました。イベントまでの日々の活動では、活動がより良いものになるように、みんなで意見を出し合いながら活動しました。

一昨年度は新型コロナウイルスの影響で活動が制限されていましたが、昨年度は通常通りの活動ができるようになりました。私たちにとっては初めてのことばかりで戸惑うことでもたくさんありました。手話青年部の方々の協力もあり、イベント等を無事に終えることができて嬉しく思っています。ろう者の方々に手話を学びながらコミュニケーションができる機会はあまりないので、非常に貴重な経験になりました。

サークル規模の拡大もできればと考えています。手話サークルは、社会福祉学部の学生を中心に活動していますが、他学部も大歓迎です。様々な場所で手話を披露していくことで、手話に興味を抱く学生が増えていくよう、精一杯頑張っていきますので、今後の活動を温かく見守って頂きたいと思います。よろしくお願ひします。



## イケあい

2012年より活動を開始した、イケあい地域災害学生ボランティアセンター（以下：イケあい）は東日本大震災の復興ボランティアに参加した学生らによって作られた防災サークルです。

団体の活動目的は、災害時に大学周辺での被害を最小限にとどめ、いち早く復旧させることです。そのために、災害時にスムーズに支援を入れるよう日頃から地域との信頼関係を築くことや、災害ボランティアセンターで中核となる人材を育成すること、活動や情報の発信によって地域や大学での防災啓発などを行っています。

しかしイケあいでは、近年コロナ禍の影響により満足にイベントや災害ボランティアセンター模擬運営（以下：ボラセン模擬運営）等を行うことができていなかったため、イケあいのメンバー全体で災害に対する知識が不足しているという課題が挙がっていました。そこで今年度は外部講師をお呼びし、大学内での勉強会やボラセン模擬運営の機会を増やし、学生の災害に関する知識や災害時における自分たちの役割を学ぶことから始めました。ボラセン模擬運営に関しては、実際にロールプレイ形式で行うことで大まかな流れや相手を思った声かけの重要性を学ぶことができました。その学びを活かすべく、高知市災害ボランティアセンターネットワーク会議の一員として、ボラセン模擬運営に参加した際には、さまざまな団体が参加しているからこそその情報共有の難しさ、一方で協働するからこそ自分たちの知識や経験を活かした運営ができるのだとも考えさせられました。イケあいの学生がこれまで受け継いできた知識や経験を災害時に発揮し、活躍できる人材となれるよう、今後も勉強会やボラセン模擬運営等は積極的に行っていくことはもちろん、イケあいの歴史を次の世代につなげていくことも私たちの大きな役目であると感じました。

また、今後予想されるコロナにおける制限の緩和や、生活様式の変化にイケあいは柔軟に対応し、来年度からは地域の人々を巻き込んだ活動を積極的に行うことで、地域の人々とイケあいがともに支え合いながら地域全体で‘防災力’を高めていけたらと考えています。

「楽しいからはじまる防災を大切に！」をモットーとして掲げるイケあいは、災害から生き抜き、前に進んでいくためには何ができるのかを常に考えながら、これからも活動を続けていきます。



## かんきもん（土佐弁：元気者）

---

かんきもんは、子どもから高齢者まで障害の有無、住んでいる地域に関係なく誰もが暮らしやすいコミュニティ、『地域共生社会』をめざし活動しています。今年度はコロナの状況も収まり、状況をみながら対面での活動を実施することができ、より地域の方と交流を深めることができました。今年度の活動は「援農」「シグマ」「タウンモビリティ」「学習支援」「傾聴」の5部門が前年度よりも濃密に、学生企画を交えながら活動を行うことができました。

### ◇援農

例年行っている一部の活動は新型コロナウイルスの影響で中止になりましたが、安芸市でのゆずとり援農隊ボランティアや、四万十市バラ園での活動を行うことができました。学生は主体的に活動に取り組み、地域の特性を学んだり、農家さんの大変さや思いを知ることができ、1人1人が地域について自身で考える経験となりました。

### ◇シグマ

シグマは、子ども食堂の活動を行っています。2022年度は「ミーム club」と「みつばち」という2つの子ども食堂で感染症対策を行いながら運営をお手伝いさせていただきました。子どもたちの居場所として子どもたちが安心して過ごせる空間を作るために工夫して取り組んでいくことができました。子どもたちだけでなく、地域の方とも交流でき活気ある活動となりました。

### ◇タウンモビリティ

毎月NPO法人「ふくねこ」の利用者と対面やzoomで交流を行いました。片麻痺、視覚障害、引きこもり、車椅子ユーザーなど様々な方の話を聞き、それぞれの意見を深め合うことで机上だけでは分からぬ当事者理解につなげることができました。また、今年度は七夕(工作)やクリスマス(ボッチャ)に学生が考案したイベントを初めて実施し、今までよりも学生と利用者間の親睦を深める機会となりました。

### ◇YCPK : (Young Crime Prevention in Kochi)

高知東警察署と連絡を取りながら、少年犯罪、防犯に対する意識の向上に取り組んでいます。また、防犯かるたの普及にも取り組んでいます。今年度は活動できませんでしたが、コロナの状況も収まってきているため来年度に向けてまた活動の見直しをしていきます。

### ◇学習支援

昨年度に引き続き、土佐市の小中高生を対象に学習支援ボランティアを行ってきました。勉強面のサポートのみならず、子どもたちにとってサードプレイスになるような居心地の良い環境作りに努めています。昨年度は新型コロナウイルスの影響で活動が一時中断することもありましたが、クリスマス会も開催することができました。今後も子どもたちのために自分たちができることを考え、継続的に関わっていきたいです。

### ◇傾聴

今年度は高知市内にあるグループホームで傾聴活動を行いました。感染症の影響がやや落ち着いた、昨年11月と12月に訪問して、利用者の皆さんと交流することができました。マスクの着用や手指消毒など感染症対策に気を付けながら、会話を楽しんだり一緒にいきいき百歳体操をしたりしました。今後も月2回程度を目度に活動を続けていきます。

以上の通り、かんきもんは、子ども、障害者、高齢、過疎地域住民など、支援を要する人の地域生活の質を良くする活動に取り組んできました。

## Society For Everyone

高知県立大学国際協力サークル Society For Everyone は、国際協力について考える団体です。私たちは、イギリスに本拠地を持つ、Oxfam という NGO 団体の理念に基づいて活動しています。

Oxfam は「貧困のない公正な社会の実現」を目指しており、募金活動や人道支援、チャリティーコンサートなど、様々な活動をしています。しかし、Oxfam の活動は日本ではまだあまり浸透していないほか、日常生活において貧困の現状について情報を得られる機会は少ないです。



そのため SFE では、国際的な現状や課題についての気づきをより多くの人に起こすことを目標に活動しています。貧困を抜け出し、豊かな生活を得るためにには、世界中の人人が参加する協力体制が必要です。私たちはオックスファム・クラブとして国際的な視点からの課題と向き合うイベントを企画し、食糧問題、貧困問題を体感し、高知というコミュニティから変革を図っています。

昨年度も、新型コロナウイルスの影響で活動が制限されてしまい、例年おこなっている世界の子どもの教育の現状について考える世界一大きな授業や地産地消が貧困解決の参加の一つであるという考え方のもと、南国市で育てたサツマイモをつかったサツマイモアイスの学際販売、エイズ蔓延の防止やエイズ患者に対する差別・偏見をなくすことを目的としたエイズデーでのフォトアクションなどの実施ができず、SFE として思うように活動をすることができませんでした。しかし、Oxfam で活動されていた方とクラブミーティングという形で国際問題に限らず、ジェンダーや日々の暮らしで見えてくる課題、自分自身について振り返ったり意見を交わしたりなど、会えない環境下でできる活動に力を入れることができた 1 年だったと振り返ります。また、1 度ではありますが、今年度は対面でのクラブミーティングも実施することができました。



現在部員数は 4 回生 1 名、3 回生 2 名 計 3 名で、高知県立大学池キャンパスで活動しています。今年度は 2 人での活動のため、新規部員を増やすため広報活動もしていきたいと思っています。

また、今年度は昨年度と同様にオンラインなどを活用するとともに、対面での活動も増やし、多くのイベントを積極的に開催しようと企画しています。たくさん的人に国際的な現状について考えてもらえる機会を増やしていくための活動にも積極的に取り組んでいきたいです。

## 新型コロナウイルス感染症の影響

---

令和4年度も、昨年に引き続き新型コロナウイルス感染症のため、さまざまな活動が中止や延期となった。学生間交流を目的とした学内行事はもちろん、学外活動においてもイベントの中止や方法の変更、規模を縮小するなどの工夫をして行われた。特に、高齢者や障害児者は感染症による影響が大きく、福祉施設ではやむを得ず家族の面会禁止や制限などの対応を行っている。

本報告書『高知県立大学社会福祉学部報』に例年掲載している、障害者スポーツ大会や高知ふくし総合フェア、障害児の修学旅行、福祉施設などで行われるボランティア活動、サークル活動などにも影響があった。学生にとって地域や福祉現場で体験する機会が減少している。

これらの背景から、今年度も報告ができなかった学生を中心とした活動は、以下である。

- ・国際交流
- ・学外イベントへの参加
- ・ハモ☆イケ
- ・ボランティア活動
- ・修学旅行ボランティア



# V

卒業論文題目一覧(2022年度)



令和4年度社会福祉学部社会福祉学科卒業論文題目

題 目
少年非行の要因と再犯防止のための取り組み～中学校期間の大切さ～
介護職員の組織適応に関する研究－ニ次データを用いた定量的分析－
成年後見制度における医療同意－その可否、範囲をめぐる議論の整理－
大人の発達障害といわれる人々への支援—グレーゾーンと呼ばれる人々の生きづらさ—
認知症高齢者の徘徊支援
場面緘黙症の人への支援に関する文献検討—場面緘黙児の心理生活支援に着目して—
地域小規模児童養護施設職員が直面する課題への対応方法
コロナ禍におけるグリーフケア
音声コミュニケーションが困難な自閉スペクトラム症児—相互的なコミュニケーションの支援を中心とした文献的検討—
在宅要介護高齢者の食生活に関する課題と支援
過疎地域における住民自治活動と「住民主体」
妊娠婦が抱える問題と乳児虐待の要因との関連性—そこから見える社会問題の考察—
「インクルーシブ教育を遂行するために解消すべき、障害児保護者の感じる課題に関する一研究」
中学校での性の多様性教育や隠れたカリキュラム問題の解消のためのクィアペタゴジ—自身の問い直しを通して受容する教育実践に向けて—
出生前診断に対する若い世代の意識に関する一考察—大学生の意識調査から—
コロナ禍の女子生徒の自殺の動向と学校における支援についての一考察
地域子育て支援拠点が子育て中の母親にもたらす効果—コロナ禍に着目して—
性暴力被害の現状と整えるべき支援についての文献的検討
農福連携の活用によるひきこもりの自立支援—高知県安芸市の取り組みに着目して—
マイノリティに対する福祉—人種差別の歴史と現状を通して—
認知症高齢者の尊厳の保持に関するケアの一考察—パーソンセンタードケア・バリデーションケア・ユマニチュードケアに焦点をあてて—
郡部地域における地域住民同士のつながりを活かした民生委員の活動に関する研究
配偶者を自宅で介護する高齢男性介護者への支援について—夫婦間の関係性に着目して—
新型コロナウイルス感染予防対策がコミュニケーションに及ぼす影響～施設で暮らす高齢者に着目して～
知的・発達障害児・者のきょうだい児・家族支援の現状と課題～筆者の経験を交えて～
地域住民同士の「安心できるゆるやかなつながり」とその意識に関する研究
MSWによる身寄りのない患者への意思決定支援の現状と今後の課題
介護職員の職務満足がケアの質に及ぼす影響
家族介護者による在宅高齢者の虐待発生までのプロセスとは
性的マイノリティに関連するマイクロアグレッションの構造とその発生要因
ソーシャルワーカーの課題と展望に関する考察～ソーシャルワークの起源と専門性による分析～
福祉の現場にある宗教と支援者としてのかかわり方
性的マイノリティの老後の課題について
ASDグレーゾーンの生きづらさと福祉的支援
児童養護施設における児童指導員のバーンアウトの予防に関する現状と課題

特別養護老人ホームに入所する高齢者の終末期支援に関する一考察
利用者支援事業「基本型」の運営体制及び連携のあり方と利用者支援専門員の専門性—2つの自治体に対するインタビュー調査から—
在宅の認知症高齢者の家族が抱える心理的な介護負担と対処方法
要介護高齢者の心身機能の変化と役割支援
セクシュアルマイノリティへの理解～マイノリティ共感の可能性～
ワーキングプアが直面する生活課題と対応策
受刑者に対する支援の重要性に関する一考察—犯罪の背景に目を向けて—
知的障害児・者に対する性教育・性支援の現状と課題
相談支援専門員による重症心身障害者への意思決定支援の取り組み
子育て場面における音楽遊びの効果と可能性
森林環境が高齢者のQOLに与える効果の研究—高齢者福祉における活用例をもとに—
居場所の定義
利用者目線で考えた福祉用具の改良がニーズを持つ高齢者やその家族にもたらす効果
地域におけるソーシャルワーカーの働きに関する一考察—都市部と山間部の比較から—
障害特性による性被害リスクの関連性に着目した包括的性教育について
統合失調症患者の対話を用いたアプローチについて
精神疾患を抱える親を持つ子へのソーシャルワーク支援—家族支援を中心に—
「グルーミング」処罰規定の法制化に向けた現状と課題
介護殺人に関する文献研究—家族介護者への支援のあり方を考える—
移動・生活支援サービスを行うボランティア団体に関する一考察—NPO法人さわやか高知の取り組みに着目して—
災害時における多様な要配慮者への捉え方と取り組みへの研究
身体的虐待をした親の支援方法—親の動機づけを高めるために—
発達障害児・者の発達段階に応じた課題とその療育・支援についての一考察
認知症高齢者における化粧療法の効果と方法
災害時におけるホームレス支援に関する一考察
生活困窮者世帯の若者の高等教育機関への進学前・進学後における課題—キャンパスソーシャルワーカーの支援の可能性の検討—
日本における安楽死問題—死を望む患者にMSWができることとは—
高次脳機能障害者とその家族への支援
児童養護施設で暮らす発達障害のある子どもの放課後等デイサービス利用に関する意義と課題
スクールソーシャルワークにおけるHighly Sensitive Childに対する支援の現状と課題—小学生の子どもを支援対象として—
医療的ケアを必要とする重症心身障害児の家族支援—医療的ケア児支援法の成立に着目して—
労働ソーシャルワークにおける解決志向アプローチの適用と課題
「災害支援者支援」とはなにか—先行研究レビューにもとづく整理から—

## 編集後記

社会福祉学部報第25号をお届けします。

本学部報は、令和4年度における社会福祉学部の活動や所属教員の教育研究活動、各種委員会や学生による活動の実績などをまとめたものです。ぜひご一読いただければ幸いです。

令和4年度も、令和3年度同様、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けました。講義や演習等の大学授業も遠隔授業と対面授業のハイブリッド方式で実施しました。配属実習については、実習先と相談し、実習時期の延期・中止したところもありましたが、年度末までに概ね予定通り実習を終えることができました。学生にとってはかけがえのない貴重な実習体験ができました。心より御礼申し上げます。

また学生のサークル活動やボランティア活動等の課外活動についても制限されたものとなりました。予測できない厳しい状況下においても、社会福祉学部は学部長を中心に各教員、学生が必要なことを考え、今できることを実践しました。次年度は、感染対策が緩和されると思いますのでコロナウイルス感染拡大前のような地域での活動も増えると思います。

4回生の国家試験についてご報告いたします。社会福祉士の合格率は87.1%（新卒のみ）でした。また精神保健福祉士の合格率は94.1%（新卒のみ）、介護福祉士の合格率は100%でした。次年度も学部による国家試験のサポートは継続いたします。

社会福祉学部は、学部創設以来、福祉の現代的課題を見据え、深い人間理解や人権尊重の精神に裏打ちされた専門的知識と実践的知識と実践的技能を教育・研究している学部です。社会福祉学部のディプロマポリシーやカリキュラムポリシー、アドミンションポリシーにあるように三福祉士の専門職養成だけでなく、変化する社会状況下でも思考・行動できるような教育を目指しています。

今後とも、社会福祉学部の教育にご理解とご支援を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

社会福祉学部総務委員会 西内 章

## 高知県立大学社会福祉学部報

第25号

発行日：2023年6月1日

発行者：長澤 紀美子（学部長）

編集：社会福祉学部 総務委員会

高知県立大学社会福祉学部  
〒781-8515 高知県高知市池2751-1  
Tel 088-847-8700（大学代表）  
Tel 088-847-8757（学部代表）  
Fax 088-847-8672（学部専用）





